

1. 科目名 (単位数)	教育学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5102
2. 授業担当教員	江津 和也	5. 開講学期	春期
4. 授業形態	講義	履修形態 (通信教育)	R
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>本講義では、教育学の諸領域について理解するとともに、「子ども」の捉え方について深化をはかり、修士論文作成へ向けた各自の研究に資するために以下の内容を取り扱う。</p> <p>まず、1) 教育学という学問の性格とその領域について考察する。次に、2) 教育学の諸領域から「子どもと教育」にかかわるトピックをいくつか取り上げ、「子ども」をとりまく諸問題について考察する(受講者の興味関心も適宜踏まえる)。また、3)、教育学の一領域である教育史研究の成果に学び、歴史の相の下、現代の子どもやそれをとりまく状況について考察したい。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 教育学という学問とその諸領域について理解する。</p> <p>2. 教育学において「子ども」はどのように研究されてきたか、また研究されているか理解する。</p> <p>3. 教育史研究の成果に学び、歴史の相の下に現代の子どもや教育課題について考察できるようにするとともに、子ども理解の深化をはかる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート1 提出期限 : 12月15日必着 設題: 教育学とは何か 教育学を学ぶ意味について 『教育学をつかむ』(「序 教育学とは何か」) や『ヒューマニティ教育学』の記述を参考にして、教育学という学問について説明しなさい。また、子どもや子どもをとりまく問題について考察していく上で、教育学を学び、そして研究することの意味や可能性を自分の研究課題と関連づけて述べなさい。 *字数 1500~2000 字</p> <p>レポート2 提出期限 : 12月15日必着 設題: 戦後日本における子どもと教育の展開 戦後70年間、日本の社会は大きく変動し、それとともに子どもを取り巻く教育も変化を遂げていった。この社会変動とそれともなう子どもおよび教育の変化について述べなさい。『教育学をつかむ』(第2章) および参考文献教冊(『ヒューマニティ教育』138頁において紹介されている文献など)を読んで論述すること。 *字数 1500~2000 字</p> <p>レポート3 提出期限 : 12月15日必着 設題: 近代的孩子観について(近代の産物としての「子ども」) 「子ども」は近代の産物といわれるが、これはどのようなことを意味しているか。このことについて近代以前の子ども観についてもふれながら説明しなさい。『教育学をつかむ』(第1章、第3章) および参考文献(同書において紹介されている文献など)を教冊読んで論述すること。 *字数 3000 字程度</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』(有斐閣) ・広田照幸『ヒューマニティーズ 教育学』(岩波書店) <p>【参考文献】</p> <p>上記のなかで読書案内として紹介されている書籍はレポート作成の際に参考になる。その他、田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』(東京大学出版会)、中野光・平原春好『教育学』(有斐閣)などは広く教育学について理解することができるとともに、発展的に学習するために参考文献が豊富に紹介されている。また、教育史研究については、教育史学会編『教育史研究の最前線』(日本図書センター)などが文献を探す際の参考になる。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>成績の評価は総計3本のレポートの総合評価によって決められる。</p> <p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート1 30% ・レポート2 30% ・レポート3 40% <p>評価基準にもとづき総合評価して計60点以上のものに単位を与える。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>児童学専攻の学生として、教育学という学問分野について理解し、関連する研究書や論文にも多く触れることができるようにしてください。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業中に指示する。</p>		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	教育学とは何か		
<p>【学習の目標】 教育学という学問分野および対象領域等について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育学の学問的性格や対象領域について考察し、子どもと教育について議論にあたって教育学の成果について学び、それをふまえることの意義について考える。</p> <p>【キーワード】 教育学、ペダゴジー、教育科学</p> <p>【学習の課題】 教育学者によって書かれた論稿を読み議論し、教育学という学問分野および対象領域について考察する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』『ヒューマニティーズ教育学』など</p>			
2. テーマ	教育とは何か 教育の概念		
<p>【学習の目標】 教育の概念について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育の概念について厳密に整理し、理解する。</p> <p>【キーワード】 教育、人間形成、形成、共同体のための教育</p> <p>【学習の課題】 人間にとって本質的な働きである教育の概念について厳密に考える。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』『ヒューマニティーズ教育学』など</p>			
3. テーマ	子ども観について		
<p>【学習の目標】 子ども観について理解する。</p>			

	<p>【学習の内容】 子ども観の変遷について、その歴史的、文化的背景とともに考察する。</p> <p>【キーワード】 子ども観、子ども中心主義</p> <p>【学習の課題】 子ども観の変遷について学び、その歴史的、文化的背景について知る。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
4 . テ ー マ	人間の発達と教育
	<p>【学習の目標】 発達の概念、発達と教育の関係について理解する。</p> <p>【学習の内容】 さまざまな発達の捉え方、発達と教育との関係について学習する。</p> <p>【キーワード】 成熟、生成、発達</p> <p>【学習の課題】 発達の概念、発達と教育の関係性について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
5 . テ ー マ	学校とは何か
	<p>【学習の目標】 近代学校の成立と特徴について学び、学校とは何か理解する。</p> <p>【学習の内容】 西洋と日本における近代学校の成立とその特徴について考察する。</p> <p>【キーワード】 近代化、学校、一斉教授</p> <p>【学習の課題】 近代学校成立の背景とその特徴について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
6 . テ ー マ	国民国家と教育
	<p>【学習の目標】 国民教育制度の成立とその展開について学び、国家と教育の関係を理解する。</p> <p>【学習の内容】 諸外国と日本における国民教育制度の成立とその展開、国家と教育の関係について考察する。</p> <p>【キーワード】 国民国家、国民教育、公教育、義務教育、教育勅語、教育基本法</p> <p>【学習の課題】 諸外国と日本の国民教育制度の成立と展開について学び、国家と教育の関係を理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
7 . テ ー マ	社会変動と教育
	<p>【学習の目標】 社会変動とともに変化する教育と子どもについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 戦後日本における社会変動に着目し、それにとともなる教育と子どもの変容について考察する。</p> <p>【キーワード】 高度経済成長、消費社会、情報化社会</p> <p>【学習の課題】 社会変動とともに変容する教育と子どもについて理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
8～9. テ ー マ	近代の教育思想
	<p>【学習の目標】 近代教育思想の特徴について理解する。</p> <p>【学習の内容】 今日の教育に影響を与えた代表的な教育家の思想について学習する。</p> <p>【キーワード】 コンドルセ、ペスタロッチ、ヘルバルト、ロック、ルソー</p> <p>【学習の課題】 代表的な教育思想家の思想に触れ、その特徴について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
10 . テ ー マ	学ぶということ
	<p>【学習の目標】 学ぶという行為の意味について理解する。</p> <p>【学習の内容】 歴史的に学ぶという行為がどのように捉えられてきたのかについて検討する。</p> <p>【キーワード】 ソクラテス、プラトン、デューイ</p> <p>【学習の課題】 歴史的に学ぶという行為がどのように捉えられてきたのか学習し、その意味について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育学をつかむ』 など</p>
11 . テ ー マ	教育史研究の検討（1）
	<p>【学習の目標】 教育史研究の対象領域と方法論等について理解する。</p> <p>【学習の内容】 幼児教育史研究の研究動向を把握する。また幼児教育史にかかわる論文を数点検討する。</p> <p>【キーワード】 幼児教育史、教育史研究</p> <p>【学習の課題】 幼児教育の歴史的研究の到達点等について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育史研究の最前線』 ほか</p>
12～13. テ ー マ	教育史研究の検討（2）
	<p>【学習の目標】 教育史研究の対象領域と方法論等について理解する。</p> <p>【学習の内容】 外国教育史研究の研究動向を把握する。また、論文数点について検討し、外国教育史研究において子どもや教育がどのように研究されてきたのか学ぶ。</p> <p>【キーワード】 西洋教育史、東洋教育史、教育史研究</p> <p>【学習の課題】 外国教育史研究の対象領域と方法、到達点等について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育史研究の最前線』 ほか</p>
14～15. テ ー マ	教育史研究の検討（3）
	<p>【学習の目標】 教育史研究の対象領域と方法論等について理解する。</p> <p>【学習の内容】 日本教育史研究の研究動向を把握する。また、論文数点について検討し、日本教育史研究において子どもや教育がどのように研究されてきたのか学ぶ。</p> <p>【キーワード】 日本教育史、近代、教育史研究</p> <p>【学習の課題】 日本教育史研究の対象領域と方法論、到達点等について理解する。</p> <p>【参考文献】 『教育史研究の最前線』 ほか</p>

1. 科目名 (単位数)	児童学研究基礎論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5101
2. 授業担当教員	岡野 雅子、関口 はつ江、岡村 弘、植地 正文、矢吹 芙美子		
4. 授業形態	オムニバス形式による	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>「全体としての子ども」の理念のもとで、多分に学際的な性格を持つ児童学は、子どもに関する総合的な学問として発展してきた。本教科目では、保育、教育、心理、保健・医療、福祉の諸領域を包括する複合科学としての児童学について理解し知識を深める。とりわけ、保育の現状と今後のあり方、初等教育の理念・原理、子どもが生きる生活世界や精神世界の把握、子どもの健全育成についての学術知見を取り入れながら、研究方法の基礎を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童学の動向と今後の課題及び研究法を考える。 ・保育や教育の問題を心理学的にアプローチする上で必要な研究方法を考察するとともに、乳幼児期学童期の発達を考える。 ・幼児教育実践の研究法を具体的に示し、その特徴と活用法を考える。 ・児童学を「表現」という観点からアプローチし、その研究方法についての基礎を習得する。 ・保健・医療の諸問題を分析・検討するための基礎的方法について学ぶ。 		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 児童学領域に関する研究法を解説することができるようになる。 2) 研究方法についての基礎的情報を得るとともに、子どもの発達について解説できるようになる。 3) 保育研究法を理解し、自己課題の研究計画に役立てることができるようになる。 4) 研究方法についての基礎的事項について、「表現」という観点から解説できるようになる。 5) 子どもの保健・医療に関する基礎的事項について発表できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>宿題： 1) 保育研究における質的研究の長所と短所について述べよ。(テーマ6終了時点で提出する。)</p> <p>2) 児童研究における研究目的と研究方法の関連性について述べよ。(テーマ6終了時点で提出する。)</p> <p>3) 音楽、造形、身体表現、コミュニケーション、それぞれの関連性について述べよ。 (テーマ9終了時点で提出する。)</p> <p>[各宿題は A4 判、横書き、3 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて提出すること。]</p> <p>レポート課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 発達心理学の研究法について述べよ。(テーマ3終了時点で提出する。) 2) 子ども理解における間主観的理解と客観的実証的理解の違いについて事例をあげて説明し、保育における間主観的理解の重要性を述べよ。(テーマ6終了時点で提出する。) 3) 表現とコミュニケーションの関連を幼児・児童の発達という観点から述べよ。 (テーマ9終了時点で提出する。) 4) 子どもに関する保健・医療上の課題を1つ選び、その課題の研究法について述べよ。 (テーマ12終了時点で提出する。) 5) 発達臨床及び児童学研究における研究法と研究倫理について述べよ。(テーマ15終了時点で提出する。) <p>[各レポートは A4 判、横書き、2 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて提出すること。]</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 浜田寿美男『子ども学序説』岩波書店、2009 年 2) 山内光哉『発達心理学 上』(第2版)ナカニシヤ出版、1998 年 3) 石黒広昭編著『保育心理学の基底』萌文書林 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 田島信元、西野泰広編著『発達研究の技法』福村出版、2000 年 2) 無藤隆、他(編)『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房、2004 年 3) 江川政成『経験科学における研究法略ガイドブック』ナカニシヤ出版、2002 年 4) 民秋言『保育原理：その構造と内容の理解』萌文書林、2006 年 5) 秋田喜代美他(編)『初めての質的研究法』東京書籍、2007 年 6) 鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会、2005 年 7) 岡村弘『国際比較幼児音楽論 “こどもの声” と “こどもの歌”』創言社、2001 年 8) 加藤英夫、平山宗宏、小林登編『母乳哺育』メディサイエンス社、1983 年 9) 岡村弘『芸術のコミュニケーション・テクノロジー』創言社、2001 年 		
11. 成績評価の方法	<p>(通学過程)</p> <p>レポート(論文)、宿題 70%</p> <p>受講態度、発表 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から学童期の発達には目をみはるものがあります。その内実について、折にふれ実際に子どもの観察をしてみても体験して下さい。 ・日常生活場面で子どもの行動特徴(周囲への関心の表し方)を捉え、子どもの立場から環境などを 		

	<p>考えてみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもは自己をどのように普段から表現しようとしているのか、その行動をよく観察することは大切です。その中で理論と実践の融合を図ってください。 ・保健・医療領域を基礎としたときの児童学研究の方法論を考えてみてください。
13. オフィスアワー	授業中に周知する。
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1. テーマ	(岡野 雅子) 幼児における発達の視点とこれらの研究
	<p>【学習の目標】 乳幼児期には、諸能力が著しく発達するが、その様相を知る。</p> <p>【学習の内容】 発達心理学の研究法についての概略を理解するとともに、発達の側面について、知識を得ることとする。</p> <p>【キーワード】 自然観察法、実験法、調査法、検査法、数量的分析・統計法、横断・縦断法</p> <p>【学習の課題】 発達心理学の研究法について学び、発達の各時期（周産期、新生児期、幼児期、児童期）の特色を知る。</p> <p>【参考文献】 山内光哉 1998 発達心理学 上「第2版」 ナカニシヤ出版 上田礼子 他訳 2003 保健医療職のための質的研究入門 医学書院 1-123 (Carol Grbich 1999 Qualitative Research in Health: An Introduction. Allen & Unwin Pry Lad) 平山 論 他 1993 発達心理学の基礎 I ミネルヴァ書房 また、各自、発達心理学関係の図書を見つけ読んでみる。かなり出版されています。</p> <p>【学習する上での留意点】 発達を規定するものは何かを洞察すると興味深く学べます。また、研究の構想の立て方と選択すべき研究方法との相互関係について考察することが重要であることを学んでほしい。</p>
2. テーマ	(岡野 雅子) 乳児期の発達を考える
	<p>【学習の目標】 乳児期の発達の様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 初期の発達に関する概略を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 身体・運動機能、知覚、知能、コミュニケーション、親子関係、社会性の発達</p> <p>【学習の課題】 乳児期の発達の様相について、キーワードからひとつ選びまとめる。</p> <p>【参考文献】 山内光哉 1998 発達心理学 上「第2版」 ナカニシヤ出版</p> <p>【学習する上での留意点】 乳児期、幼児期の各期で横断的に各領域の発達を対比すると、年齢段階における発達の理解が深まる。</p>
3. テーマ	(岡野 雅子) 幼児期・学童期の発達を考える
	<p>【学習の目標】 幼児期、学童期の発達について知る。</p> <p>【学習の内容】 幼児期、学童期の発達について学習する。</p> <p>【キーワード】 身体・運動機能、知覚、知能、コミュニケーション、親子関係、社会性の発達</p> <p>【学習の課題】 幼児期、学童期の身体・運動機能、知覚、知能、コミュニケーション、親子関係、社会性の発達について学ぶため、キーワードにあげた発達をひとつ取り上げ、文献を読みまとめる。</p> <p>【参考文献】 山内光哉 1998 発達心理学 上「第2版」 ナカニシヤ出版</p> <p>【学習する上での留意点】 学習の課題に取り組み、乳児期の発達で学んだ結果と対比することにより、児童における発達の経過が鮮明になってくるはず。できれば、幼稚園・保育園・小学校で3～4時間子どもの行動を見学するとレポートと対比しながら直接的な学習ができる。</p>
4. テーマ	(関口 はつ江) 保育研究における調査研究
	<p>【学習の目標】 保育研究において、調査による研究の進め方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 実践と研究。実践に役立つ研究法の選択。(2) 研究目的と仮説の立て方 (3) 研究方法の選択 (4) 調査項目の作成 (5) 妥当性、信頼性 (6) 結果、統計的処理 (7) 考察と結論</p> <p>【キーワード】 客観的研究 研究目的と方法の関連 統計的推計</p> <p>【学習の課題】 (1) 量的研究の意味を理解する。 (2) 研究計画の重要性、論理的・一貫性のある研究構想を理解する。 (3) 研究における抽象性と具体性、科学的合理性と実践することの関係を考える。</p> <p>【参考文献】 保育学研究掲載の最新の論文2, 3編を指定する</p> <p>【学習する上での留意点】 保育実践を客観的に分析することの意味をよく考え、研究結果が何を示しているかの解釈をしっかりとる。</p>
5. テーマ	(関口 はつ江) 保育研究における観察研究
	<p>【学習の目標】 保育の場における観察者の位置（参加観察）、観察対象のサンプリングのとり方など多様な観察方法を理解する</p> <p>【学習の内容】 (1) 研究目的と観察記録の取り方 (2) 記録の解釈 (3) 個別事例から一般化、普遍化へ</p> <p>【キーワード】 観察の視点と記録法 結果の解釈</p> <p>【学習の課題】 (1) 事実（あるがまま）に忠実であること、仮説を検証することの意味を理解する。 (2) 前回の学習とつなげて、観察された事柄と抽象化されたデータとの関連、実践と研究との関係を考える</p> <p>【参考文献】 保育学研究掲載の最新の論文2, 3編を指定する</p> <p>【学習する上での留意点】 収集した資料が表していることを客観的に読み取る態度をもつ。また状況や体験をありのままにまた、第三者にわかりやすく、文章化するよう心がける。</p>
6. テーマ	(関口 はつ江) 保育研究における質的研究

	<p>【学習の目標】 質的研究法による保育研究</p> <p>【学習の内容】 (1) 事例による研究法 (2) 参加観察者(保育者)の立場、幼児の見方(まなざし)、幼児自身の体験(内面)の三者の関連の仕方を考察する (4) 事例記録の書き方 (5) 記録の読み取り。</p> <p>【キーワード】 間主観的アプローチ、相互主体的、個別性、保育の関係構造</p> <p>【学習の課題】 (1) 実践事象の多様なレベルでの理解の仕方に気付く (2) 保育研究における主観性の意味を考える (3) 保育における間主観的理解、共感について具体的に理解する</p> <p>【参考文献】 鯨岡俊書 エピソード記述入門 東京大学出版会 L.リチャーズ(大谷・大杉訳) 「質的データの取り扱い」北大路書房</p> <p>【学習する上での留意点】 書かれた記録から、記録の周辺を推測し、他の解釈の可能性を考える態度を持つ。</p>
7. テーマ	(岡村 弘) 表現とコミュニケーションⅠ
	<p>【学習の目標】 表現を通じて乳児期・幼児期の発達の様相を知る。</p> <p>【学習の内容】 乳児期および幼児期の表現およびコミュニケーションについて学習する。</p> <p>【キーワード】 音楽、造形、身体表現、コミュニケーション</p> <p>【学習の課題】 キーワードをそれぞれ関連付けてまとめる。</p> <p>【参考文献】 岡村 弘 2001 芸術のコミュニケーション・テクノロジー 創言社 岡村 弘 2001 国際比較幼児音楽論“こどもの声”と“こどもの歌” 創言社</p> <p>【学習する上での留意点】 表現というものは、いろいろな分野が有機的な関連性をもって成り立っています。したがって、各分野別に学習するのではなく、総合的に見てゆくことに留意するように。</p>
8. テーマ	(岡村 弘) 表現とコミュニケーションⅡ
	<p>【学習の目標】 表現を通じて児童期の発達の様相を知る。</p> <p>【学習の内容】 児童期の表現およびコミュニケーションについて学習する。</p> <p>【キーワード】 音楽、図画工作、体育、国語、コミュニケーション</p> <p>【学習の課題】 キーワードをそれぞれ関連付けてまとめる。</p> <p>【参考文献】 岡村 弘 2001 芸術のコミュニケーション・テクノロジー 創言社 岡村 弘 2001 国際比較幼児音楽論“こどもの声”と“こどもの歌” 創言社</p> <p>【学習する上での留意点】 乳児期・幼児期の表現と、児童期の表現とを対比することによって、学習していくことが大切である。</p>
9. テーマ	(岡村 弘) 表現とコミュニケーションⅢ
	<p>【学習の目標】 表現について、研究法を理解する。</p> <p>【学習の内容】 表現の研究を念頭に研究論文のあり方について考えた上で、量的研究、質的研究、実践的研究の三つの型にわけ、まとめ方を述べ、論文作成上の注意事項と作成の手順について示す。</p> <p>【キーワード】 表現に関する縦断研究・横断研究、表現に関する量的研究・質的研究</p> <p>【学習の課題】 具体的な研究事例の中で、それぞれの研究の意味、方法の違いなどを文献を通じて調べてみる。</p> <p>【参考文献】 岡村 弘 2001 芸術のコミュニケーション・テクノロジー 創言社 岡村 弘 2001 国際比較幼児音楽論“こどもの声”と“こどもの歌” 創言社</p> <p>【学習する上での留意点】 短い時間の中で、論文作成上の手順について理解できるよう事前によく予習しておくことが必要である。</p>
10. テーマ	(植地 正文) 出生前小児科学研究の意義
	<p>【学習の目標】 出生前期の諸要因が小児期に影響を及ぼしていることを解説できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 先天異常発生防止の立場から、出生前期にみられる諸要因を検討し理解を深める。</p> <p>【キーワード】 出生前期、先天異常、小児期、発育・発達</p> <p>【学習の課題】 出生前期の発育・発達について論述せよ。</p> <p>【参考文献】 牛島廣治編著 2001 小児保健福祉学 新興医学出版社</p> <p>【学習する上での留意点】 過去に発表された出生前小児科学領域の論文や学説をただ信じ込まず、もう一度見直してみよう。</p>
11. テーマ	(植地 正文) 母乳哺育(breastfeeding)の意義
	<p>【学習の目標】 母乳哺育推進運動の意義について説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 母乳哺育の歴史の変遷を理解し、世界各国の母乳哺育実施状況を調べてみよう。</p> <p>【キーワード】 母乳哺育、栄養方法、母乳哺育推進運動、国際比較</p> <p>【学習の課題】 「三つ子の魂百まで」を3歳児神話として扱われている。そのことについてあなたの考えを論述せよ。</p> <p>【参考文献】 加藤英夫、平山宗宏、小林登(編) 1983 母乳哺育、メディサイエンス社</p> <p>【学習する上での留意点】 新生児・乳児期の栄養方法について誤解している医療従事者矢羽々親たちが多いため、もう一度考えを整理しておくことが大切である。</p>

1 2 . テーマ	(植地 正文) 子どもを取り巻く環境と疫学調査
<p>【学習の目標】 環境汚染が子どもに及ぼす影響について学ぶ</p> <p>【学習の内容】 環境汚染が子どもにどんな影響を及ぼしているか、その要因について調べてみる。</p> <p>【キーワード】 環境汚染物質、内分泌かく乱物質、先天異常、出生コホート研究</p> <p>【学習の課題】 環境庁が実施している出生コホート研究の意義について述べよ。</p> <p>【参考文献】 藤原 武男 2010 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)について 小児保健研究 69 (6)</p> <p>【学習する上での留意点】 コホート研究を実施するときは、過去の研究を検討し、同じ轍を踏まないようにすることが大切である。</p>	
1 3 . テーマ	(矢吹芙美子) 児童理解の方法としての臨床法・プロジェクト法について
<p>【学習の目標】 児童理解のための臨床法・プロジェクト法について進め方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 子どもの内面を理解するための実践方法を理解し、臨床者との関係が大きく問われることに配慮しながら、目的に合わせてそれぞれの方法が使えるようにする。</p> <p>【キーワード】 受容的・寄り添う、表出・表現</p> <p>【学習の課題】 遊びの姿、絵画法、CAT、ドールセラピー、遊戯療法、子どもとの心理劇などから読み取れたことを考えてみよう。</p> <p>【参考文献】 ・津守真 「子どもの世界をどう見るかー行為とその意味ー」 NHK ブックス ・戸川行男編 「早大版 CAT 幼児・児童用絵画投覚検査法解説」 金子書房 ・武藤安子編「発達臨床ー人間関係の領野からー」 建帛社 ・Hoey,B. Who calls the tune? : Psychodramatic Approach to Child Therapy. Routledge, London and New York</p>	
1 4 . テーマ	(矢吹芙美子) 実践研究における行為法・心理劇法について
<p>【学習の目標】 関係的存在としての自己が、実践者としてふるまいながら発展の方向を探る実践研究を理解する。</p> <p>【学習の内容】 保育者、臨床者としてふるまいながら状況における子どもの状態をとらえ、同時に自分自身のかかわり方を振り返り、今、ここで、新しくかかわる実践力を開発する、実践研究の方法について理解する。実践者の振り返り、参加観察者の記録、ビデオ・IC レコーダーなど機械による記録をあわせ、保育者・子ども・集団の事実を解き明かす方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 観察法・臨床法・実践法の統合</p> <p>【学習の課題】 子どもの行動や気持ちを保育者がどのようにとらえているか、子どもが保育者の意図や振る舞いをどのように感じ理解していると保育者がとらえているか、次にどうなるだろうことを予測して保育者が動いていくかなど、関係認識、関係洞察、関係操作、関係責任を遂行する実践ができるか考える。</p> <p>【参考文献】 ・児童臨床研究会 「関係学・心理劇式 共に育つ発達評価法」 関係学研究所 ・矢吹芙美子「人間関係の発達を支える心理劇」 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」 萌文書林</p>	
1 5 . テーマ	(矢吹芙美子) 児童学の動向、今後の課題、研究法の概観と研究倫理
<p>【学習の目標】 研究法を概観し、研究倫理について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 児童学の過去・現在・未来、研究領域、研究方法の研究対象とのかかわりと研究倫理。</p> <p>【キーワード】 児童学の課題、研究領域、研究法の研究対象へのかかわり方、研究倫理</p> <p>【学習の課題】 あなたは児童学をどう受けとめ、研究者の在り方をどのように学んだか、まとめなさい。</p> <p>【参考文献】 ・松村康平 1971 児童臨床学 光生館 ・小林登 2001 こども学 日本評論社 ・伊藤祐時 松村康平 大村政男編 1977 心理技術事典 朝倉書店 ・日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員会 2010 保育学研究倫理ガイドブック フレーベル館 ・日本発達心理学会監修 2000 心理学・倫理ガイドブック 有斐閣</p> <p>【学習する上での留意点】 上記の書物が絶版で入手困難な場合はお申し出ください。必要な部分をコピーするなどして対処します。(テーマ 14, 15 も同様)</p>	

1. 科目名 (単位数)	保育児童学調査研究法 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5103
2. 授業担当教員	石 暁玲		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	保育児童学の研究においてよく用いられる調査研究法の中で質問紙法をとりあげ中心的に学ぶ。具体的には質問紙を作成して実際にデータを収集する。その後データの処理、データの整理方法を学ぶ (Excel を用いたデータ入力のワークシートの作成、データの処理および表やグラフの作成、基礎的な統計処理を SPSS で行う方法など)。最後に論文の形式を学習し簡単な論文にまとめる。その後他の方法について学習する。		
8. 学習目標	本講義では、学生が研究の目的を達成するために、調査研究を計画し、データの処理を行うことができるための技術を身につけることを目的とする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	毎回課題を与える。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 鎌原雅彦・宮下一博他：心理学マニュアル「質問紙法」, 北大路書房。 田中敏：ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法, 教育出版。</p> <p>【参考書】 村井潤一郎：心理学研究法, サイエンス社 中沢潤：心理学マニュアル観察法 北大路書房 山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房 小塩真司:SPSS と Amos による心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで, 東京図書。 松尾 太加志・中村 知靖：誰も教えてくれなかった因子分析—数式が絶対に出てこない因子分析入門, 北大路書房 栗原伸一:入門 統計学 一検定から多変量解析・実験計画法まで— オーム社 必要に応じてプリントを配布する</p>		
11. 成績評価の方法	出席並びに日頃の授業態度 (50%) 課題の提出 (50%)		
12. 受講生への メッセージ	Excel と SPSS を使用しますので、使い方を解説する参考書を読んでおいてください。		
13. オフィスアワー	第 1 回授業時にアナウンスする		
14. 学習の展開及び内容【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	方法論の概説		
	<p>【学習の目標】 調査研究法の種類と目的に応じた調査研究方法の選択について学習する 【学習の内容】 調査研究法の種類、文献収集の方法を知る 【キーワード】 調査研究法、文献収集 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 村井潤一郎：心理学研究法, サイエンス社 【学習する上での留意点】 自分の研究テーマについて述べられるようにしておく</p>		
2. テーマ	研究デザインのとて方、質問紙法とは		
	<p>【学習の目標】 研究デザインのとて方、質問紙法とは何かを理解し、質問紙作成の基礎について学ぶ。 【学習の内容】 質問紙法とは、項目作成にあたっての注意事項、回答方法、フェースシート作成について 【キーワード】 質問紙法とは、項目作成、フェースシート 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 鎌原雅彦・宮下一博他：心理学マニュアル「質問紙法」, 北大路書房 【学習する上での留意点】 教科書を予習しておくこと</p>		
3. テーマ	質問紙の作成の実際		
	<p>【学習の目標】 信頼性と妥当性について知る。仮説をたててテーマを決める。 【学習の内容】 信頼性と妥当性、仮説について学習し、グループで質問紙の作成を開始する。 【キーワード】 妥当性と信頼性、 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 鎌原雅彦・宮下一博他：心理学マニュアル「質問紙法」, 北大路書房 【学習する上での留意点】 教科書を予習しておくこと</p>		
4. テーマ	質問紙の作成 (1)		
	<p>【学習の目標】 質問紙を作成する。 【学習の内容】 質問紙を作成して、形式を整える 【キーワード】 質問の形式 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 鎌原雅彦・宮下一博他：心理学マニュアル「質問紙法」, 北大路書房</p>		

	【学習する上での留意点】 教科書を予習してこること。ワード等を使用する。
5 . テーマ	質問性の作成 (2)
	【学習の目標】 質問紙を作成する。配布と回収について計画できる。 【学習の内容】 質問紙を作成して、形式を整える。依頼文の作成。配布と回収について計画する。 【キーワード】 質問紙の作成 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 鎌原雅彦・宮下一博他：心理学マニュアル「質問紙法」. 北大路書房 【学習する上での留意点】 教科書を予習してこること。ワード等を使用する。
6 . テーマ	変数の記述
	【学習の目標】 1つおよび2つの変数の記述について知る 【学習の内容】 尺度水準、代表値、散布図、相関関係について学ぶ 【キーワード】 尺度水準、代表値、散布図、相関関係 【学習の課題】 授業中に指示する 【参考文献】 山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計. ミネルヴァ書房 【学習する上での留意点】 予習してこること
7 . テーマ	統計的仮説検定、2つの平均を比べる
	【学習の目標】 1つおよび2つの変数の記述について知る 【学習の内容】 尺度水準、代表値、散布図、相関関係について学ぶ 【キーワード】 尺度水準、代表値、散布図、相関関係 【学習の課題】 授業中に指示する 【参考文献】 山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計. ミネルヴァ書房 【学習する上での留意点】 予習してこること
8 . テーマ	3つ以上の平均を比べる
	【学習の目標】 分散分析について知る 【学習の内容】 分散分析の手順、分散分析の読み方について学ぶ 【キーワード】 分散分析、多重比較、交互作用 【学習の課題】 授業内にて提示する 【参考文献】 山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計. ミネルヴァ書房 【学習する上での留意点】 予習してこること
9 . テーマ	因子分析
	【学習の目標】 因子分析について知る 【学習の内容】 因子分析の手順、因子分析の読み方について学ぶ 【キーワード】 因子分析 【学習の課題】 授業内にて提示する 【参考文献】 山田剛史・村井潤一郎：よくわかる心理統計. ミネルヴァ書房 【学習する上での留意点】
10 . テーマ	データの処理の実際 (1)
	【学習の目標】 ワークシートの作成とデータの入力ができ、平均値などの処理ができる。 【学習の内容】 Excel でワークシート作成して、データを入力する。度数分布を求めるなど。 【キーワード】 度数分、平均、割合 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 授業中で提示する 【学習する上での留意点】 授業を通して自分で処理できるようになること
11 . テーマ	データの処理の実際 (2)
	【学習の目標】 表やグラフの作成ができる 【学習の内容】 形式の整った表を作成する。グラフを作成する。 【キーワード】 グラフ、表 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 授業中で提示する 【学習する上での留意点】 授業を通してグラフや表を書くことができるようになること
12 . テーマ	データの処理の実際 (3)
	【学習の目標】 統計処理を行い、結果を整理できる。 【学習の内容】 統計処理を行い、グラフや表から結果を読み取る。統計処理の結果を表示、記述できる。 【キーワード】 統計処理 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 授業中で提示する 【学習する上での留意点】 予習をしてこること
13 . テーマ	結果のレポートの作成
	【学習の目標】 論文の形式を知る。データを元に論文を作成する。 【学習の内容】 調査結果の整理方法および論文 (レポート) のまとめ方について知る 【キーワード】 論文 (レポート) のまとめかた 【学習の課題】 授業内で提示する

【参考文献】 村井潤一郎：心理学研究法. サイエンス社	
【学習する上での留意点】 レポートのまとめ方について予習をしてくる	
14. テーマ	観察法とは
【学習の目標】	観察法とは何かを知る
【学習の内容】	観察法について、その種類や方法について
【キーワード】	観察法
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	中沢潤 心理学マニュアル観察法 北大路書房
【学習する上での留意点】	観察法について調べてくる
15. テーマ	時間見本法の実際
【学習の目標】	時間見本法の実査について知る
【学習の内容】	時間見本法の実際について学習する
【キーワード】	時間見本法
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	村井潤一郎：心理学研究法. サイエンス社
【学習する上での留意点】	復習すること

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5333
2. 授業担当教員	川島 亜紀子		
4. 授業形態	講義, 演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	発達障害や知的障害の子どもの行動特性と支援方法について理解する。これを踏まえて、気になる問題について理解し、支援方法について考えていく。また、心理査定の方法、発達診断と発達支援の方法や保護者のカウンセリングの方法について演習を通して学習する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の理解を通して障害に応じた特別なニーズについて理解し、説明できる。 2. 心理査定の方法について理解する。 3. 発達診断と発達臨床の方法について知る 4. 保護者への支援および保護者との話し方について学習する。 5. 保育臨床について理解し、保育者のあり方を考えることができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的障害の概念について説明し、援助方法について考察する 2. 自閉スペクトラム症について説明し、援助方法について考察する 3. AD/HDについて説明し、援助方法について考察する 4. 発達障害児の保護者に対する支援についての論文を読み、内容について考察する 5. 発達臨床に関わる論文を読み、理論と実践の側面から内容について考察する 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR. 児保健指導マニュアル—ちょっと気になる子どもたちへの贈りもの—。診断と治療社。</p> <p>【参考書】 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援。金子書房 柏女壺峰・橋本真紀：保育相談支援。ミネルヴァ書房 青木久子・間藤侑・河邊貴子 子ども理解とカウンセリングマインド 萌文書林 中村雄二郎 臨床の知とは何か 岩波新書</p>		
11. 成績評価の方法	授業への参加度 50%、レポート 50%等		
12. 受講生への メッセージ	教科書を読んで受け入れるのではなく、積極的に疑問を持つような態度を求めます。		
13. オフィスアワー	開始時に提示する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	特別なニーズの理解 1 (知的障害)		
【学習の目標】	知的障害が何かを理解し、障害特性、支援ニーズを理解する (含む軽度知的障害)。		
【学習の内容】	知的障害の概念、分類 (軽度知的障害)、心理、行動特性、特別なニーズ		
【キーワード】	知的障害、知能、心理、行動特性、精神年齢		
【学習の課題】	授業内で提示する		
【参考文献】	小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR. 児保健指導マニュアル。診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援。金子書房		
【学習する上での留意点】	具体的な子どもの様子をイメージし、自分なりの対応を考えてください		
2. テーマ	特別なニーズの理解 2 (自閉症スペクトラム症)		
【学習の目標】	自閉症スペクトラム症とは何かを理解し、障害特性、支援ニーズをについて理解する		
【学習の内容】	自閉症スペクトラム症の概念、心理、行動特性、特別なニーズ		
【キーワード】	自閉症スペクトラム症、行動特性、認知特性、		
【学習の課題】	授業内で提示する		
【参考文献】	小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR. 児保健指導マニュアル。診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援。金子書房		
【学習する上での留意点】	具体的な子どもの様子をイメージし、自分なりの対応を考えてください		
3. テーマ	特別なニーズの理解 3 (発達障害者支援法の発達障害)		
【学習の目標】	発達障害とは何かを理解し、障害特性、支援ニーズについて理解する。		
【学習の内容】	広汎性発達障害、ADHD、LD とは、心理・行動特性、特別なニーズ		
【キーワード】	広汎性発達障害、ADHD、LD 特性、支援方法		
【学習の課題】	授業内で提示する		
【参考文献】	小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR. 児保健指導マニュアル。診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援。金子書房		
【学習する上での留意点】	具体的な子どもの様子をイメージし、自分なりの対応を考えてください		
4. テーマ	子どもの問題と対応 (1) (言葉の問題、パニック、落ち着きがないなど)		
【学習の目標】	子どもの問題について、多面的に理解し考察できる		
【学習の内容】	言葉の問題、パニック、落ち着きがない、乱暴、こだわりなどをとりあげて、ディスカッションを通して背景とな		

	る要因をさぐり、対応について考えていく。 【キーワード】 発達障害、問題 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR.児保健指導マニュアル. 診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援. 金子書房 【学習する上での留意点】 具体的な子どもの様子をイメージし、自分なりの対応を考えてください
5 . テ ー マ	子どもの問題と対応（2）（友だちと遊べない、不安が強い、不器用、親から離れない、偏食など）
	【学習の目標】 子どもの問題について、多面的に理解し考察できる。 【学習の内容】 友だちと遊べない、不安が強い、不器用、親から離れない、偏食などをとりあげて、ディスカッションを通して背景となる要因をさぐり、対応について考えていく。 【キーワード】 発達障害、問題 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR.児保健指導マニュアル. 診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援. 金子書房 【学習する上での留意点】 具体的な子どもの様子をイメージし、自分なりの対応を考えてください
6 . テ ー マ	事例から学ぶ指導方法
	【学習の目標】 主に幼児期の子どもの事例から支援方法を考察できる。 【学習の内容】 幼児期の事例を通して、障害特性を踏まえて理解し、対応を考える。 【キーワード】 発達障害、幼児期 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 小枝達也：ADHD、LD、HFPDD、軽度 MR.児保健指導マニュアル. 診断と治療社 橋本創一他：障害児者の理解と教育・支援. 金子書房 【学習する上での留意点】 事例論文を検索して読んでみてください
7 . テ ー マ	発達臨床における心理査定（1）（個別検査）
	【学習の目標】 発達期の子どもの種々の心理検査の実際を知る（個別検査） 【学習の内容】 認知発達面にかかわる検査—田中ビネー検査、新版 K 式発達検査— 神経心理学的査定—フロスティック視知覚検査— 【キーワード】 知能検査、発達検査、テストバッテリー 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 次良丸睦子 五十嵐一枝 発達障害の臨床心理学 北大路書房 【学習する上での留意点】 諸検査の諸特徴を学び、事例に応じて検査の選択ができるように理解する
8 . テ ー マ	発達臨床における心理査定（2）（質問紙法）
	【学習の目標】 発達期の子どもの種々の心理検査の実際を知る（質問紙法） 【学習の内容】 津守式発達検査、KIDS 乳幼児発達スケール、円城寺式発達検査 【キーワード】 発達検査、テストバッテリー 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 次良丸睦子 五十嵐一枝 発達障害の臨床心理学 北大路書房 【学習する上での留意点】 諸検査の諸特徴を学び、事例に応じて検査の選択ができるように理解する
9 . テ ー マ	発達臨床支援の方法（1）
	【学習の目標】 乳幼児の発達診断から支援方法を考えることができる 【学習の内容】 乳幼児の発達診断の方法について、発達診断から発達臨床、発達支援の方法の考え方 【キーワード】 発達、発達診断 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 田中昌人 子どもの発達と診断 大月書房 池田由紀江 ダウン症児の早期教育プログラム ぶどう社 【学習する上での留意点】
10 . テ ー マ	発達臨床支援の方法（2）
	【学習の目標】 乳幼児の発達診断に基づく支援方法について知る 【学習の内容】 乳幼児の発達支援の方法について 【キーワード】 発達、発達臨床、発達支援 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 田中昌人 子どもの発達と診断 大月書房 池田由紀江 ダウン症児の早期教育プログラム ぶどう社 【学習する上での留意点】
11 . テ ー マ	保護者への支援（1）（カウンセリングマインドと保護者支援）
	【学習の目標】 保護者支援に活かすカウンセリングマインドについて理解する 【学習の内容】 カウンセリングマインドについて理解し、活かせる技法、特に傾聴について理解する 【キーワード】 カウンセリングマインド、傾聴 【学習の課題】 授業内で提示する 【参考文献】 諸富祥彦 人生にいかすカウンセリング 有斐閣アルマ 【学習する上での留意点】 自分の経験をふりかえりながら授業に参加する
12 . テ ー マ	保護者への支援（2）（保育所の特性を活かした保護者支援）
	【学習の目標】 保育者の保護者支援の方法について知る

【学習の内容】	保育所の特性を活かした保護者支援の方法
【キーワード】	保育者、保育所・幼稚園、保護者支援
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	柏女霊峰・橋本真紀：保育者の保護者支援 フレーベル館 柏女霊峰・橋本真紀：保育相談支援 ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	保育所の特性について改めて確認し、考えておく
13. テーマ	保育臨床1（保育臨床とは何か）
【学習の目標】	保育の場における保育臨床とは何か、保育の場におけるカウンセリングインドとは何かを理解する
【学習の内容】	保育の場における臨床、カウンセリングマインドとは何か、臨床の知とは何か、保育実践と臨床の知について
【キーワード】	カウンセリングマインド、臨床の知
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	青木久子・間藤侑・河邊貴子 子ども理解とカウンセリングマインド 萌文書林 中村雄二郎 臨床の知とは何か 岩波新書
【学習する上での留意点】	現場での事例を考えながら授業に参加する
14. テーマ	保育臨床2（保育者と保育臨床）
【学習の目標】	保育臨床と保育者のあり方について理解し、考えることができる。
【学習の内容】	保育臨床と保育のあり方について、学び、保育者のを考える
【キーワード】	保育臨床、保育者
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	青木久子・間藤侑・河邊貴子 子ども理解とカウンセリングマインド 萌文書林
【学習する上での留意点】	自分の経験をふりかえりながら授業に参加する
15. テーマ	保育臨床3（事例を通して学習する）
【学習の目標】	保育の場における事例を取り上げて、保育臨床について深く理解する。
【学習の内容】	事例をとりあげて、保育者としてどのようなかわたらよいか討議を通して理解する。
【キーワード】	事例、討議
【学習の課題】	授業内で提示する
【参考文献】	青木久子・間藤侑・河邊貴子 子ども理解とカウンセリングマインド 萌文書林
【学習する上での留意点】	現場での事例を考えながら授業に参加する

1. 科目名 (単位数)	カウンセリング演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6334
2. 授業担当教員	川島 亜紀子		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	<p>子どもの健やかな発達を考える上で、子どもの社会的な関係である仲間関係の問題は重要な視点の一つである。カウンセリングは個人を支える方法として、その技法論に焦点が当てられがちではあるが、保育や幼児教育を担う人間としては、技法論のみならず、幼児期から児童期にかけての、問題の構造、プロセス、そして発達の結果という視点で理解をしていくことが重要である。</p> <p>本演習では、子どもの仲間関係の問題に特に焦点を当てて、発達のな問題への理解を深め、援助の実際について考察を促すことを目的とする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングに関する諸理論について復習し、理解を深める。 2. 子どもの仲間関係の発達とその問題について、理解する。 3. 発達精神病理学的アプローチについて学び、その研究方法や理論的枠組みを理解する。 4. 子どもの健康な発達を支える援助にはどのような視点が必要か、視野を広げる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>テキストの指定された章について、分担して講読を行う。必要に応じて、原著論文に当たって理解を深めたいうでで発表すること。</p> <p>各回に授業で学んだ内容の復習や自分の意見を明確にするため、1000字程度 (A4 32字×40行、1ページ程度) のレポート課題を課す。自分の意見をサポートするための引用文献を必ず含め、引用元について必ず明示すること。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房</p> <p>【参考書】 下山晴彦 (編) 『よくわかる臨床心理学』 ミネルヴァ書房</p>		
11. 成績評価の方法	<p>文献講読 30%</p> <p>授業への積極的参加 30%</p> <p>レポート 40%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自身の経験や学んできたことをもとに、活発な意見を交わすことができること。意見を交わすということは、自分の意見を表明するだけではなく、他者の意見の尊重、他者の発言の傾聴も含まれる。 ・発達の過程で、全く問題なく過ごしてきた人は稀であり、カウンセリングを学ぶとき、子どもの発達上の問題について学ぶとき、自らの過去の問題と向き合わなければならないような状況に陥ることもある。その覚悟を持って臨んでほしい。 ・内容の理解や討論の深まりによっては、シラバス通りに進行しない場合がある。 		
13. オフィスアワー	<p>初回講義時に提示する。受講を決定したら、発表担当部分等の確認のため、あらかじめ E メールを使用して、学籍番号、氏名、E メールアドレスを川島宛 (akkawash@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) に連絡すること。</p>		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	カウンセリングにおける人間理解の諸理論についての復習		
	<p>【学習の目標】 本講義の進め方について理解し、これまでの臨床心理学に関する理解を確認する。</p> <p>【学習の内容】 1. 講義内容の確認 2. 臨床心理学の諸理論 (精神分析、人間学的、認知行動療法的アプローチ) についての復習</p> <p>【キーワード】 精神分析、人間学的アプローチ、来談者中心療法、認知行動療法</p> <p>【学習の課題】 カウンセリングに関わる人間理解の諸理論について、その特徴と活用方法について説明する。</p> <p>【参考文献】 下山晴彦 (編) 『よくわかる臨床心理学』 ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれのアプローチの長所と短所を比較することによって特徴を理解する。</p>		
2. テーマ	カウンセリングの研究法 (臨床心理学的研究法) についての復習		
	<p>【学習の目標】 臨床心理学の研究法について概観し、研究論文を読むための基礎を作る。</p> <p>【学習の内容】 1. 臨床心理学の研究法 (量的研究、質的研究) 2. 統計的検定の基礎 (仮説と帰無仮説、記述統計と推測統計)</p> <p>【キーワード】 量的研究、質的研究、質問紙法、面接法、観察法、実験法 (要因計画法)、仮説 (帰無仮説)、有意水準、推測統計学</p> <p>【学習の課題】 カウンセリングの効果について検証したり、臨床心理学的な考察をしたりするために欠かせない、臨床心理学的研究法のそれぞれの違いを理解し、説明する。</p> <p>【参考文献】 下山晴彦 (編) 『よくわかる臨床心理学』 ミネルヴァ書房 鎌原雅彦・大野木裕明・宮下 一博・中澤 潤 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房 保坂 亨・大野木裕明・中澤 潤 『心理学マニュアル 面接法』 北大路書房 中澤 潤・南 博文・大野木裕明 『心理学マニュアル 観察法』 北大路書房 後藤宗理・中澤 潤・大野木裕明 『心理学マニュアル 要因計画法』 北大路書房</p> <p>【学習する上での留意点】 統計学に対する「食わず嫌い」を克服し、統計学の理解がクリティカルシンキング (批判的思考) を促すことを学ぶ。</p>		
3. テーマ	子どもの仲間関係 (1) : ソシオメトリック地位と子どもの行動		
	【学習の目標】 ソシオメトリーについて復習し、ソシオメトリック地位と子どもの行動との関連について理解する。		

	<p>【学習の内容】 1. ソシオメトリーの方法 2. ソシオメトリック地位と子どもの行動</p> <p>【キーワード】 ソシオメトリー, ソシオメトリック地位, 媒介要因, 調整要因, 内在化型問題, 外在化型問題</p> <p>【学習の課題】 ソシオメトリーによる仲間関係の測定に関する研究の問題点について説明する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 1 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 発達精神病理学的方法論に慣れる。</p>
4 . テ ー マ	<p>子どもの仲間関係 (2) : ジェンダーと仲間関係</p>
	<p>【学習の目標】 ジェンダーの考え方を復習し, 仲間関係研究における別の視点を知る。</p> <p>【学習の内容】 1. ジェンダー論について復習する。 2. ジェンダー論から見た仲間関係研究について理解する。</p> <p>【キーワード】 ジェンダー, 二分化理論</p> <p>【学習の課題】 ジェンダー論的な観点から, 現象を理解することの利点と問題点について整理する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 2 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 多角的な視点から, 研究を批判的に読む。</p>
5 . テ ー マ	<p>子どもと仲間関係 (3) : 友人関係と反社会的行動</p>
	<p>【学習の目標】 子どもの反社会的行動への予防と介入について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 仲間関係の発達と反社会性の発達について知る。 2. 反社会的行動への予防と介入方法について理解する。</p> <p>【キーワード】 反社会的行動, 予防, 介入</p> <p>【学習の課題】 反社会的行動と友人関係との関連について理解し説明する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 3 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 「予防」に関する考え方を知る。</p>
6 . テ ー マ	<p>子どもの認知と情動 (1) : 社会的情報処理と子どもの適応</p>
	<p>【学習の目標】 社会的情報処理モデルを理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 子どもの社会的情報処理モデルを知る。 2. 社会的情報処理と子どもの社会的適応との関連について説明できるようにする。</p> <p>【キーワード】 社会的情報処理モデル (SIP モデル), 外在化型問題, 内在化型問題, 社会的有能さ</p> <p>【学習の課題】 社会的情報処理モデルが, 子どもの行動理解に役立つ理由を説明する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 4 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 認知的なプロセス理解の利点と問題点を知る。</p>
7 . テ ー マ	<p>子どもの認知と情動 (2) : 仲間関係における情動理解と制御</p>
	<p>【学習の目標】 感情的社会的コンピテンスと仲間関係との関連について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 感情的社会的コンピテンスとは何かを知る。 2. 子どもの情動の理解と制御について理解する。</p> <p>【キーワード】 感情的社会的コンピテンス (ASC モデル), コンピテンス, 情動の制御, 自己コントロール</p> <p>【学習の課題】 情動の制御と子どもの問題行動との関連について説明する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 5 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 問題行動の起源として, 情動制御を置くことの利点と問題点を知る。</p>
8 . テ ー マ	<p>子どもの認知と情動 (3) : 仲間による拒否の体験</p>
	<p>【学習の目標】 子どもが仲間から拒否された時の内的体験について理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 仲間による拒否のパターンを知る。 2. 仲間による拒否による内的体験を理解する。</p> <p>【キーワード】 仲間による拒否, 孤独, 社会的苦痛, 主観的反応, 内的体験</p> <p>【学習の課題】 仲間による拒否の体験がもたらす, 様々な影響プロセスについて考察する。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 6 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 仲間による拒否に対する主観的体験について理解を深める。</p>
9 . テ ー マ	<p>子どもの認知と情動 (4) : 仲間関係の問題と発達の結果</p>
	<p>【学習の目標】 子どもの仲間関係の問題が, 否定的な結果につながる媒介モデルについて検討する。</p> <p>【学習の内容】 1. 「予測力」について理解する。 2. 統合的な媒介モデルを想定することにより, 実態に即した問題理解を深める。</p> <p>【キーワード】 媒介モデル, 予測力, 事例研究</p> <p>【学習の課題】 理論と臨床の統合に関する視点を身につける。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 7 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 マクロな視点とミクロな視点の統合の重要性を理解する。</p>
10 . テ ー マ	<p>家族の影響 (1) : 親と子どもの社会的発達</p>
	<p>【学習の目標】 広く統合的な視点で, 親子関係と子どもの発達について理解する (認識を広げる)。</p> <p>【学習の内容】 1. 従来の親子関係研究の枠組みを批判的に考察する。 2. 世代間伝達について理解する。</p> <p>【キーワード】 養育行動, 世代間伝達, 愛着, 家庭不和,</p> <p>【学習の課題】 子どもに対し, 親は遺伝要因と環境要因のどちらともなっていることに留意し, 親子関係について複眼的な見方ができるようにする。</p> <p>【参考文献】 クーパー・シュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 8 章)</p>

【学習する上での留意点】子どもだけの視点、親だけの視点、というように偏らない見方を身につける。	
1 1 . テ ー マ	家族の影響 (2) : 家族関係と児童期の子どもの仲間関係
<p>【学習の目標】 児童期の子どもの反社会的行動や非社会的行動を、家族関係の視点から検討する。</p> <p>【学習の内容】 1. 子どもの仲間関係研究に「家族」を含めることの利点・問題点 2. 子どもの問題行動を測定する方法を知る</p> <p>【キーワード】 親子関係、夫婦関係、CBCL、反社会的行動</p> <p>【学習の課題】 実証研究の成果を臨床的に応用することの利点と問題点を知る。</p> <p>【参考文献】 クーパーシュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 9 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 難しい統計用語を、まとめておくこと。</p>	
1 2 . テ ー マ	援助と予防 (1) : ファスト・トラック・プログラム
<p>【学習の目標】 ファスト・トラック・プログラムの目的と方法について知る。</p> <p>【学習の内容】 1. ファスト・トラック・プログラムとは何か 2. 予防の概念について整理する</p> <p>【キーワード】 予防、リスク、保護因子、縦断的デザイン、</p> <p>【学習の課題】 予防的介入の目的と方法を知り、予防的介入の利点を説明する。</p> <p>【参考文献】 クーパーシュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 10 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 予防的介入に関連する専門用語を理解する。</p>	
1 3 . テ ー マ	援助と予防 (2) : 青年期の仲間関係
<p>【学習の目標】 青年期の反社会的行動と介入について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1. 青年期の仲間関係の特徴を知る。 2. 青年期の反社会的行動について知る。 3. 文化差について考える。</p> <p>【キーワード】 青年期、反社会的行動、社会的影響</p> <p>【学習の課題】 青年期の問題行動への介入に効果的な方法について、自分なりの考察をする。</p> <p>【参考文献】 クーパーシュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 11 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 文化やジェンダーによって異なるかどうか、考える。</p>	
1 4 . テ ー マ	仲間関係の問題と反社会的行動の発達
<p>【学習の目標】 仲間関係の影響について、統合的に理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 予測因子について復習する。 2. 予防的介入の意義について復習する。</p> <p>【キーワード】 予防、リスク、保護因子、仲間による拒否</p> <p>【学習の課題】 これまで学んだことを統合的に理解し、子ども理解や援助にどう役立てるか考察する。</p> <p>【参考文献】 クーパーシュミット・ダッジ (編) 中澤 潤 (監訳) 『子どもの仲間関係 発達から援助へ』 北大路書房 (第 13 章)</p> <p>【学習する上での留意点】 これまで学習してきた、不明確なままになっている部分を確認する。</p>	
1 5 . テ ー マ	まとめ : 援助者としての成長
<p>【学習の目標】 援助者としての自己を知り、専門性を高めていくことについて理解する。</p> <p>【学習の内容】 1. 自己を知る。 2. ソーシャルサポートについて理解する。</p> <p>【キーワード】 自伝、家族樹形図、ソーシャルサポート</p> <p>【学習の課題】 自己を知り、活用できるようにする。</p> <p>【参考文献】 下山晴彦 (編) 『よくわかる臨床心理学』 ミネルヴァ書房</p> <p>【学習する上での留意点】 自らを安全に振り返ることができるかどうか、自分のソーシャルサポートを振り返る。</p>	

1. 科目名 (単位数)	家族福祉特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6317
2. 授業担当教員	洪 金子		
4. 授業形態	講義、演習、セミナー	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>家族の構造、形態、機能について諸理論を講述するとともに、家族責任としての養育、扶養の課題や今後の方向、並びに社会的責任、公的責任としての新しい家族福祉の課題やあり方についても講述する。</p> <p>家族モデルを用いた援助技術を学び、ソーシャルワーカーの家族との関わり方と他の専門職の関わり方との相違点と共通点について探求。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 院生が家族に関わり、家族モデルをそれぞれの目標あるいは要求に応じて適用することができるようになる。</p> <p>2. 家族福祉専門家として、他の領域からの要求も理解した上で、家族モデルを用いた援助技術を学び、実践で使いこなせるようになる。</p> <p>3. ソーシャルワーカーの家族との関わり方と他の専門職の関わり方との相違点と共通点が理解でき、他職種とのチームアプローチが可能になる。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 自分が担当しているケースについて家族を単位として、どのように介入したら良いかを考える。家族療法の中から介入アプローチの一つを選び、その介入過程を分析的に記述しなさい。</p> <p>2. ケースを持っていない場合は、今まで学んだ授業テーマの中から逆機能的問題を持っている家族を選び、課題 1 と同様にそれに対する介入の過程を分析的に記述しなさい。</p>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 畠中宗一編、よくわかる家族福祉、ミネルヴァ書房、2006</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 得津慎子、『家族支援論』、相川書房、2005 NASW, INC> Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995 R.シャーマン、N・フレットマン 岡堂哲雄ほか訳 家族療法技法ハンドブック 星和書店 (入手不可) 平木典子 家族との心理臨床 垣内出版株式会社 鶴野隆浩、『家族福祉原論』、ふくろう出版、2006</p>		
11. 成績評価の方法	<p>評価基準：中間レポート発表 40% 期末レポート発表 60% ※通信教育は第 1 レポート 100% (評価点) A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学院学則を遵守すること。 ○ 常に専門的実践家としての知識と力量を育成するために努力すること。 ○ 学際的・国際的感覚を涵養すること。 ○ レポートの期限を厳守すること。 		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	家族の変化		
	<p>【学習の目標】 産業化による家族構造の変化と家族機能の変化が分かる。 構成の変化と構造の変化の内容について把握する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 構成的変化：家庭の変化、結婚と離婚の変化、児童委託の変化、出産率の変化、生涯周期の増加(扶養の必要性)、女性と母親の社会参加の増加の影響 (2) 構造的変化：経済的地位と生活の質と人種との関係、貧困・健康保険との関係 (3) 家族の変化がサービス伝達システムに及ぼす影響</p> <p>【キーワード】 構成的変化、構造的変化</p> <p>【学習の課題】 家族の変化を持続的過程に受け入れる。</p> <p>【参考文献】 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995 畠中宗一編、よくわかる家族福祉、ミネルヴァ書房、2006 鶴野隆浩、『家族福祉原論』、ふくろう出版、2006</p> <p>【学習する上での留意点】 産業化によってより大きな変化があったのは、家族の構造であるより機能であることか分かる。</p>		
2. テーマ	家族の変化と家族政策		
	<p>【学習の目標】 産業化による家族の変化と家族政策の分野について分かる。</p> <p>【学習の内容】 家族福祉の歴史的概観、人生過程と家族、家族政策</p> <p>【キーワード】 産業化、家族の構造、家族の機能</p> <p>【学習の課題】 家族政策の関心事、家族法・所得移転政策・被扶養者に対する税金の免除・児童保護サービスなどについて分かる。</p> <p>【参考文献】 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995 畠中宗一編、よくわかる家族福祉、ミネルヴァ書房、2006 鶴野隆浩、『家族福祉原論』、ふくろう出版、2006</p> <p>【学習する上での留意点】 家族政策の種類とそれぞれの内容について比較的観点を持つ。</p>		

3 . テ ー マ	現代家族に対する理解
<p>【学習の目標】 家族とは何かをシステム論的観点で理解する。</p> <p>【学習の内容】 家族システム論、家族の定義、家族の機能と逆機能、家族の理念 家族とは、彼ら自らが家族であると定義して、互いが持続的に家族システムの核心的要素であると看做して義務感を感じあう二人以上の個人として構成される集団である。</p> <p>【キーワード】 システム理論、機能と逆機能</p> <p>【学習の課題】 家族の概念 システム論と家族の関係性</p> <p>【参考文献】 鶴野隆浩、『家族福祉原論』、ふくろう出版、2006 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995 畠中宗一編、よくわかる家族福祉、ミネルヴァ書房、2006</p> <p>【学習する上での留意点】 伝統的家族の概念と現代的概念の違いについてその背景が説明できるようにする。</p>	
4 . テ ー マ	家族福祉の概念と家族に対する支援
<p>【学習の目標】 家族福祉の概念が分かる。 家族福祉と家族支援の関係性が分かる。</p> <p>【学習の内容】 家族福祉とは何か 家族福祉にとっての家族支援の意義 家族支援と家族政策</p> <p>【キーワード】 家族福祉、家族支援、家族政策</p> <p>【学習の課題】 家族福祉と家族支援の関係性について自分なりの理論化が構築できる。</p> <p>【参考文献】 得津慎子、『家族支援論』、相川書房、2005 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
5 . テ ー マ	家族支援のための理論と直接的社会福祉援助方法
<p>【学習の目標】 家族を支援するための前提的知識と直接的社会福祉実践について分かる。</p> <p>【学習の内容】 (1) 多様性：構造的多様性(未婚の母と子ども家族の増加、子どもがいない家族、一人親家族など)、民族的・人種的多様性、社会経済的多様性 (2) 直接的社会福祉実践：アセスメントと契約、介入方法の選択、介入、効果性の評価</p> <p>【キーワード】 多様性、直接的社会福祉実践</p> <p>【学習の課題】 家族を支援するため直接的社会福祉活動を実践していくには、実践技術はもちろん、家族に対する人口統計学的、構造的、人種的、社会経済学的情報が関連することを理解する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p> <p>【学習する上での留意点】 家族支援のための直接的社会福祉援助を実践するには人間に対する直接実践であるという観点とより大きなシステムの多段階的観点を必要とする。</p>	
6 . テ ー マ	家族支援のための理論と社会福祉的援助方法—ジャーメインの生活モデル
<p>【学習の目標】 生態学理論とジャーメインの生活モデルについて理解し、その援助方法を現場で使えるようになる。</p> <p>【学習の内容】 生態学理論、ソーシャルワークにおける生態学視点と生活モデル、生態学視点と家族支援</p> <p>【キーワード】 生態学、生態学視点、生活モデル</p> <p>【学習の課題】 社会福祉実践モデルとしての生態学理論・視点・生活モデルが活用できる。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
7 . テ ー マ	家族支援のための理論と社会福祉的援助方法—ハートマンの家族中心ソーシャルワーク
<p>【学習の目標】 ハートマンの家族中心ソーシャルワーク(Family-Centered Social Work Practice)について理解し、その援助方法を現場で使えるようになる。</p> <p>【学習の内容】 家族中心ソーシャルワーク(Family-Centered Social Work Practice)、家族—環境システム、世代間家族システム、家族内システム</p> <p>【キーワード】 家族中心ソーシャルワーク(Family-Centered Social Work Practice)</p> <p>【学習の課題】 家族中心ソーシャルワークの実践の3つのレベルを理解する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
8 . テ ー マ	家族支援のための理論と社会福祉的援助方法—ケンブラの環境の中の人間の実践
<p>【学習の目標】 ケンブラの環境の中の人間の実践について理解し、その援助方法を現場で使えるようになる。</p> <p>【学習の内容】 環境のアセスメント、環境介入</p> <p>【キーワード】 「環境の中の人間」、アセスメント、介入</p> <p>【学習の課題】 複雑で、多面的・多次元的な環境という概念について理解を基盤にしながら、環境に対するアセスメントと介入はどうするか。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC> Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p> <p>【学習する上での留意点】 家族福祉は家族と環境の2重側面を持っている。家族は家族メンバー個人にとっては環境的要素でありな</p>	

がら、家族全体には家族外環境に向かい合うシステムでの働きもしていることを忘れないこと。	
9 . テー マ	家族支援のための理論と社会福祉的援助技術—Ecomap と Genogram
<p>【学習の目標】 Ecomap と Genogram などについて理解し、家族支援のための実践で使えるようになる。</p> <p>【学習の内容】 Ecomap、Genogram、Social Network Map の内容と使い方</p> <p>【キーワード】 Ecomap、Genogram、Social Network Map</p> <p>【学習の課題】 Ecomap、Genogram、Social Network Map の書き方をおぼえること。 事例を通して分析・解釈し、アセスメントのツールとして活用できるようになること。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
1 0 . テー マ	家族に関する理解—Life Cycle について
<p>【学習の目標】 家族の Life Cycle について探求し、それぞれの段階別課題を自分の家族をモデルにして理論化してみる。</p> <p>【学習の内容】 独立した青年期、結婚、第1子の誕生、子どもの入学、子どもの少年期、子どもの結婚と親離れ、再び夫婦だけの生活、老年期夫婦の中一方の死亡、本人の死亡など</p> <p>【キーワード】 Life Cycle、各段階別課題</p> <p>【学習の課題】 家族の Life Cycle の多様性について理解する。</p> <p>【参考文献】 R.シャーマン、N・フレットマン 岡堂哲雄ほか訳 家族療法技法ハンドブック 星和書店（入手不可） 平木典子 家族との心理臨床 垣内出版株式会社</p> <p>【学習する上での留意点】 個人の Life Cycle と家族の Life Cycle、そして既に定立されている Life Cycle 理論と自分が考えたこととの違いを発見し、家族の Life Cycle の多様性に気づくように指導する。</p>	
1 1 . テー マ	子育て家族と家族福祉及び社会福祉援助活動
<p>【学習の目標】 子育て家族の問題をアセスメントして、介入方法について考える。（多様な事例を活用する）</p> <p>【学習の内容】 子育て家族の①養護困難な単親家庭 ②共働き家族 ③障害児家族 ④児童虐待家族 ⑤貧困家族などの問題の中から2、3のテーマを選ぶ。</p> <p>【キーワード】 養護困難、共働き、児童虐待など</p> <p>【学習の課題】 子育て家族の問題をアセスメントし、介入方法についても検討する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
1 2 . テー マ	青少年家族と家族福祉及び社会福祉援助活動
<p>【学習の目標】 青少年家族の問題をアセスメントして、介入方法について考える。（多様な事例を活用する）</p> <p>【学習の内容】 青少年家族の①不登校問題 ②アルコール・薬物などの依存の問題 ③家庭内・校内暴力の問題 ④閉じこもりの問題 ⑤いじめの問題 ⑥少年非行の問題の中から2、3のテーマを選ぶ。</p> <p>【キーワード】 不登校、依存、校内暴力、閉じこもり、いじめ、非行</p> <p>【学習の課題】 青少年家族の問題をアセスメントし、介入方法についても検討する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
1 3 . テー マ	精神障害者家族と家族福祉及び社会福祉援助活動
<p>【学習の目標】 精神障害者家族の問題をアセスメントして、介入方法について考える。（多様な事例を活用する）</p> <p>【学習の内容】 精神障害者家族の①ストレス問題 ②統合失調症患者を抱えている家族の問題 ③地域との問題 ④患者の自立の問題 ⑤患者の結婚の問題 ⑥親の死後の患者の扶養問題などの中から2、3のテーマを選ぶ。</p> <p>【キーワード】 精神障害、死後扶養</p> <p>【学習の課題】 精神障害者家族の問題をアセスメントし、介入方法についても検討する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
1 4 . テー マ	高齢者家族と家族福祉及び社会福祉援助活動
<p>【学習の目標】 高齢者家族の問題をアセスメントして、介入方法について考える。（多様な事例を活用する）</p> <p>【学習の内容】 高齢者家族の①介護問題 ②認知症患者を抱えている家族の問題 ③ターミナルケアの問題 ④高齢者施設への入所問題 ⑤寂しさと生活の質の問題 などの中から2、3のテーマを選ぶ。</p> <p>【キーワード】 高齢者家族、介護、ターミナルケア</p> <p>【学習の課題】 高齢者家族の問題をアセスメントし、介入方法についても検討する。</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	
1 5 . テー マ	最後のまとめ
<p>【学習の目標】 今まで学習した内容をまとめる</p> <p>【学習の内容】 家族、家族福祉、家族政策、多様な問題を抱えている家族と家族福祉及び社会福祉援助活動</p> <p>【学習の課題】 この科目で学んだことの振り返り</p> <p>【参考文献】 社会福祉教育方法教材開発研究会、『新 社会福祉援助技術演習』、中央法規、2007 NASW, INC、Washington, D. C,U.S.A., 『Encyclopedia of Social Work』、1995</p>	

1. 科目名 (単位数)	言語発達特論	3. 科目番号	SJMP5335
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	講義・演習・文献講読	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	言語は人間を特徴づける重要な機能である。子どもは6歳くらいまでに基本的な言語能力を獲得する。言語発達に関しては数多くの研究がなされてきたが、この授業では、言語の障害までを視野に入れて、言語発達について学ぶ。また、言語発達の過程については、乳幼児の発達過程との関連を考慮しながら考察する。保育現場や相談臨床においてしばしば見られる言語障害の種類や様相などについても検討し、考察する。		
8. 学習目標	乳幼児期の言語発達について、言語のもつ基本的な機能について理解し、聴覚的発達等の生理的側面や人とのコミュニケーションの取り方などと関連づけて、総合的な理解ができることを目標とする。定型的な言語発達のみではなく、そのつまずきについての知識を広め、言語発達についての理解を深める。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各コマで学ぶキーワードについて予め学習してから授業に臨むこと。 レポートを課す。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ ミネルヴァ書房 2,800円 【参考書】 やまだようこ 2010 ことばの前のことば 新曜社 4,800円 岩立志津夫・小椋たみ子(編) 2005 よくわかる言語発達 ミネルヴァ書房 2,400円 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 ミネルヴァ書房 2,800円 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得 大修館書店 2,300円 秦野悦子(編) 2007 入門コースことばの発達と障害1: ことばの発達入門 大修館書店 2,200円 鹿取廣人 2003 ことばの発達と認知の心理学 東京大学出版会 3,200円 西村辨作(編) 2001 ことばの障害入門 大修館書店 2,200円 石坂郁代 他訳 2006 コミュニケーション障害入門 大修館書店 2,800円 その他、必要に応じてプリントを配布する。		
11. 成績評価の方法	【通学】 事前学習 30%、 授業における学習課題への取り組み 40%、 期末試験(口頭試問) 30%		
12. 受講生への メッセージ	言語発達は子どもの発達に関する重要な指標です。発達(保育)相談臨床においては、主訴の中で最も多い事項が「ことば」についてです。子どもの表出言語の状態は捉えることが容易ですが、実はそこにはさまざまな背景が関わっています。そのため、障害の発見や発達予測などの情報としても用いられています。 この授業を通して、乳幼児期から学童期にかけての言語発達の様相について、総合的に理解することを目指してほしいと思います。		
13. オフィスアワー	授業時間の前後、および別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	言語発達の生物学的、神経学的基礎		
	【学習の目標】 言語の発達には、その基盤としてヒトの生物学的側面、神経学的側面が必要とされる。その様相を学ぶ。 【学習の内容】 言語の発達には、脳機能、呼吸調節、音声器官の調節、神経学的成熟が必要であることを知る。 【キーワード】 脳機能、声帯運動、呼吸調節、音声器官の調節、神経学的成熟 【学習の課題】 ヒトの様々な器官が言語産出に寄与していることを、図書の講読によって学ぶ。 【参考文献】 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 石坂郁代 他 2006 コミュニケーション障害入門 【学習する上での留意点】 言語の産出には、生体の複雑な機能が協応し関与していることを知る。		
2. テーマ	言語発達の社会的基礎		
	【学習の目標】 言語発達には、社会的環境のなかで人との交流が必要である。その実態について知る。 【学習の内容】 子どもを取り巻く社会的環境を考察し、言語発達との関連を考える。 【キーワード】 新生児期母子交流、愛着、対人関係、幼稚園、保育所、学校 【学習の課題】 新生児期の対人交流は多層的であるが、その状態を理解し、発達とともに社会的環境が複雑化していくことを理解する。 【参考文献】 やまだようこ 2010 ことばの前のことば 山内光哉 1998 発達心理学 上(第2版) ナカニシヤ出版 鹿取廣人 2003 ことばの発達と認知の心理学 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 秦野悦子(編) 2007 入門コースことばの発達と障害1: ことばの発達入門 【学習する上での留意点】 社会的環境は、家族間の交流から始まり、家庭、家族外成員、子ども集団(幼稚園、保育園、学校、その他)に拡大していくことを念頭に考察を深める。		

3 . テーマ	0歳代のコミュニケーションおよび発声行動の発達
<p>【学習の目標】 0歳代のコミュニケーション、発声行動の発達を理解する。</p> <p>【学習の内容】 0歳代のコミュニケーション、発声行動の発達の様相を理解する。</p> <p>【キーワード】 発声活動、喃語、ジャーゴン、初語</p> <p>【学習の課題】 発達初期の発声行動から喃語、有意味語の出現の時期までの経過について参考文献を参照して要点を簡単にまとめる。</p> <p>【参考文献】 やまだようこ 2010 ことばの前のことば 鹿取廣人 2003 ことばの発達と認知の心理学 石坂郁代 他訳 2006 コミュニケーション障害入門 山内光哉 1998 発達心理学 上(第2版) 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得</p> <p>【学習する上での留意点】 0歳代の発声行動は加齢に伴い、変化していく。この時期は子どもの言語活動が成立していく時期として非常に重要である。広く発達全般に視野を広げて理解する。</p>	
4 . テーマ	初期言語発達と認知発達
<p>【学習の目標】 初期の言語発達を支える認知機能の発達を理解する。</p> <p>【学習の内容】 象徴機能の獲得とその発達を視野にいれ、言語発達を考察する。</p> <p>【キーワード】 象徴機能、表象、身振り、指差し、ふり遊び</p> <p>【学習の課題】 認知的機能の発達と対応させつつ言語発達の経過をみる。</p> <p>【参考文献】 鹿取廣人 2003 ことばの発達と認知の心理学 やまだようこ 2010 ことばの前のことば 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ 石坂郁代 他訳 2006 コミュニケーション障害入門 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得</p> <p>【学習する上での留意点】 生後2年間の言語発達について、その概略を年齢段階で区切りながら整理すると理解しやすい。</p>	
5 . テーマ	語彙の獲得
<p>【学習の目標】 初語が出現した後は2,3歳頃に語彙は急速に増加していくが、その様相を理解する。</p> <p>【学習の内容】 語彙の増加の様相について資料(文献等)を通じて理解する。</p> <p>【キーワード】 初語、語彙、理解言語、表出言語</p> <p>【学習の課題】 語彙の獲得についてまとめる。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得 その他、言語発達に関する図書は多いので、それらも参考にするとよい。</p> <p>【学習する上での留意点】 語彙の獲得は意味の理解にささえられていることを理解する。</p>	
6 . テーマ	2語発話から構文へ
<p>【学習の目標】 文の原初的形態と考えられる2語文から整った文の発語まで継続して発達していく。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 2語文以降の文発話の発達について知る。</p> <p>【キーワード】 2語文、文構造、助詞、疑問文</p> <p>【学習の課題】 事例の観察報告を参照しつつ、文構造の発話の発達を理解する。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得 秦野悦子(編) 2007 入門コースことばの発達と障害1：ことばの発達入門</p> <p>【学習する上での留意点】 文を用いたコミュニケーションが可能になることにより、子どもの他者との交流は急速に進む。身近にいる子どもの言語行動を年齢と照らし合わせながら観察するとよい。</p>	
7 . テーマ	会話の発達
<p>【学習の目標】 他者とのコミュニケーションで会話を交わすことは、学習および社会的能力の発達にとって欠かすことができない。この様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 会話の原型は乳児期の吸乳行動に既にみられるという指摘もある。会話能力の発達には笑い、発声など様々な媒体を使った対人的なやりとりも寄与していることも視野に入れて、会話能力の発達を理解する。</p> <p>【キーワード】 会話成立の前提、話者の交代、会話の開始と終結、会話能力の発達</p> <p>【学習の課題】 会話能力の発達についてその概要を理解する。</p> <p>【参考文献】 小椋たみ子・小山正・水野久美(著) 2015 乳幼児期のことばの発達とその遅れ やまだようこ 2010 ことばの前のことば 岩立志津夫・小椋たみ(編) 2005 よくわかる言語発達 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援</p> <p>【学習する上での留意点】 実際の子どもの会話を記録するとよく理解できる。</p>	
8 . テーマ	語りの発達
<p>【学習の目標】 言語能力が発達するにつれ、時間的に連続した出来事を順序づけて話すことができるようになる。その発達の様相を学ぶ。</p>	

	<p>【学習の内容】 2歳ころから語ることが少しずつできるようになり、認知的能力を基礎として発達を続けるが、その過程を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 過去の体験についての語り、因果関係、時間的關係、物語技法、物語経験</p> <p>【学習の課題】 語りを円滑に展開していくためには、認知的能力が関与していることを理解する。</p> <p>【参考文献】 鹿取廣人 2003 ことばの発達と認知の心理学 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 秦野悦子(編) 2007 入門コースことばの発達と障害 1: ことばの発達入門</p> <p>【学習する上での留意点】 保育場面における記録等にも目を通すと良い。</p>
9 . テ ー マ	読み書き能力の発達
	<p>【学習の目標】 3歳までに文字を読むことに関心を示すようになり、3歳ころから文字らしいものを書くようになるが、その後、学齢期になると読み書き能力の獲得の意義を子ども自身がわかり、知覚・認知・運動機能の発達と関連しつつ読み書き能力が発達していく。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 3歳、4歳、5歳 および小学生低学年の読み書き能力の発達の様相について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 文字環境、ひらがなの獲得、漢字の熟知度</p> <p>【学習の課題】 文字の読み書き能力の発達を概観する。</p> <p>【参考文献】 岩立志津夫 他(編著) 2006 言語発達とその支援 内田伸子 2003 新心理学ライブラリー 2 幼児心理学への招待: 子どもの世界づくり サイエンス社 垣花真一郎 2015 幼児の仮名文字の読み習得に影響する文字側の諸要因 発達心理学研究 26(3), pp237-247</p> <p>【学習する上での留意点】 文字学習についての実態研究をみると、文字学習の状況が理解できる。</p>
10 . テ ー マ	環境的剥奪による言語発達遅滞
	<p>【学習の目標】 ことばを獲得するためには、適切な対人交流の中で十分な言語刺激を受け取ることが必要である。言語発達を支える生育環境を奪われた場合の言語発達遅滞について知る。</p> <p>【学習の内容】 環境的剥奪を経験した子どもの言語発達遅滞について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 初期環境、臨界期、母性的養育喪失、発達過程</p> <p>【学習の課題】 成長の過程で適切な養育環境を剥奪された事例について、その回復過程を学習する。</p> <p>【参考文献】 小林春美 他(編) 2006 子どもたちの言語獲得 中野善達訳編 1980 アヴェロン野生児研究 福村出版</p> <p>【学習する上での留意点】 言語の獲得には、種々の条件が必要なことを事例的に学習する。</p>
11 . テ ー マ	言語障害発生のメカニズム
	<p>【学習の目標】 コミュニケーションは、神経学的発達、聴力、発語器官の機能、発話体験、対人的交流、社会的体験など様々な側面に支えられて発達するが、どの側面に問題が生じてても言語障害が生じる。その様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 言語の産出および受容の側面から言語障害が生じる状況を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 言語障害の種類、聴力、言語の受容・表出</p> <p>【学習の課題】 話者が発話し、聞き手が理解し、それに対応するプロセスのどの段階においても問題が生じると言語障害が生じることを分析的に理解する。</p> <p>【参考文献】 西村辨作(編) 2001 入門コースことばの発達と障害 1: ことばの発達入門</p> <p>【学習する上での留意点】 言語障害には障害される側面の違いから様々な種類があることを理解する。</p>
12 . テ ー マ	言語障害 (1) 構音障害
	<p>【学習の目標】 構音の発達について知り、構音障害の様態について様相を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 構音の発達および障害について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 構音障害、口唇・口蓋裂、構音検査</p> <p>【学習の課題】 子どもの言語障害の中で多くみられる構音障害について、その概要を理解する。</p> <p>【参考文献】 飯高京子、若葉陽子、長崎勤(編) 1987 講座言語障害児の診断と指導第1巻 構音障害の診断と指導 学苑社 笹沼澄子(編) 2007 発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論 医学書院</p> <p>【学習する上での留意点】 基本的に健常児における構音の発達が構音障害の診断にとって重要な指標となることを理解する。</p>
13 . テ ー マ	言語障害 (2) 吃音
	<p>【学習の目標】 吃音は、遺伝的、生理的、言語的、心理的要因が複雑に絡んで発症すると考えられている。ここでは、吃音の発症、進展過程について知るとともに、発達途上の言語表出のなめらかさの欠如の場合の保育者の対応の基本について理解する。</p> <p>【学習の内容】 言語発達途上における言語表出のなめらかさの欠如、吃音の病因論、吃音発症年齢、生理的要因との関連、吃音の進展、自然治癒等について理解する。</p> <p>【キーワード】 遺伝的要因、生理的関与、言語的研究、吃音進展、吃音治療</p> <p>【学習の課題】 近年の病因論について理解するとともに、さまざまな治療方策があることを理解する。</p> <p>【参考文献】 飯高京子、若葉陽子、長崎勤(編集) 1990 講座言語障害児の診断と指導 第3巻 吃音の診断と指導 学苑社 都筑澄夫(編著) 2001 言語聴覚療法シリーズ 13 吃音 建帛社</p> <p>【学習する上での留意点】 吃音には様々な要因が影響することを知り、治療の方法としてはさまざまな対応があることを理解する。</p>
14 . テ ー マ	言語発達と児童文化財 (1) 絵本、言葉遊び等
	<p>【学習の目標】 幼児期の言語発達と従来からある児童文化財である絵本や言葉遊びの関連について考える。</p> <p>【学習の内容】 わが国の従来からあることばにかかわる児童文化財についての理解を深め、それが子どもの言語発達をはじめ発達全体にもたらす影響について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 絵本、言葉遊び</p> <p>【学習の課題】 幼児期の発達とともに対象となる絵本や言葉遊びはどのように変化するかについて概観する。</p> <p>【参考文献】 横山真貴子 2004 絵本の読み聞かせと手紙を書く活動の研究: 保育における幼児の文字を媒介とした活動 風間書房</p>

<p>保田恵莉 2015 保育者のまなざし(3) 乳幼児の心を育む絵本研究：創作絵本を通した読み聞かせから 幼年児童教育研究 27 pp1-12 磯野久美子 2015 幼児期の読み聞かせによる絵本体験のもつ意味：絵本を通した人とのつながりを中心に 幼年児童教育研究 27 pp25-33 その他、児童文化財と子どもの関わりに関する図書は多いので、それらも参考にするとよい。</p> <p>【学習する上での留意点】 保育場面における絵本の読み聞かせや言葉遊びの場面を観察して参考にとすると良い。</p>	
15. テーマ	言語発達と児童文化財(2) 電子媒体遊び等
<p>【学習の目標】 昨今では、遊びも変化してきた。PC などを用いた電子媒体遊びが幼児期の子どもの間でも一般的になっている。ここでは、近年の児童文化財と子どもの言語発達の関連について考える。</p> <p>【学習の内容】 子どもを取り巻く言語的環境の変化が子どもに及ぼす影響について検討する。</p> <p>【キーワード】 電子媒体遊び、映像、TV アニメ</p> <p>【学習の課題】 子どもを取り巻く言語的環境の変化について、広く映像やゲーム、TV アニメなどを資料として考察する。</p> <p>【参考文献】 資料を配付する。</p> <p>【学習する上での留意点】 現代では様々な新しい刺激が提示されていて、児童文化財にもその影響は及んでいる。その中には子どもにとっては刺激の強いものもある。子どもに人気のある映像やゲーム、TV アニメについて、実際の保育場面を観察して参考にとすると良い。</p>	

1. 科目名 (単位数)	子育て支援特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5315
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1年次以上	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	子どもの発達の基盤を支えるために、就労と育児の両立支援の推進、相談支援体制の整備・充実、子育て支援情報の提供、子どもの環境づくりなど子育て支援の状況と今後のあり方について、現在の子どもを取り巻く社会状況と関連させながら分析・研究する能力を養う。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健やかな発達を促進する条件を理解する。 2. 現代の子育て状況の問題点を理解する。 3. 親への援助の方法を理解する。 4. 家庭、幼稚園・保育所、地域における子育て支援の実際について理解する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマ及び以下のレポート課題を課す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の人間関係の経験と子どもの育ち、性格形成について、さまざまな立場の考えをまとめ、子育て支援の重要性を論じなさい。(さまざまな理論的立場を基礎に乳幼児期の重要性を把握できていること。) 2. 現代社会の変化における家族、夫婦の関係、子育て支援を必要とする社会の根本的問題について考え、 どういう方向に進むとよいか論じなさい。(育児不安から虐待まで、家族心理学を基に母親の自己肯定感のゆらぎ、貧困などの問題を、社会経済的視点も含み諸外国の動向も参考に考える。) 3. 集団と個の関係は子育て支援に欠かせない視点で、家族、公園での友達関係、多様な子育て支援活動などに活かれます。あなたの実践の場で、子育て支援と関連付け、集団心理療法のひとつとしての心理劇をどのように活用できるか、具体的な場面を設定し論じなさい。(親の立場を受容し、自ら気づいて育つかかわりを具体的にどのように進めるか、親の心の動きを考えながら一瞬一瞬をかかわる視点で考える。) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】・矢吹芙美子「関係を育む発達支援」 武藤・上原編著「発達支援－豊かな保育実践に向けて－」 ななみ書房</p> <p>・矢吹芙美子「生涯にわたる『人間関係』」 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」萌文書林</p> <p>下記「14 学習の展開及び内容」に記載の参考文献が絶版で入手困難な場合はお申し出ください。必要な部分をコピーするなどして対処します。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>【通学課程】・授業内での発表や発言 50%、レポート 50%</p> <p>【通信教育課程】・レポート課題 (第1レポート 30%、第2レポート 30%、第3レポート 40%)</p>		
12. 受講生への メッセージ	報道でもしばしば取り上げられている今日的な課題であるので、広く関心をもって、日頃から情報収集を心がけて下さい。積極的な態度で授業に取り組むことを期待します。		
13. オフィスアワー	当該授業の前後、および研究室に在室している時		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テー マ	発達の基盤形成にかかわる親		
【学習の目標】	発達の基盤形成に必要な「関係の構造」と「関係の質」を理解する。		
【学習の内容】	親と子の一瞬一瞬のかかわりに秘められた関係の質について諸立場の研究から理解する。		
【キーワード】	自己・人・物関係、かかわり方の質、脳の発達と人間関係		
【学習の課題】	発達の初期に必要なかかわりの質について理論を理解し、実践的に活用できるようになる。		
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・D.N.スターン 小此木圭吾、丸田俊彦監訳、神庭靖子、神庭重信訳 「乳児の対人関係－理論編・臨床編－」 岩波学術出版社 ・「乳幼児精神医学への招待」 ミネルヴァ書房 ・矢吹芙美子 「乳幼児の発達の道すじ」 伊藤わらび編著「保育学」建帛社 ・矢吹芙美子 「心の発達と人間関係」 吉川晴美編著「共に育つ－人間探求の児童学－」 宣協社 ・矢吹芙美子 「乳児初期の情緒と自己・人・物関係の発達」 関係学研究 32-1 ・トラヴァーセン 「早期乳児期における母子間のコミュニケーションと協応」 「第2次相互主体性の成り立ち」 鯨岡峻訳「母と子のあいだ」 ミネルヴァ書房 		
2. テー マ	親子の愛着の形成について		
【学習の目標】	親子の愛着を育てるかかわりについて学ぶ。		
【学習の内容】	愛着とはなにか、養育者のあり方が子どもの発達に及ぼす影響について理解する。		
【キーワード】	愛着、養育者の精神的健康とかかわり、自己肯定感		
【学習の課題】	養育者の精神的健康のリスク要因と予防要因にはどのようなことが挙げられるか考える。		
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・遠藤利彦、数井みゆき「アタッチメント」 ミネルヴァ書房 ・H.R.シャファー「子どもの養育に心理学が言えること」新曜社 ・ボウルビィ 黒田実郎他訳「母子関係の理論ⅠⅡⅢ」岩崎学術出版社 		
3. テー マ	親のかかわり方と子育てに関する有能性		
【学習の目標】	生涯発達におけるかかわり方を理解する。		
【学習の内容】	親のかかわり方や養育態度が子どもの発達に及ぼす影響について理解する。		
【キーワード】	親の養育態度、かかわり方の5類型		
【学習の課題】	発達段階に応じて子どもにとって良いかかわり方はどのようなものであるか考える。		

【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・矢吹芙美子「生涯にわたる『人間関係』 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」萌文書林 ・井上健治・久保ゆかり「子どもの社会的発達」東京大学出版会
4 . テ ー マ	<p>父母子関係の基盤的三者関係</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>父母子の基盤的な三者関係について理解する。 三者関係の理論と構造を理解し、子育て期にある親子にとって必要な支援とは何かについて学ぶ。 三者関係、間関係、父親の育児家事参加 自己人物の三者関係、人々の三者関係を認識し、関係の発展を考える。 ・矢吹芙美子「関係を育む発達支援」 武藤・上原編著「発達支援—豊かな保育実践に向けて—」ななみ書房 ・児童臨床研究会「共に育つ発達評価法」関係学研究所</p>
5 . テ ー マ	<p>家族の変貌と親としての成長</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>家族の変貌、親としての成長・変貌について理解する 恋愛・結婚から夫婦・親としての成長・変貌の過程を理解する。 夫婦の関係 家族の変貌、親性 夫婦の関係は養育者の精神的安定、自己肯定感は子どもの育ちにどのように影響するか、女性（母親）と男性（父親）では、親性の獲得過程に違いがあるのかを考える。 ・落合恵美子「21世紀の家族」有斐閣 ・阿部彩「子どもの貧困」岩波新書 ・柏木恵子「父親になる、父親をする」家族心理学の視点から 岩波書店 ・柏木恵子「家族心理学」東京大学出版会 ・H.R.シャプラー「子どもの養育に心理学が言えること」新曜社</p>
6 . テ ー マ	<p>子どもと家族のヘルスケア</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>子どもと家族のヘルスケアの必要性と虐待の可能性を理解し支援の方法を学ぶ。 子どもと家族のヘルスケアのしかた、虐待とその定義とその背景要因、支援の方法を理解する。 愛着障害、虐待、家族支援 親の不適切なかかわりが子どもの発達に及ぼす影響について考える。 ・数井みゆき・遠藤利彦「アタッチメントと臨床領域」 ミネルヴァ書房 ・V.プライア、D.グレイサー 「愛着と愛着障害」北大路書房 ・信田さよ子編 「子どもの虐待防止最前線」大月書店</p>
7 . テ ー マ	<p>幼稚園・保育所の経験と子どもの育ちについて</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>幼稚園・保育所における経験と子どもの育ちについて学ぶ。 幼稚園・保育所における経験が子どもの発達に及ぼす影響について理解する。 家庭保育と集団保育、家庭から集団への移行、保育者のあり方 幼稚園・保育所の集団保育において、子どもはどのような経験をするのであろうか。家庭保育と異なる点としてどのようなことが挙げられるかについて考える。 ・矢吹芙美子「生涯にわたる『人間関係』 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」萌文書林 ・井上健治・久保ゆかり「子どもの社会的発達」東京大学出版会</p>
8 . テ ー マ	<p>幼稚園・保育所における仲間関係の発達について</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>幼稚園・保育所における仲間関係の発達について理解する。 仲間関係が子どもの発達に及ぼす影響について理解する。 仲間関係 子どもが人とかかわる力を育むために、保育者に求められる役割について考える。 ・矢吹芙美子「生涯にわたる『人間関係』 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」萌文書林 ・遠藤純代『遊びと仲間関係』 「人生への旅立ち—胎児・乳児・幼児前期」金子書房 ・児童臨床研究会「共に育つ発達評価法」関係学研究所 ・山本登志哉「群れ始める子どもたち；自律的集団と三極構造」岡本夏木、麻生武編「年齢の心理学-0歳から6歳まで」</p>
9 . テ ー マ	<p>幼稚園・保育所の中での自己制御機能の発達</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>幼稚園・保育所の中での自己制御機能の発達について学ぶ。 自己制御機能（自己抑制・自己表現）とは何かについて理解する。トラブル場面における大人のかかわり方の自己統制力への影響を理解する。 自己制御、自己抑制、自己表現 子どもが自己制御機能を獲得するうえで、保育者が果たす役割について考える。 ・矢吹芙美子「生涯にわたる『人間関係』 酒井幸子編著「保育内容 人間関係」萌文書林 ・井上健治・久保ゆかり「子どもの社会的発達」東京大学出版会</p>
10 . テ ー マ	<p>発達初期の家庭外保育の子どもへの発達に及ぼす影響</p>
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	<p>発達初期の家庭外保育の子どもへの発達に及ぼす影響について学ぶ。 3歳未満児の保育所入所希望者は増加を続けており、定員を超えて待機児童となっている、発達初期の段階で家庭外の保育施設で保育されることは、子どもの発達や親子関係にどのような影響を及ぼすかについて考える。 保育の質 「3歳までは母親の手で」といういわゆる3歳児神話の是非について考える。 ・日本子ども学会編「保育の質と子どもの発達 アメリカ国立小児保健・人間発達研究所の長期追跡研究から」赤ちゃんとママ社</p>

	・H.R.シャプファー「子どもの養育に心理学が言えること」新曜社
11. テーマ	保育カウンセリングの在り方について
【学習の目標】	保育カウンセリングのあり方について理解する。
【学習の内容】	カウンセリングの理論と技法について理解し、子どもを取り巻く状況における問題の特性を理解する。
【キーワード】	保育カウンセリング、三者面談法、アクションカウンセリング、発達臨床コンサルテーション
【学習の課題】	近年増える傾向にある、いわゆる「気になる子」に対して、子どもや家族、保育者などにどのような支援が可能か考える。
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・矢吹芙美子「関係を育む発達支援」 武藤安子、上原貴夫編著「発達支援」ななみ書房 ・児童臨床研究会 「共に育つ発達評価法」関係学研究所 ・土屋明美「アクションカウンセリングー共に状況を創り・育てる心理劇的カウンセリングー」日本心理劇協会 ・モレノ、増野肇監訳「サイコドラマー集団精神療法とアクションメソッドの原点」白揚社 ・グリーンズパン、ウィーダー 広瀬宏之訳「自閉症の DIR 治療プログラム」創元社
12. テーマ	地域での子育て相談の在り方
【学習の目標】	地域での子育て相談の在り方について学ぶ
【学習の内容】	子育て支援政策の流れを理解し、未就園児などを対象にした地域の子育て家庭に対する支援について理解する。
【キーワード】	子育て支援センター、保健センター（保健所）、児童相談所
【学習の課題】	地域における子育て相談の課題について考える。
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・汐見稔幸・佐藤博樹・大日向雅美・小宮信夫・山縣文治監修「地域の子育て環境づくり」ぎょうせい ・矢吹芙美子「第8章 保育における問題への支援」伊藤わらび編著「保育学ー21世紀の子ども達へー」建帛社
13. テーマ	幼稚園・保育所における子育て支援の実際
【学習の目標】	幼稚園・保育所における子育て支援の実際について学ぶ。
【学習の内容】	幼稚園・保育所において実践されている地域に開かれた子育て支援について理解する。
【キーワード】	幼稚園における預かり保育、子育て相談、子育て支援活動
【学習の課題】	子育て支援に対する保育者、保護者それぞれの意識や期待にはどのようなことが挙げられるかについて考える。また、子育て支援によってどのような効果もたらされるかについて考察する。
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・児童臨床研究会 「共に育つ発達評価法」関係学研究所
14. テーマ	地域での子育て支援の実際と今後の課題
【学習の目標】	地域での子育て支援に関する政策の流れと実際の活動を理解する。
【学習の内容】	子育て支援活動の実際の内容、展開を理解する。
【キーワード】	子育てサークル、子育て広場、児童館（児童センター）、共に育つあり方、地域の仲間づくり
【学習の課題】	地域での子育て支援活動における専門家の役割の取り方と内容の展開の可能性について考える。
【参考文献】	<ul style="list-style-type: none"> ・汐見稔幸・佐藤博樹・大日向雅美・小宮信夫・山縣文治監修「子育て支援の潮流と課題」ぎょうせい ・児童臨床研究会 「共に育つ発達評価法」関係学研究所 ・土屋明美監修 関係状況療法研究会「グループ活動を始める時に」 ななみ書房
15. テーマ	まとめ
【学習の目標】	これまでの学習についてまとめる。
【学習の内容】	興味・関心のあるテーマを一つ選び、各自でまとめて発表する。
【学習の課題】	学習の内容を振り返るとともに、自ら課題を設定してまとめることで、より深く理解する。

1. 科目名 (単位数)	子育て支援演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6315
2. 授業担当教員	矢吹 芙美子		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	2年以上	履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	子育て支援について、毎回決められたテーマに沿った学術論文を各自で探し出し、要約したものを発表し、検討する。子育て支援に関する最新の知見を学ぶとともに、学術論文の読み方、まとめ方を身につけて、自らの修士論文の作成に向けて役立てる。		
8. 学習目標	1. 子育て支援の実践とその効果について理解する。 2. 学術論文の読み方とまとめ方について理解する。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	毎回、学術論文のコピーとそれを要約したものを提出し、発表する。それを踏まえて、討論を行う。また、最終課題として、各自でテーマを定めて、論文を読み提出する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 指定しない。 【参考文献】 授業時に、適宜紹介する。		
11. 成績評価の方法	毎回の要旨と発表 50% 課題レポート 50%		
12. 受講生への メッセージ	受講生による発表が中心となるので、積極的な態度で参加すること。		
13. オフィスアワー	当該授業の前後、および研究室に在室している時		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1～2. テーマ	学術論文の検索の方法について		
	【学習の目標】 学術論文の検索方法。ならびに文献の入手方法について学ぶ。 【学習の内容】 学術論文のデータベースの利用方法を理解する。 【キーワード】 文献検索 【学習の課題】 子育て支援をテーマに関連文献を検索する。		
3～5. テーマ	幼稚園・保育所を中心とした子育て支援について		
	【学習の目標】 幼稚園・保育所を中心とした子育て支援について学ぶ。 【学習の内容】 幼稚園・保育所で実施されている子育て支援とその効果について検証した論文を読んでまとめる。 【キーワード】 幼稚園、保育所 【学習の課題】 支援の効果がどこまで検証されているか、今後の課題は何かについて考察する。 【参考文献】 適宜、紹介する。		
6～8. テーマ	児童館、子育てサークル、親子広場等における子育て支援について		
	【学習の目標】 児童館、子育てサークル、親子広場等における子育て支援について学ぶ。 【学習の内容】 児童館、子育てサークル、親子広場等で実践されている子育て支援とその効果について検証した論文を読んでまとめる。 【キーワード】 地域子育て支援拠点事業 【学習の課題】 支援の効果がどこまで検証されているか、また今後の課題は何かについて考察する。 【参考文献】 適宜、紹介する。		
9～11. テーマ	国内外における子育て支援プログラムの実践について		
	【学習の目標】 国内外における子育て支援プログラムの実践について学ぶ。 【学習の内容】 国内外における子育て支援プログラムの実践とその効果について検証した論文を読みまとめる。 【キーワード】 子育て支援プログラム 【学習の課題】 支援の効果がどこまで検証されているか、また今後の課題は何かについて考察する。 【参考文献】 適宜、紹介する。		
12～14. テーマ	個別のニーズに応じた子育て支援の実践について		
	【学習の目標】 個別のニーズに応じた子育て支援の実践とその効果について学ぶ。 【学習の内容】 個別のニーズに応じた子育て支援の実践とその効果について検証した論文を読みまとめる。 【キーワード】 ひとり親家庭、虐待、親の抑うつ、発達障害、育児不安 【学習の課題】 支援の効果がどこまで検証されているか、また今後の課題は何かについて考察する。 【参考文献】 適宜、紹介する。		
15. テーマ	まとめ		
	【学習の目標】 これまでの学習についてまとめる。 【学習の内容】 これまでの学習を踏まえ、各自でテーマを設定し、レビューを行う。 【学習の課題】 子育て支援に関する実践と効果の検証について理解を深めるとともに、今後の課題について考える。		

1. 科目名 (単位数)	児童環境保健学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6324						
2. 授業担当教員	鈴木 路子								
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	<p>現代の児童をとりまく、自然環境・生活環境について保健衛生的見地から講義する。また、児童の成長過程で、外界からの各種環境刺激を受けながら発達する生命を保持増進する能力 (環境適応能力) を基盤として、胎内環境との胎児の発育も含めて、心身の発達・健康影響について論及する。さらにその環境刺激の量と質の問題から、児童を取り巻く環境への接近を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の気象因子と住まい—建築衛生的視点の導入— 2. 各種生活環境と児童の健康影響 3. 児童の生活習慣の確立と環境保健 4. 身近な環境から、生態系へ (心身ともに健康な国民の育成から、次世代へ繋がる環境保全、生態系へ) 児童教育学の基盤として、人間環境系は重要な課題であり、教育・福祉・医療の原点である。総合的思考能力の育成、身近な生活環境や生活行動のあり方を企画立案し、実践行動する能力の育成が究極の目標である。 								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紀元前より、人の生命、疾病、健康状態は、空気・水・光・植生等、地域環境からの相互作用としてとらえる事が重要とされてきた。このヒポクラテスの考えが現代にも通用すること、「ヒポクラテスの時代へ帰れ」の科学的意義を実証データにより再現する：気象条件と病欠、発育の季節変動等 (時系列解析による) ほか。 2. 児童の発育・健康と各種環境要因との相互作用を明らかにする。 —大気汚染・水質汚濁・気象因子・騒音・電磁波・食品衛生環境・住環境・衣環境等の生体への影響— 3. 2で明らかになった現状に将来予測も含めて、どのような対策を行うかを検討すると共に、教育行政、衛生行政 (環境保全)、福祉等の側面から、法令・施策の現状と課題を認識する。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 古典となった著書等から学ぶ。 ルソーの「エミール」、ヒポクラテス「古い医術について」、ナイチンゲール「看護覚え書」、クロード・ベルナル「実験医学序説」、キャノン「人間この未知なるもの」、ほかの著書・文献より人間の生命現象 (成長過程) と環境との関連について学び、児童教育にどのように生かしたらよいか考察せよ。 2. 現代の児童の心やからだ、生活行動と環境との相互作用について。 3. 児童の健全育成と地域・学校・家庭との関連について考察せよ。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木路子編『人間環境・教育福祉論』 光生館 2007 (2007 年出版)。 鈴木路子・真野喜洋編著『教育健康学—医療と教育の接点を求めて』ぎょうせい、2007。</p> <p>【参考書】 厚生白書「国民衛生の動向」厚生統計協会、平成 25 年 「小児保健学会誌」「建築衛生学雑誌」「空気清浄衛生工学会誌」「照明学会誌」「WHO Technical Report」 【日本生気象学会誌】ほか</p>								
11. 成績評価の方法	<p>評価方法：論文、レポート、日常の授業態度 (質問、授業参加度) で行う。</p> <table> <tr> <td>論文</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>日常の授業時の応答・参加度等</td> <td>20%</td> </tr> </table> <p>※通信教育は第 1 レポート～第 3 レポート 100%</p>			論文	40%	レポート	40%	日常の授業時の応答・参加度等	20%
論文	40%								
レポート	40%								
日常の授業時の応答・参加度等	20%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>児童の成長過程と環境との相互作用を主として保健衛生的視点で扱った研究領域は、非常に貴重です。環境諸要因と児童の発育 (成長) 過程に及ぼす影響や心身状態との因果関係については、極めて難しい問題をはらんでいます。この問題に視点をおいて、すでに明らかになっていること、影響が予測されることについて、十分な検討が必要です。そして、これからの児童の健全育成について、人間環境保健、人間環境福祉の立場から、十分に支えられるだけの認識と科学的知見の導入が必要不可欠と考えます。児童の教育実践の基盤として、より実践化されていくことを期待しています。</p>								
13. オフィスアワー	別途通知します。								
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】									
1. テーマ	人間の成長過程と環境刺激 (I) 五感の発達—脳神経系の発達と環境—								
	<p>【学習の目標】 脳神経系の発達は、胎内環境下でその基盤が形成され、個として出生し、外界からの環境刺激を受けて発達をしてゆく成長過程に視点を当てる。ここではとくに、皮膚感覚・視覚・聴覚など、感覚として受けた刺激が、脳神経系の発達を促す相乗効果となっていることを理解し、児童の健全育成にとっての環境保健のあり方を考える科学的基盤を学び、実践場面への応用力の育成を図る。</p> <p>【学習の内容】 日本赤ちゃん学会 (2001 年設立) における研究成果 (学会誌「ベビーサイエンス」) より、五感の発達と脳神経系に関する文献から、人間の赤ちゃんの生命力の神秘性を現代科学の成果を導入するとともに、今日の脳神経系の研究成果の医学生物学的、哲学的基盤として、前東大脳研究所長 故時実利彦教授の研究成果を中心に保育実践場面での研究成果の展開を試みる。とくに知識と体験、科学研究と実践場面への応用は、現代の児童学研究の基礎基本となる。</p> <p>【キーワード】</p>								

	<p>成長過程、五感、脳神経系、環境刺激</p> <p>【学習の課題】 自然環境からの空気の流れ、光、温冷感、音、景観など、の感覚刺激が、乳幼児期の成長過程にどのように作用し、脳神経系の発達を促すかについて、論述せよ。</p> <p>【参考文献】 ベビーサイエンス、2001～2007. VOL.1～7 諸隈誠一ほか3、胎児行動による中枢神経機能の評価、ベビーサイエンス Vol.2007 守田知代、板倉昭二、安藤規弘、自己認識と自己評価の発達とその神経基盤、ベビーサイエンス Vol.2007 加藤正晴、2 時運動を中心とした運動視の発達、ベビーサイエンス Vol.2007 ほか 津本忠治著「脳と発達：環境と脳の可塑性」。朝倉書店、1986 時実利彦「目で見る脳—その構造と機能」東京大学出版会、1969 時実利彦「よるめく現代人」岩波新書、1960 時実利彦「脳の話」岩波新書、1962 時実利彦「人間であること」岩波新書、1970</p> <p>【学習する上での留意点】 教科書から、各種文献にわたる広範囲の流れを主として生理生化学的側面から、発達の様相を把握する。</p>
<p>2 . テ ー マ</p>	<p>人間の成長過程と環境刺激（Ⅱ）生体リズムの獲得と光環境</p> <p>【学習の目標】 人間の生命の営みは、呼吸・循環・消化・吸収・排泄・体温・代謝活動・運動など多くの内臓諸器官が活動し、脳神経系・免疫系・内分泌系が、調整する。これらの生理的・生化学的視点に立った生命現象は、外界の光環境（日射量・日照時間）温熱・空気・気象環境によって変動する。母胎に依存していた胎児期から、乳幼児期の成長過程において、これらの生命現象にリズムが形成される（生体リズム）。ここでは、小児期における生体リズムの獲得過程（同調）を明らかにする。</p> <p>【学習の内容】 1 子どもの成長過程において、生命現象にリズムが獲得されていくこと。 2 体温、血圧、呼吸、睡眠など各種生理生化学的活動は、地球の自転に伴う昼夜のリズム、気圧・気象・日射・日照等、自然環境からの刺激を受けながら、リズムが修得（獲得）される。 3 乳幼児期は、これら人間の生命にとって重要な生理的意義を有する生体リズムを獲得し、生きる力の基盤が形成される。</p> <p>【キーワード】 成長過程、生体リズム、同調・脱同調、光環境、高照度光療法</p> <p>【学習の課題】 生体リズムを獲得（同調）していく過程にある乳幼児期と獲得された生体リズムが脱同調過程にある老年期で、どのような生理的特性または諸症状を伴うか生体リズムの脱同調の例としての時差ぼけや認知症と生体リズムの脱同調の関連、その症状改善に高照度光療法を用いることなどにより、早朝の朝日を浴びる健康生活習慣と自然環境刺激の必要性について、論証せよ。</p> <p>【参考文献】 「照明学会誌」「日本生物気象学会誌」「International Society of Biometeorology」「建築衛生学雑誌」等の論文 日本気象学会編「生気象学の事典」、朝倉書店、1992 千葉喜彦・高橋清久編「時間生物学ハンドブック」朝倉書店、1999 川村浩著「脳とリズム（シリーズ脳の科学）」、朝倉書店、1989</p> <p>【学習する上での留意点】 この領域は、子どものアレルギーや低体温、疲れやすさなど、各種不定愁訴、不適応行動に至るまで、心身の不調和の肢体的背景として、注目されるものである。心身状態の不調和は、生物学的発達課題、ここでは人間の生きる力の根底を支える内部環境の調整（工場制の維持）能力を獲得してゆく過程で現れる諸現象として根源的に理解しておく必要がある。夫々の専門領域に入り込んでの学習は時間を要するものであるが、子ども理解の第1歩として、子殿の成長を支える保育環境のあり方を考える重要な役割を演じることに留意したい。</p>
<p>3 . テ ー マ</p>	<p>人間の成長過程と環境刺激（Ⅲ）免疫系・内分泌系の発達と環境刺激</p> <p>【学習の目標】 脳神経系の発達に伴って、免疫系・内分泌系が、相互に関連しながら、発達することを理解する。 脳神経系⇄内分泌系⇄免疫系の連携した発達によって、内部環境（個体）の恒常性（健康の幅・適応の幅）が、維持増進される。外的環境からの刺激を受けた人間の感性、とくに快適感覚（情緒情動の安定）が、これらの機能の調和的発達を促す。生活環境刺激は、日常の生活習慣の確立と共に連動して発達することを明らかにする。</p> <p>【学習の内容】 1 免疫系・内分泌系・脳神経系の相互作用によって、個体の生命現象が調和調節されていること。 2 寒冷・暑熱環境刺激が、皮膚粘膜を刺激し、温冷感の発動が、体温調節機構の発動にどのような影響があるか、自律神経系をかいした脳神経系への発達刺激として受け止められると共に、脳下垂体→副腎系（内分泌系）への発達刺激、さらに免疫系への関与について学ぶ 3 乳幼児期、学齢期、思春期における脳神経系、免疫系、内分泌系の発達課題について明らかにする。</p> <p>【キーワード】 免疫機能の発達、内分泌機能の発達、成長ホルモンの分泌、身体発育、冷刺激の皮膚感覚発動、免疫物質の産生亢進</p> <p>【学習の課題】 脳神経系⇄内分泌系⇄免疫系は、外的環境刺激を受けた内部環境の調節反応系として、相互作用しながら、発達してゆく成長過程として現れる生命現象であること。</p> <p>【参考文献】 伊藤眞次著「脳のホルモン：前頭葉をめぐって」朝倉書店、1993 馬場一雄著「成長の生理学」「成長の生化学」医学書院、1966</p> <p>【学習する上での留意点】</p>

<p>内分泌⇄脳神経系⇄免疫系のトライアングル（相互作用）は、現代の児童学・教育学では、当然の基本原理となっているが、そのメカニズムをしっかりと把握するまでの実践現場への展開は未だ不十分な状態にある。とくに内部環境の恒常性を如何に保つか、その能力を培うための外部環境刺激をトータルに理解していくことが重要である。</p>	
4 . テ ー マ	人間の成長過程と環境刺激（IV）成長過程における睡眠の役割
<p>【学習の目標】 小児の睡眠機能の発達の様相と脳神経系の発達を理解し、睡眠の身体調節機能の役割を理解する。</p> <p>【学習の内容】 睡眠のパターンと成長ホルモンの分泌 加齢による睡眠機能の発達 睡眠（夜）と活動（昼）時の生体機能のリズムの獲得 お昼寝の役割（風俗習慣含む）</p> <p>【キーワード】 睡眠と覚醒、睡眠の深さとパターン、乳幼児の睡眠の特性と生理的意義</p> <p>【学習の課題】 ヒト胎児では、REM/NREM 睡眠のリズム機能が開始され、妊娠 37 週ごろには成熟することが明らかになっている。 ヒト胎児行動から、中枢神経機能の基盤、とくに制御中枢としての延髄、橋、橋皮質投射路の機能の成熟過程も含めて、人間の成長過程における睡眠の役割を理解する。お昼寝の生理的意義、早寝早起き、生体リズムの形成基盤としての睡眠、披露と睡眠、快適睡眠の確保のための睡眠環境科学の理論を学び、実践化、健康生活習慣化を図る。</p> <p>【参考文献】 鳥居鎮夫編「睡眠環境学」朝倉書店、1999 前記、ベビーサイエンスからの文献</p> <p>【学習する上での留意点】 睡眠の科学の深さと広さ、実践応用、人間の情緒情動、日々の健康生活上の重要基盤としての、生きることの基本条件としての睡眠の科学的把握を行うこと。</p>	
5 . テ ー マ	人間の成長過程と環境刺激（V）体温調節能力の発達と環境
<p>【学習の目標】 担当教授 鈴木路子の博士論文の中心実験は、小児の体温調節能力の発達を見るためのものであった。ここでは、皮膚表面温度、呼吸分析（ガス分析）等、古典的になっている生理学的手法によって、明らかにした。このような手法によって、明らかになった小児の体温調節能力の発達は、現代社会における発達のゆがみも含めて、小児の成長過程で重要な生理的意義を持つこと。このことは発達を阻害する各種要因として、都市化・人工化された閉鎖的溫度環境が上げられる。とくに現代の高気密化した建築様式が、児童の免疫機構の発達阻害を促し、アレルギー疾患の増大を予測した。ここでは、担当者の研究及び教育の原点を体系化して提示したい。</p> <p>【学習の内容】 1 体温調節機能の発達の指標、方法論の検討⇄実験的方法の検討、フィールド研究への応用 2 児童学研究の生理学的基礎として、寒冷暑熱反応としての体温調節機能の発達 3 体温調節中枢と情緒・情動の中枢である間脳・視床下部にあること、薬理学的的方法論により、体温調節のメカニズムにふれ、小児期の発達過程における成人期への移行期としての 10 歳前後の特性について考える。 4 体温調節の発達及び体温の生体リズムの年齢差、個体差、体質差について考察し、喘息児・自閉症児・不登校児の一般健康児との対比を文献学的に行う⇄可能ならば、実測を行い、確認する。 5 ここから得られた結果は、人間のよりよく生きることが、身体の生理的基盤と心理的（情緒・情動的）基盤の調和的発達につながることを示唆するものであり、児童学研究の切り口を提示するものであることへの気づきを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 物理的調節・化学的調節、皮膚温、代謝活性、体温調節中枢、情緒情動の中枢</p> <p>【学習の課題】 体温の生理的意義、研濃い指標としての意義について、実証せよ。</p> <p>【参考文献】 中山昭雄編「温熱生理学」理工学社、1974 ウインスロー（北博正訳）「温度と人間」、医歯薬出版、1966 緒方維弘「適応—気候風土に対する適応（健康の生理学 9）」医歯訳出版、1973 JAMES D.HARDY, A.PHARO GAGGE, JAN A.STOLWIJK, PHYSIOLOGICAL AND BEHAVIORAL TEMPERATURE REGULATION,CHARLES C THOMAS/PUBLISHER, 1970</p> <p>【学習する上での留意点】 ここでは、生理学的指標を用いて、子ども理解を深めること、その研究方法論について学ぶ。 児童学とは、よりよい児童の成長過程を明らかにし、児童の人権（生命権）、発育発達権、学習権を支援する学問領域であること、その成果は、児童の生活環境、育児環境に生かされ、制度化されて初めて、児童学の研究成果となることを確認するための学習であることに留意すること。</p>	
6 . テ ー マ	人間の成長過程と環境刺激（VI）形態発育・機能発達の生育環境差—耐寒性・耐暑性の発達の生態学—
<p>【学習の目標】 熱帯地域、寒冷地域、温帯地域など気候風土によって、人間の成長過程における環境適応能の発達は異なる。このことは、毎日の生活環境から受ける温熱刺激によって、生理的適応能の発達が異なること、とくに暑さ・寒さの温度ストレスが、耐暑性・耐寒性に与える影響を明らかにする。自然環境刺激—反応系として、成長過程を明らかにし、例えば、能動汗腺の発達には臨界期のあること等、発達には至適時期のあることを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 1 気象条件とヒトの適応、とくに成長過程で獲得される耐寒性・耐暑性の児童教育学的意義を考える。 2 インドネシア小児（4・5 歳～14・5 歳）の耐暑性テスト、耐寒性テストの現地調査結果を吟味する。</p>	

<p>3 インドネシア在住日本人小児の結果と対比する。 4 これからの児童を取り巻く環境を生理的適応能の発達の視点から考察する。 【キーワード】 耐暑性、耐寒性、発達の臨界期、自然環境、気象因子、生活習慣、生理的適応能、行動的適応能 【学習の課題】 教科書に示されたインドネシア小児の発汗機能から、生理的適応能の発達と行動的適応能の発達について考察せよ。 【参考文献】 鈴木路子・木村康一編著「保健・衛生ノートー保健科教育にいかす諸科学」(第11章 人類生態学の立場から pp371-399) 1986 鈴木路子編「人間環境・教育福祉論」第1章子ども達の未来 pp1-13、2007 【学習する上での留意点】 生理的適応能の発達に必要な不可欠な自然環境刺激が、欠如した都市化、人工環境化が、児童の耐暑性耐寒性にどのような影響が、及ぼされるか、また現代社会における児童の不定愁訴、アレルギー、各種不適応現象との関連がどのように見出されるかに留意する。</p>	
<p>7 . テ ー マ</p>	<p>児童の発達と体質傾向—体質傾向の年齢的消長—</p>
	<p>【学習の目標】 体質傾向とは、与えられた環境刺激に対する生体側の現す諸症状にどのような傾向があるかについてその特徴を明らかにする概念である。一般に医学（小児医学）の領域では、同じ環境刺激であっても、年齢によって現れる症状とその臓器が異なることが観察されている。遠城寺は、乳児期の侵襲性体質（皮膚粘膜への反応傾向）、学齢期の胸腺リンパ体質、思春期の神経関節炎体質を提唱した。このような体質傾向と疾病罹患（現す諸症状）傾向には、一定の関連性が存在することを明らかにし、児童理解の一助とする。 【学習の内容】 1 疾病罹患傾向、体質傾向には年齢的消長のあることを遠城寺宗徳と馬場一雄の臨床場面からの法則について、その生理的病理的免疫学的意義について学習する。 2 このような傾向の背景にある生理学的成長過程を明らかにする。 3 発達過程における年齢的消長をかく乱させる諸因子として、社会文化的環境因子が上げられるが、そのことがなぜ出現するかについて考察する。 【キーワード】 体質傾向、年齢的消長、アレルギー反応、臓器別発育パターン（スキヤモン）、疾病罹患傾向 【学習の課題】 1 体質傾向の年齢的消長及びアレルギーマーチの概念について説明し、その生理学的意義について検討せよ。 【参考文献】 馬場一雄「成長の生理学」医学書局 遠城寺、小児の体質傾向の年齢的消長（宮尾定信編「臨床体質学」金原出版、pp28-30、1971） 教科書、鈴木路子編「人間環境・教育福祉論」pp176-178、2007 【学習する上での留意点】 体質傾向の概念は、1970年代に提唱されたものである。しかし現代の小児医学の臨床場面においても、アレルギーマーチの概念として、馬場一雄らによって提唱され、小児の成長過程で現れる一過性の諸症状として理解され、その症状が定着または固有化されることのないように、適切な保育環境刺激の必要性が指摘された。しかし、現代の保育環境の急激な変異は、この傾向の一般的傾向として認識することが困難な状態にまで至っている。ここでは温故知新としての学びの再現をされたい。</p>
<p>8 . テ ー マ</p>	<p>児童の成長過程と疾病罹患状況—有症率の地域差・生活環境差—</p>
	<p>【学習の目標】 児童の疾病罹患傾向（有症率）には、地域差、生活環境差が重要な要因であった。近年、特定地域の環境汚染の時代から、広域的影響によることが多く、さらに住環境とそこに住む人間側の生活習慣による差が大きい時代となった。例えば、家族に喫煙者のいる場合、高気密な建築様式での喫煙による室内空気汚染は、交通量の多い交差点での大気汚染濃度の30倍以上というデータが存在すること。このことは地域環境汚染以上に人間側の生活習慣（行動）による空気汚染が、人体影に響を与えていることが示唆されている。人間—環境系は、人間の生活による環境の変化（環境形成作用）の重大さを、地球温暖化、異常気象も含めて理解すると共に、成長過程にある児童の健康影響は、成人まで長期的な影響を受けていることを科学的に認識することを学習の目標とする。 【学習の内容】 1 ゼイ鳴率の地域差の年次の推移（文献）より、大気汚染地域における児童の呼吸器系疾患・呼吸機能の発達。 2 高気密住宅における室内空気質、及び子どもの尿中ニコチン用物質の排泄と家庭内喫煙者の有無による優位な相関を示す調査結果（子どもの受動喫煙による生体影響）より、具体的環境影響評価を学習する。 4 地域環境における各種症状の疫学データから学ぶ。 5 地域の環境差を、空気、水、気象、民度、福祉施策等、社会文化的環境要因も加味した小児の疾病罹患傾向の疫学調査を企画し、実践、分析評価、改善試案を作成する。 【キーワード】 地域差、有症率、疫学調査、児童、成長過程、環境改善策、都市計画、福祉・医療施策 【学習の課題】 地域における児童の疾病罹患傾向を、検診結果を用いて分析し、地域差、生活様式差（生活習慣差）を明らかにし、今後の環境施策を提案する。 【参考文献】 各種地域環境に関するデータベースの検索 【学習する上での留意点】 有症率の年齢的推移が近年見られなくなったこと、また一般的な地域差ではその違いが見られなくなったことは、どのような意味を持つかに留意したきめ細かな問題への切込みが必要である。</p>
<p>9 . テ ー マ</p>	<p>大気汚染と児童期の諸症状</p>

	<p>【学習の目標】 大気汚染地域の児童の呼吸器系疾患、呼吸機能の発達への影響は、昭和 40 年～50 年代の宇留野、吉田らの調査結果からは重要な意味を有していた。近年、どの地域でも都市化が進み、自動車排気ガスの影響は、日本国、津々浦々まで行き渡っている。道路沿いの学校、住宅は、地方でも変化がなくなった。さらに建築様式の気密化や新築、改築による揮発性化学物質の影響は、児童の気道粘膜への影響を及ぼし、児童生徒のアレルギー疾患の罹患率は、10 年で 10 倍と増加の一途をたどっていることを、社会環境の変化が及ぼす児童の心身状態への影響として、トータルに概観し、今後の環境保全施策と生活習慣の基本的問題提起の重要性を提示することが、学習の目標である。</p> <p>【学習の内容】 昭和 40 年代より、現代に至る大気汚染による児童の健康被害がどのように変遷し、現代の環境と児童の健康課題は何か？大気汚染から、室内空気質による乳幼児、学齢児の健康被害に注目する。 乳幼児期からの呼吸器粘膜・免疫・自律神経系等、生体の内部調節機能の発達段階での受動喫煙や室内空気質の影響の重要性、環境科学的には、大気汚染の地球規模での問題・二酸化炭素上昇の現状と温暖化、オゾンホールと有害紫外線の上昇など、次世代を担う児童の生活生存に関わる地球環境レベルでの緊急課題であることを認識する。 21 世紀の児童健全育成は、環境課題への長期的展望を持った対応の科学的な重要性を認識し、地域レベルでの行動化を図ることから出発する。</p> <p>【キーワード】 大気汚染物質、一酸化窒素（NO）、総揮発性化学物質、呼吸器系疾患、呼気中一酸化炭素濃度</p> <p>【学習の課題】 昭和 40 年代以降の大気汚染の現状と児童の健康影響について考察し、児童を取り巻く環境と疾患との関連を明らかにする。住環境下での健康被害として、接着剤・塗料、その他、新建材の導入によって、室内空気質の問題がクローズアップされている。いわゆるシックハウス症候群である。成長期の児童の気道粘膜での一酸化窒素の発生等との関連も含め、幼弱細胞への影響についても十分な配慮が必要であることを検討せよ。</p> <p>【参考文献】 児童環境衛生研究会編「児童の環境衛生」家政教育社 1974 鈴木路子編「人間環境学」福村出版、1997 鈴木路子編「人間環境・教育福祉論」光生館、2007</p> <p>【学習する上での留意点】 人間の生活生存、生産・消費活動の中で、環境の変容は著しいことを科学的に認識し、これからの児童の健全育成に環境問題は直結していることを十分に認識したい。</p>
<p>10. テーマ</p>	<p>音環境と児童の健康</p>
	<p>【学習の目標】 航空機騒音環境地域における乳幼児の睡眠障害や聴力損傷、学校における地域騒音と児童の聴力損傷、防音校舎内児童の学習能力、心身状態への影響や学校騒音対策を含めて、騒音の児童に与える影響を実験調査結果から学ぶ。定期健康診断には、聴力検査が含まれ、また、学校環境衛生の基準における「騒音及び騒音環境」の基準、騒音の測定法等の実践も学習する。防音、吸音、遮音など、騒音対策も学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 小児期の音環境への反応は、聴覚の発達過程として、どのような意義があるか？聴覚の発達は、すでに胎児期から開始され、出生後であっても、そのリズム、音の質によって、情緒情動の安定に結びつく。一般に波の音、川のせせらぎ、秋の夜長の鈴虫、こおろぎ、これら音環境としての視点から、児童の脳神経系の発達との相互作用でとらえることを第 1 のステップとする。 第 2 のステップは、音量の問題である。常に高い音圧に暴露される児童の聴覚損傷は、無自覚のうちに進行する。航空機の爆音にさらされて育つ乳児などはその例である。航空機騒音、交通騒音、振動を伴う工事音など、人体への影響は、感覚器のレベルから、内分泌・免疫系へのバランスを崩す。このような有害なレベルから、児童を守るための各種環境基準とその測定、騒音対策等を検討する。</p> <p>【キーワード】 騒音、楽音、聴力損傷、児童、聴覚の発達</p> <p>【学習の課題】 児童の情緒情動の安定と聴力損傷という 2 側面からみた音環境の健康影響とその対策について。</p> <p>【参考文献】 児童環境衛生研究会「児童の環境衛生」家政教育社、1974 鈴木路子、真野喜洋編「教育健康学」ぎょうせい、2007</p> <p>【学習する上での留意点】 一般に児童の健康安全の立場から、音環境を扱うとき、騒音及び騒音レベルとして、学校環境衛生基準が設定されている。 等価騒音レベルとして、55 デンベル以下とされる。さて、この基準はどのようにして設定されたか？胎児期から、乳幼児期にかけての聴覚の発達はどういう過程で生まれ、適応した音の質はリズムも含めてどのような特性があるか等、種々の視点から検討されたい。児童福祉施設、学校等、児童を取り巻く住環境に、騒音や音響をどのように取り込むか今後の課題は大きい。</p>
<p>11. テーマ</p>	<p>生態系における人間の発育、生命・生活生存の未来予測—人類の存続と環境保全—</p>
	<p>【学習の目標】 地球温暖化による異常気象、地球存続の危機の中で、人類の存続が危ぶまれている今日、人間の発育、生命、生活生存に多くの影響が表れている。児童環境保健論は、児童の健やかな成長を次世代育成という視点から論じてきたが、地球レベルでの環境保全が、きわめて重要な決め手となった。少子高齢化社会の問題も含め、児童の社会問題にまで至っている疾病罹患・各種症状・情緒情動レベルでの異常行動の問題は、対極的に人間の自然の法則を越えた環境破壊であり、エネルギー枯渇への人類の消費活動の増大と関連連していることは否定できない事実である。これからの地球の未来、人類の未来、子どもの未来、成長過程への環境作用をトータルに考える必要がある。自然科学、社会科学、人文科学の方法論を縦横に駆使し、「人間福祉・人間環境」という人間の生命現象の尊厳は、自然環境との一体感の中で営まれる必要がある。環境保全を前提にした「環境保全工学」の技術導入、人間の生き方、自然環境との対比で人間を考えるのではなく、環境＝人間として、専門分化された近代科学のもたらしたこの実態を把握し、今後は人類</p>

<p>のよりよい存続と地球環境の存続を一体化した臨床人間環境教育のあり方を考察する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>1 人間の本来獲得される免疫の発達、自律神経系の発達、脳神経系の生物学的発達に多くのゆがみが現れている科学的事実を検証するとともに、人類の未来を考慮したとき児童環境保健論を基盤とした研究成果をどう生かしていくかを考察する。</p> <p>2 近代科学のもたらした功罪を今一度検討し直してみる。</p> <p>3 日々の健康生活の中で、児童の未来を育むための我々の残された仕事とは何かを十分に検討し、具体的な実践への結びつきを企画立案、そして、最終的な制度化に導くための手だてを考え、実践化してゆく。</p> <p>【キーワード】</p> <p>人類、生態系、発育、生命現象、人類の存続、環境保全</p> <p>【学習の課題】</p> <p>自然環境の中で生きる力を遺伝子のレベル（進化の過程）で培ってきた人間の恒常性とその維持に気づくことなく、環境側を改変し続けた結果としての地球環境の危機と成長過程のゆがみをいち早く気づかせるための臨床教育の展開を思索する。</p> <p>【参考文献】</p> <p>各種政府刊行物（環境白書ほか）</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>従来の人間にとっての環境を縦横に調節するのではなく、人類は自然環境の一部であることをまず認識すること。</p>	
12. テーマ	児童の成長と社会文化的環境（Ⅰ）人類生態学的調査結果：インドネシアの子ども
<p>【学習の目標】</p> <p>インドネシア共和国、西ジャワ、スンダ民族の子どもたちの日々の生活、疾病罹患、学校生活、発育、各種身体機能としての環境適応能力の発達調査を実施した（学術振興会特定国派遣研究員としての5ヶ月間の現地調査結果）。ここから得られたデータを用いて、インドネシア児童の人類生態学的調査過程を循環型社会への還元とともに、人間の心の有り様を意識のレベルでのインドネシア小児の生活の流れの中で学び、先進諸国の合理性と地球環境規模での環境改変への警鐘として用いる。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>6の人間の成長過程と環境刺激（Ⅵ）形態発育・機能発達の生育環境差—耐寒性・耐暑性の発達の生態学—でのテーマとフィールドは、共通する。6では、生理学的・形態学的適応能の発達を考察した。</p> <p>ここではとくに、社会文化的環境を心のレベルで生活の営みにとけ込ませているインドネシア小児の生態を観察し、社会文化適応能力の発達に視点を当てたフィールドでの観察と考察を行う。近代社会の中で、合理化・組織化された日本の学校教育の場で出現している諸現象への問題解決の糸口を、インドネシア児童の実態（生態）から見だし、大自然に調和した思想と生活習慣が我々に何らかの気づきを与えるきっかけになることが期待される。</p> <p>【キーワード】</p> <p>祈りの前のマンデイ（水浴）、夜明けの祈り（一日5回の祈り）→生活リズム（生体リズム）の形成、家族、スンダ民族、宗教教育、行動的適応</p> <p>【学習の課題】</p> <p>日本人の児童生徒の生活時間（生活リズム）とインドネシア児童のそれを比較し、自覚症状及び体温のレベルでの現れ方を分析し、児童の自然環境への調和の導入を試みる。</p> <p>【参考文献】</p> <p>鈴木路子・木村康一編著「保健・衛生ノート—保健科教育にいかす諸科学」（第11章 人類生態学の立場から pp371-399）1986 鈴木路子編「人間環境・教育福祉論」第1章子ども達の未来 pp1-13、2007</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>この現地調査は、鈴木らが、5ヶ月間インドネシア西ジャワのバンドンを中心に、高度の異なる4地域に滞在、生活をともにする中で得られたデータである。子どもたちの生態を学校落居期の両側面から、主としてイスラム教との宗教生活二期版をおいた日々を追ったものである。インドネシア共和国としての学校システムではあるが、この地域は通常の会話は、すべて現地語のスンダ語である。アンケート調査もバンドン教育大学日本語学科長 アテイン先生によって、スンダ語に翻訳し、読み上げスンダ語での説明の上で記述させたものである。</p>	
13. テーマ	児童の成長と社会文化的環境（Ⅱ）人類生態学的調査結果：ブラジルの子ども
<p>【学習の目標】</p> <p>移民の国ブラジルにおいて、各種民族の生態と日系人移住地域での子どもの発育や生活の様相を、アマゾンの加工の町ベレンより、車で5時間、トメアスー開拓地での子弟の調査結果から学ぶ。トメアスーから、都市ベレンに移り住んだ子弟の発育パターンは、日本の児童生徒のそれに類似し、思春期のスパークが早期化する。人間の成長は、社会文化的環境刺激によって、発育の早期化現象と肥満児の出現が認められ、自然環境で獲得された適応能の発達異常の影響を社会文化的環境の変化が及ぼしていることが明らかになった事実について学習し、児童を取り巻く社会文化的影響にどのような対策を講じるかについて検討する。</p> <p>【学習の内容】 ブラジリアマゾン地域を含めた人類生態学的調査（鈴木路子文部省在外研究員（10ヶ月滞在））の方法論とその結果を紹介する。</p> <p>→人間の成長・健康・疾病罹患と環境とは直結していることを再認識する。</p> <p>→日系移民の移住地での生活様式、日系人組織、学校教育、ブラジル人（欧州よりの移民）</p> <p>【キーワード】</p> <p>ブラジル日系移民、人類生態学的調査研究、発育の早期化・促進化、ブラジルの教育事情、気象</p> <p>【学習の課題】</p> <p>日系移民子弟の発育の様相から、学び—発育の社会文化的環境の影響に歯を当てて—、これからの我が国の児童健全育成にどのようにいかしていくか検討せよ。</p> <p>【参考文献】</p> <p>鈴木路子ほか2名、熱帯雨林アマゾン地域の小児の発育と環境に関する現地調査、移住研究、第27巻、1-15pp、1991 西沢利栄・小池洋一著「アマゾン生態と開発」岩波新書、1992 東郷正美「身体計測による発育学」東京大学出版会、1998 小林正子ほか、小学生の肥満は夏はじまる、民族衛生、61巻、6号、309-316、1995</p>	

小林正子、いじめや家庭問題が体重に与える影響、文部省科学研究費補助金報告書（代表 東郷正美）、1994 【学習する上での留意点】 身体発育値の教育健康学的意義に留意すること。	
14. テーマ	人間環境・福祉教育学的視点とは？—福祉・保健・医療・教育の融合—
<p>【学習の目標】</p> <p>児童の成長過程での環境からの長期的影響は、生体リズムの形成をはじめとして、脳神経系⇔内分泌系⇔免疫系のトライアングルを循環しながら生命現象を営む。この様相は、福祉・保健・医療・教育を融合して、児童のよりよい発育発達、生活生存を守ることに連動する。本授業は、自然科学的アプローチを介入させた人類生態学的調査、すなわちフィールドでの生活観察をベースにしたものである。福祉も、医療も、保健も、教育・保育もすべて網羅される。このトータルにみた児童の実態から得られた知見を討論し、人間環境と教育福祉の融合を図ってゆくことを学習の目標とする。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>人間環境とは？人間は、自然環境の一部を構成し、一体であるという認識に立つとき、環境汚染、環境破壊は、人体破壊・人間破壊につながる。内部環境の恒常性を維持することは、環境刺激の激変を受けても内部調整し、環境を内在化できうる能力を育成することが教育につながる。医療や保健、福祉は、人間社会における組織に基づいた分野であり、それぞれの共通基盤は人間環境のよりよい存続そのものであることを1から13テーマで扱った内容からまとめ上げる。</p> <p>【キーワード】</p> <p>福祉、教育、人間福祉、教育福祉、人間の存在と尊厳</p> <p>【学習の課題】</p> <p>地域福祉、地域医療、地域保健の領域の共通対象は人間、そして人間形成過程にある児童期の子どものよりよい生命現象の維持である。現実の子どもの様相を観察し、その実態把握結果を人間環境・教育福祉の立場から分析考察せよ。</p> <p>【参考文献】</p> <p>教科書「人間環境・教育福祉論」、光生館、2007 各自の専門領域の教科書等</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>この授業を受講する院生は、それぞれの専門体験を有しているので、本授業で提示された具体的データやその背景となる科学も含めて、どれも共通性と相互理解、共存によって、よりよい目的に到達することを究極のねらいとしていることに留意する。</p>	
15. テーマ	教育の原点は、人間の生命のよりよい存続である—教育健康学の視点—
<p>【学習の目標】</p> <p>福祉、教育、保健、環境、人間の成長過程におけるこれらの領域は、常に相互関連の基に連携し合いながら、次世代を育む児童を支援していくことの重要性を学ぶ。ここに学問的縦割り近代科学の限界性と有効性、臨床の知の科学的根拠、臨床的体験の研究的意義をそれぞれの体験や文献学的知見から討論し、新たな児童学のパラダイムを構築する。</p> <p>【学習の内容】</p> <p>教科書「人間環境・教育福祉論」の学問的背景を検討する。 福祉を制度的側面から考えたとき、人間不在の福祉制度・組織として存在し、人間を直視した人間の存在・育成・可能性を究極の目的にした人間福祉の考え方を教科書第4章より学ぶ。 環境保健、環境衛生学とは、人間の現実の生活そのものを直視し、未来の生態系としてみた地球環境と人類の生存の可能性に行き着くものであることを確認する。 人間の生活や生命現象への意識の変容の重大性を認識する。 一般住民への、また児童の保護者への広義の健康教育試案を作成する⇔ヒトの心を揺さぶる児童環境保健論の展開を図る。</p> <p>【キーワード】</p> <p>人間福祉・共鳴・共存・環境・人間生態系・子育て支援・少子高齢化・社会制度・教育制度</p> <p>【学習の課題】</p> <p>教育の原点は何か？またその教育を支援するための児童学研究の有効性と限界性について考察せよ。</p> <p>【参考文献】</p> <p>教科書「人間環境・教育福祉論」、光生館、2007</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>現在おかれているこの院生の立場、職業によって、児童環境保健論のとらえ方は異なることが予測される。 しかし、人間の受精卵が発生過程において、生命が存続できるように遺伝子のレベルで用意された適応能の生理的・生化学的レベルでの各種機能を十分に育むことが、児童学の根底にあり、教育とはまさに生きるための基盤となる各種機能の発達を支えることを今一度確認し、修士課程における各院生の研究意義を感じ取ってほしい。</p>	

1. 科目名 (単位数)	障害児保育演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6332
2. 授業担当教員	立松 英子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	本講義では、保育や療育の現場において、障害のある乳幼児から学齢期の子どもの個々のニーズに応じた様々な支援プログラムについて実践的内容を中心に演習する。さらに、障害のある子ども自身はもとより、家族、周辺職種、障害者に関連する理念や制度について、医療・福祉・心理・保育・教育にまたがる幅広い視点から学び、共生社会の形成に向けた考え方の基礎を培うとともに、臨床実践における総合的能力の獲得を目指す。		
8. 学習目標	<p>① 障害のある子どものニーズを把握し、個に応じた実践を実現する力を養う。</p> <p>② 幼児を中心とした事例を通して、個に応じたアプローチのみならず、家族支援、他職種との協働を含めた包括的支援のイメージができる。</p> <p>③ 海外の論文を抄読しながら、専門用語を学び、国際的な理念や研究の動向について知識を得る。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>・乳幼児の発達評価 (検査) もしくは療育技法の 1 つを取り上げ、詳しく調べて解説すること。</p> <p>・与えられた英文を読んで授業で概説する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】立松英子監修 「保育の心理学Ⅱ」 大学図書出版</p> <p>【参考書】本郷一夫編著「保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」健帛社 小林保子、立松英子「保育者のための障害児療育一理論と実践をつなぐ」学術出版会 立松英子 「発達支援と教材教具Ⅱ 子どもに学ぶ行動の理由」 ジアース教育新社 竹田一則「肢体不自由児、病弱、身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学」 ジアース教育新社</p> <p>日本発達障害福祉連盟「発達障害白書 2017 年版」明石書店 学会誌 (Journal of Autism and Developmental Disorders, 発達障害研究等) 内閣府 子ども・若者白書 http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h24honpenpdf/index_pdf.html 内閣府 障害者白書 http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html 障害者の権利に関する条約 日本政府公定訳 http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/rights/adhoc8/convention131015.html *その他授業で文献や DVD、ウェブサイトを紹介します。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業参加態度 20%</p> <p>演習での発表・問題提起・発言等 20%</p> <p>課題(発表・レポート) 60%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の研究と関連付けながら、積極的かつ主体的に取り組むこと。 ・ 障害がある子どもやその家族を理解し、支援方法を学ぶ上では、日常的なかかわりや、地域における障害者支援環境を理解していることが重要となる。日ごろから、ボランティア活動や療育・教育活動に積極的に参加することを勧める。 ・ 研究科の学生として、節度ある態度で講義に臨むこと。 		
13. オフィスアワー	別途通知する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	自己紹介と研究課題の紹介・本講義の方向性の確認		
【学習の目標】	各自の研究課題を紹介し、本講義との関連性について明らかにすること。		
【学習の内容】	学生の研究課題と本講義の方向性について確認する。		
【キーワード】	研究課題 講義との関連性		
【学習の課題】	自らの研究課題を簡単にわかりやすく説明できるように、A4 1 枚のレポートを作成すること。		
【参考文献】	特になし		
【学習する上での留意点】	学生と教員の相互理解を図ることの重要性から、自らの研究課題を端的に説明できるよう、資料を準備して臨むこと。		
2. テーマ	現代社会における保育の諸問題		
【学習の目標】	本講義の基礎となる障害児保育の現状と課題について理解する。		
【学習の内容】	現代社会の諸問題と特別なニーズのある子どもの関係について学ぶ。		
【キーワード】	虐待 不登校 いじめ 気になる子 子ども・若者白書		
【学習の課題】	自分自身の現在の障害観を明らかにしておくこと。		
【参考文献】	教科書 (保育の心理学Ⅱ) 保育者のための障害児療育 一理論と実践をつなぐ 学術出版会		
【学習する上での留意点】	様々な視点から、問題をとらえられるようにすること。		
3. テーマ	子どもの発達と保育実践 (1)		
【学習の目標】	発達支援と人権との関係を考察し、現代の日本が向かっている障害者施策の方向性について知識をもつ。		

【学習の内容】	障害者の権利に関する条約や障害者基本法、保育所保育指針等から障害のある子どもの保育や教育の基本的考え方を取り出し、それらのつながりを系統的に見て行く。 事例にもとづいて学習する。
【キーワード】	基本的人権、自立と社会参加、共生社会、合理的配慮
【学習の課題】	上記キーワードについて、インターネットなどを活用して調べておくこと。
【参考文献】	障害者の権利に関する条約 保育所保育指針解説書
【学習する上での留意点】	保護者の視点に立って考えていくこと。
4 . テ ー マ	子どもの発達と保育実践（2）
【学習の目標】	子ども理解における発達の把握
【学習の内容】	個人差や発達過程に応じた保育の概要を知る。
【キーワード】	発達過程 発達指標 アセスメント 行動調整
【学習の課題】	乳幼児の発達評価（検査）もしくは療育技法の1つを取り上げ、詳しく調べてレポートし、授業で解説すること。
【参考文献】	発達支援と教材教具Ⅰ 子どもに学ぶ学習の系統性 津守・稲毛乳幼児精神発達診断法 他、各種発達検査について授業で紹介します。
【学習する上での留意点】	保育所ではどのようなことが問題になっているか、関心をもって資料を集めること。
5 . テ ー マ	子どもの発達と保育実践（3）
【学習の目標】	発達アセスメントを通して子どもの発達過程に応じた環境設定ができるようになる。
【学習の内容】	アセスメントの実際について学び、事例にもとづいて方針を考える。
【キーワード】	共同注意、社会的参照、三項関係、指差し、身振り
【学習の課題】	それぞれの発達段階を示す発達指標について調べてくる。
【参考文献】	教科書（保育の心理学Ⅱ） 小林芳文編 『ムーブメント教育・療法による発達支援ステップガイド』 日本文化科学社
【学習する上での留意点】	子どもの興味関心を引き付ける遊びを1つ以上身に着けておくこと。
6 . テ ー マ	生活や遊びを通した学びの過程（1）
【学習の目標】	身体感覚を伴う経験と環境との相互作用で子どもが育って行くことを理解する。
【学習の内容】	事例にもとづいて学習する。
【キーワード】	表象機能、模倣、遊び
【学習の課題】	保育園等で行なわれる子どもの遊びの例を紹介し、それが何を意味するのか協議する。
【参考文献】	教科書（保育の心理学Ⅱ）
【学習する上での留意点】	子どもの興味関心を引き付ける遊びを1つ以上身に着けておくこと。
7 . テ ー マ	生活や遊びを通した学びの過程（2）
【学習の目標】	遊びの種類と発達との関係について知る。
【学習の内容】	パーテンの分類に基づき、遊びの種類を学習し、事例にもとづいて年齢別の支援方法を考える。
【キーワード】	コンピテンス、レジリエンス、道徳性
【学習の課題】	教科書 p46-47 の事例について読み、その意味について自分なりの考えをもって臨むこと。
【参考文献】	教科書（保育の心理学Ⅱ）
【学習する上での留意点】	今まで自分が経験した遊びの意義について発達と関連付けながら考えること。
8 . テ ー マ	生活や遊びを通した学びの過程（3）
【学習の目標】	「生きる力」を育てる遊びとは何か考える。
【学習の内容】	事例を通して、子どもがどのようにして生きる力を身につけるかを考える。
【キーワード】	コンピテンス、レジリエンス、道徳性
【学習の課題】	教科書 p46-47 の事例について読み、その意味について自分なりの考えをもって臨むこと。
【参考文献】	教科書（保育の心理学Ⅱ）
【学習する上での留意点】	今まで自分が経験した遊びの意義について発達と関連付けながら考えること。
9 . テ ー マ	保育における特別な支援（1）
【学習の目標】	通常学級にいる気になる子どもの増加との関連で特別支援教育のねらいがわかる。
【学習の内容】	特別支援教育の理念やしくみ、現状との関連を文部科学省の資料などをもとに学ぶ。
【キーワード】	特別支援教育 就学相談 就学時健診 保護者のニーズ 個別の指導計画
【学習の課題】	以下を参照し、特別支援教育とは何か自分なりの考えをもって参加すること http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm
【参考文献】	上記ウェブサイト、発達障害者支援法
【学習する上での留意点】	世界の障害観との関係で特別支援教育を考えること。
10 . テ ー マ	保育における特別な支援（2）
【学習の目標】	就学相談のしくみとそれに伴う保護者の心理特性を知る。
【学習の内容】	平成 25 年度に改正になった就学相談しくみとその背景について
【キーワード】	就学相談 就学基準 インクルーシブ教育
【学習の課題】	上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。
【参考文献】	学校教育法施行令の改正について（通知 H25.9.）、学校教育法施行令第 22 条の 3
【学習する上での留意点】	
11 . テ ー マ	保育における特別な支援（3）
【学習の目標】	障害のある子どもにかかわる福祉制度と関連する法律について知る。

	<p>【学習の内容】 発達障害白書やDVDを参考に、児童養護施設や知的障害成人施設の実態を知る。</p> <p>【キーワード】 障害者基本法 障害者総合支援法 障害者手帳</p> <p>【学習の課題】 虐待や障害者差別などがテーマとなった新聞記事を見つけてきて解説する。</p> <p>【参考文献】 日本発達障害連盟「発達障害白書 2017年度版」明石書店</p> <p>【学習する上での留意点】 誰にでも起こる身近な問題として考えましょう。 保育所で働く以外の保育氏の仕事に目を向けましょう。</p>
12. テーマ	知的障害や自閉症における行動障害への対応（1）
	<p>【学習の目標】 この分野で一般的な用語に触れながら、行動の問題への対応の原則を知る。</p> <p>【学習の内容】 英文購読を通して、知的障害や自閉症一般に起こりがちな行動障害の種類と実態を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 行動障害 睡眠障害 自傷 他害 常同行動</p> <p>【学習の課題】 あらかじめ用意した文献に目を通してこくこと。</p> <p>【参考文献】 Behavior disorders in Children with intellectual disability. Paediatr Child Health Vol17,2,84-88</p> <p>【学習する上での留意点】 この分野で一般的な用語とその原著、省略語（ASD：自閉症スペクトラムなど）について関心をもつこと。</p>
13. テーマ	知的障害や自閉症における行動障害への対応（2）
	<p>【学習の目標】 この分野で一般的な用語に触れながら、行動の問題への対応の原則を知る。</p> <p>【学習の内容】 英文購読を通して、知的障害や自閉症一般に起こりがちな行動障害の種類と実態を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 行動障害 睡眠障害 自傷 他害 常同行動</p> <p>【学習の課題】 あらかじめ用意した文献に目を通してこくこと。</p> <p>【参考文献】 Behavior disorders in Children with intellectual disability. Paediatr Child Health Vol17,2,84-88</p> <p>【学習する上での留意点】 この分野で一般的な用語とその原著、省略語（ASD：自閉症スペクトラムなど）について関心をもつこと。</p>
14. テーマ	事例にもとづいて（1）
	<p>【学習の目標】 提示された事例に基づいて、保育士及び保育所の組織的な対応について幅広い視点から考える。</p> <p>【学習の内容】 事例に基づいて問題の解決と保育の方針をディスカッションする。</p> <p>【キーワード】 行動障害 睡眠障害 自傷 他害 常同行動</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 立松英子「発達支援と教材教具Ⅱ 子どもに学ぶ行動の理由」ジアース教育新社</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の経験に基づいて実際保育士になったつもりで考えること。</p>
15. テーマ	事例にもとづいて（2）
	<p>【学習の目標】 提示された肢体不自由・病弱の事例について、保育士及び保育所の組織的な対応について幅広い視点から考える。</p> <p>【学習の内容】 事例に基づいて問題の解決と保育の方針をディスカッションする。</p> <p>【キーワード】 肢体不自由 病弱 医療との連携 小児慢性特定疾患</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 竹田一則 肢体不自由児、病弱、身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学 ジアース教育新社</p> <p>【学習する上での留意点】</p>

1. 科目名 (単位数)	小児医学特論 (2 単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	植地 正文		
4. 授業形態	講義および文献講読、討論	5. 開講学期	秋
6. 履修条件・他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	わが国では、病児・病後児保育事業がはじまったが、感染症に対する対応がまちまちで、まだ効果が充分にできていない。看護師が「看護診断」をすると同様に、勤務する保育士にも「保育診断」をすることが求められている。そこで、本講では、小児科領域の病気に関する知識を学ぶと同時に、病気に対応する実践力を身につけていただきたい。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 先天異常について解説することができるようになる。 2. 新生児の病気について説明することができるようになる。 3. 代表的な感染症について説明することができるようになる。 4. 呼吸器・循環器・消化器の病気について説明することができるようになる。 5. 発達障害について解説することができるようになる。 6. 救急法について解説し、実践することができるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>宿題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児感染症を起こす病原について； (テーマ4終了時に宿題を提出すること) 新生児感染症は、診断がむずかしく、手遅れになりやすく、一命を取り留めても障害を残します。その病原を知っておくことは大切です。 2. 染色体異常症について； (テーマ4終了時に宿題を提出すること) 常染色体の異常と性染色体の異常に分けて、記述してください。 [各宿題は、A4判、横書き、2ページ (1ページあたり40字×39行) にまとめて下さい。] <p>レポート課題： (テーマ1 3終了時にすべてのレポートを提出すること)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先天性心疾患について記述して下さい； 2. 小人症について、その原因ごとに解説して下さい； 3. 食物アレルギーの原因と対処法について記述して下さい； <p>[各レポートは、A4判、横書き、3ページ (1ページあたり40字×39行) にまとめて下さい。]</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集『標準小児科学 (第7版)』医学書院、2009 随時プリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>レポート課題 50%</p> <p>宿題 40%</p> <p>受講・参加態度 10%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	小児期は、出生から成人になるまでの期間、つまり成長・発達 (成熟) している期間である。その間に、子どもたちは、沢山の疾患に罹患する。本講は、内容が難しいけれど、集中して取り組んでほしい。そうすることによって、必ず成果が出てくる。期待している。		
13. オフィスアワー	授業時に周知する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	小児医学の概要		
【学習の目標】	小児期にどんな病気があるかを説明することが出来る。		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 出生前期にみられる病気について学ぶ。 2) 新生児期、乳児期にみられる病気について学ぶ。 3) 学童期、思春期にみられる 病気について学ぶ。 		
【キーワード】	出生前期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、病気		
【学習する上での留意点】	小児保健学、小児医学、小児科学の違いについて理解を深めてもらいたい。		
2. テーマ	出生前小児医学 (1) 遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病		
【学習の目標】	出生前期にみられる病気について解説することが出来るようになる。		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝子病について学ぶ。 2) 染色体異常について学ぶ。 3) 胎芽病、胎児病について学ぶ。 		
【キーワード】	遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病		
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 優性遺伝と劣性遺伝の病気について論述せよ。 2) 皮膚紋理について論述せよ。 3) 胎芽病について論述せよ。 		
【学習する上での留意点】	発生のどの段階で障害が起こると、先天異常が生じるか、理解を深めてほしい。		
3. テーマ	出生前小児医学 (2) 先天異常について		
【学習の目標】	先天異常の発生の要因について、解説することが出来るようになる。		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性代謝異常症について学ぶ。 2) 先天異常の発生の要因について学ぶ。 3) 外表奇形について学ぶ。 		

	<p>【キーワード】 先天性代謝異常症、先天異常の発生要因、外表奇形</p> <p>【学習の課題】 1) タンデムマス法を用いた新生児マススクリーニングについて論述せよ。 2) 先天異常の発生要因について述べよ。 3) 外表奇形について論述せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 新しい新生児マススクリーニングについて項目を整理していくとよい。</p>
<p>4 . テ ー マ</p>	<p>新生児期の医学（適応障害、黄疸、感染症）</p>
	<p>【学習の目標】 子宮内の生活から子宮外の外界へ環境が変わるため、呼吸も循環もすばやく適応していかななくてはならない。その適応について学ぶと同時に、適応障害についても理解を深め、解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 呼吸器系の適応について学ぶ。 2) 循環器系の適応について学ぶ。 3) 胎児循環と成人循環の相違を理解し、知識を深める。</p> <p>【キーワード】 サーファクタント、第一呼吸、胎児循環、ボタロー管、卵円孔</p> <p>【学習の課題】 1) 呼吸器の適応障害について述べよ。 2) 循環器の適応障害について述べよ。 3) 肺胞細胞とサーファクタントの関係について論ぜよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 出生後に胎児循環から成人循環にかわる機序を理解することは大切である。</p>
<p>5 . テ ー マ</p>	<p>小児期の栄養（母乳哺育、離乳食のすすめ方、人工栄養、間食）</p>
	<p>【学習の目標】 母乳哺育の重要性を解説することが出来るようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 赤ちゃんにやさしい病院について学ぶ。 2) 人工栄養について学ぶ。 3) 離乳食のすすめ方について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 母乳哺育、離乳食のすすめ方、間食</p> <p>【学習の課題】 1) 完全母乳栄養の意義について論述せよ。 2) 離乳食について論述せよ。 3) 幼児期の間食の必要性について述べよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 母乳哺育(Breastfeeding)、母乳栄養、母乳保育の違いについて整理しておく。</p>
<p>6 . テ ー マ</p>	<p>診断と治療の概要（診断法、薬物療法、救急蘇生法）</p>
	<p>【学習の目標】 診断法や薬物療法について、解説できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) フィジカルアセスメントについて学ぶ。 2) 治療法の概要について学ぶ。 3) 薬物療法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 フィジカルアセスメント、薬物療法、救急蘇生法</p> <p>【学習の課題】 1) フィジカルアセスメントについて述べよ。 2) 薬物療法について述べよ。 3) 外用薬の使い方について論述せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 救急法 ABC と AED について実践しておくことが大切。</p>
<p>7 . テ ー マ</p>	<p>感染症（小児感染症の特徴、感染症法と類型、発疹を伴う感染症）</p>
	<p>【学習の目標】 小児感染症の特徴について解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 感染症法の類型について学ぶ。 2) 発疹を伴う感染症について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 小児感染症、感染症法、発疹性感染症</p> <p>【学習の課題】 1) 小児感染症の特徴について論述せよ。 2) 発疹を伴う感染症について論述せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 発疹の性状による分類が大切。病原別に整理しておく。</p>
<p>8 . テ ー マ</p>	<p>感染症（節足動物媒介感染症、母子感染症）、寄生虫症</p>
	<p>【学習の目標】 母子感染症について説明できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 節足動物媒介感染症について学ぶ。 2) 母子感染症について学ぶ。 3) 寄生虫症について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 節足動物媒介感染症、母子感染症、寄生虫症</p> <p>【学習の課題】 1) 節足動物媒介感染症について論述せよ。 2) 母子感染症について論述せよ。 3) 寄生虫症について述べよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 母子感染の感染経路について、分類し、整理しておく。</p>
<p>9 . テ ー マ</p>	<p>呼吸器、循環器の病気</p>
	<p>【学習の目標】 呼吸器、循環器の病気について解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 上気道、下気道の病気について学ぶ。 2) 先天性心疾患について学ぶ。 3) 肺炎について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 呼吸器、循環器、上気道、下気道、肺炎、先天性心</p> <p>【学習の課題】 1) 「かぜ」について論述せよ。 2) マイコプラズマ肺炎について述べよ。</p>

	3) 先天性をチアノーゼの有無による分類をして、解説せよ。 【学習する上での留意点】呼吸困難（吸気性、呼気性）と病気と結び付けて整理していくとよい。
10. テーマ	消化器の病気
【学習の目標】	消化器系の病気について解説することができるようになる。
【学習の内容】	1) 消化器系の奇形について学ぶ。 2) ウイルス性胃腸炎について学ぶ。 3) 腸内細菌叢について学ぶ。
【キーワード】	消化器系の病気、奇形、腸内細菌叢
【学習の課題】	1) 消化器系の奇形について述べよ。 2) ウイルス性胃腸炎について述べよ。 3) 腸内細菌叢について論述せよ。
【学習する上での留意点】	腸内細菌叢とプロバイオテックスについてまとめておく。
11. テーマ	内分泌、代謝、腎臓の病気
【学習の目標】	内分泌、糖尿病、腎臓の病気について解説することができるようになる。
【学習の内容】	1) 内分泌の病気についてまなぶ。 2) 糖尿病について学ぶ。 3) 急性腎炎について学ぶ。
【キーワード】	内分泌障害、糖尿病、腎臓病
【学習の課題】	1) 脳下垂体から分泌されているホルモンについて述べよ。 2) 糖尿病について述べよ。 3) 急性腎炎について述べよ。
【学習する上での留意点】	インスリンを用いない糖尿病の治療について理解を深めてほしい。
12. テーマ	アレルギーの病気
【学習の目標】	アレルギー反応の分類について解説することができるようになる。
【学習の内容】	1) アレルギー反応の分類について学ぶ。 2) アレルギーの病気について学ぶ。 3) 食物アレルギーについて学ぶ。
【キーワード】	食物アレルギー、アレルギー反応、気象病、エピペン
【学習の課題】	1) アレルギー反応の分類について述べよ。 2) アレルギー・マーチについて述べよ。 3) アレルギー性疾患の治療法について論述せよ。
【学習する上での留意点】	気管支喘息と気象病についてまとめておくのと役に立つ。
13. テーマ	血液、造血器の病気
【学習の目標】	血液、造血器の病気について解説することができるようになる。
【学習の内容】	1) 血液をつくる仕組みを学ぶ。 2) 急性白血病について学ぶ。 3) 止血のメカニズムについて学ぶ。
【キーワード】	血液、造血器、急性白血病、止血、貧血
【学習の課題】	1) 急性白血病の分類と治療法について述べよ。 2) 貧血の診断について述べよ。 3) 鉄欠乏性貧血の治療法について述べよ。
【学習する上での留意点】	赤血球の病気の場合は、造血障害、溶血、失血に分けて考えるとよい。
14. テーマ	神経・筋、精神の病気、心身医学的問題
【学習の目標】	神経・筋、精神の病気、心身医学的問題について、解説することができるようになる。
【学習の内容】	1) 筋ジストロフィー症について学ぶ。 2) 自閉症スペクトラムについて学ぶ。 3) 心身症について学ぶ。
【キーワード】	筋ジストロフィー症、心身症、自閉症スペクトラム
【学習の課題】	1) 筋ジストロフィー症について論述せよ。 2) 自閉症スペクトラムについて述べよ。 3) 心身症について述べよ。
【学習する上での留意点】	小児期区分ごとに心身症をみていくと、特徴がある。
15. テーマ	「小児医学」のまとめ
【学習の目標】	小児医学全般について解説できるようになる。

1. 科目名 (単位数)	小児保健特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5321						
2. 授業担当教員	植地 正文								
4. 授業形態	講義および文献講読、討論	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	小児期は出生から成人になるまでの期間である。この時期は常に成長、発達を続けていることが特徴である。受精から出生に至るまでにほとんどの臓器が完成されてきていることから、この出生前期を小児科学では「出生前小児科学」として重視している。したがって、出生前期、小児期（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青少年期）の成長・発達過程において出現する種々の健康課題（出生前期の成長・発達障害と先天異常、新生児・乳児期の母乳哺育、感染症とその予防対策、疾病とその対処法、事故防止と安全教育、「こころ」の病気と心身症など）について、母子保健学的立場から現状を分析し基礎的知識を習得する。さらに、わが国の母子保健行政施策の変遷について学ぶと同時に、今後の課題について討議し理解を深める。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前期の成長・発達の基礎的な知識について説明することができるようになる。 2. 小児期における成長・発達が、生活習慣病に影響を及ぼしていることを解説することができるようになる。 3. 「母乳哺育 (Breastfeeding)」が母子保健学的に極めて大切であることを発表できるようになる。 4. 感染症法の類型及び学校で予防すべき感染症について説明することができるようになる。 5. 事故防止と安全教育について説明し、実践することができるようになる。 6. 子どもの保健・医療、福祉、教育の連携の現状を分析し、今後の方向性を示すことができるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>宿題： 1) 睡眠とメラトニンの関係について；（「テーマ5」終了時点でレポートを提出する） 「早寝、早起き、朝ごはん」がすすめられているが、十分な効果はあがっていない。この生活リズムについて考えをまとめてみましょう。</p> <p>2) 消化酵素の種類とその役割について；（「テーマ8」終了時点でレポートを提出する） 消化器系の各々の器官から分泌される消化酵素の種類は沢山あります。各々の役割についてまとめてみましょう。</p> <p>[各宿題は、A4 判、横書き、2 ページ（1 ページあたり 40 字×39 行）にまとめて下さい。]</p> <p>レポート課題：（「テーマ12」終了時点でレポートを提出する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前期における成長・発達上の諸問題について記述してください。 2. 「母子健康手帳」の中から、1 つの興味あるテーマを選んで論文を完成させて下さい。 3. 小児期の代表的な感染症とその予防対策について記述してください。 <p>(各レポートは、A4 判、横書き、3 ページ（1 ページあたり 40 字×39 行）にまとめて下さい。)</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 巷野悟郎監修 日本保育園保健協議会編『最新保育保健の基礎知識（第4版改訂）』 日本小児医事出版社、2006</p> <p>【参考書及び参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生統計協会編 2015 『国民衛生の動向・厚生指針 増刊』 2. American Academy of Pediatrics 2012 Policy Statement. Breastfeeding and the Use of Human Milk. Pediatrics 129(3):e827-e841. 3. 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂 4. 大島 清著 2002 「成長する脳の不思議」 第三文明社 5. 山寺博史著 1999 メラトニンと睡眠 治療 81(1):11-15 6. 田中哲郎著 2001 新子どもの事故防止マニュアル 診断と治療社 7. 森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学（第7版） 医学書院 <p>随時プリントを配布する。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>(通学課程)</p> <table> <tr> <td>レポート課題</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>宿題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>受講・参加態度</td> <td>10%</td> </tr> </table>			レポート課題	50%	宿題	40%	受講・参加態度	10%
レポート課題	50%								
宿題	40%								
受講・参加態度	10%								
12. 受講生への メッセージ	ヒトは哺乳類の一員である。当然のことながら、他の哺乳類と同様に出生直後から「母乳」で哺育されるべきであるが、人間世界では、なかなかそのようにはいっていない。出生時の母乳栄養か人工栄養かの対応の差によって、大人になって様々な健康問題を惹起してくることが明らかになってきた。「こころ」と「からだ」の健全育成をはかるという長期的目標からみれば、小児期はまさにその土台づくりの時期である。この時期の重要さ大切さについて理解を深めてほしい。								
13. オフィスアワー	授業内で周知する								
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】									
1～2. テーマ	小児の発育過程 (1) 子宮内環境と胎児の成長・発達								
【学習の目標】	母体内では、受精から着床、胎芽期、胎児期というめまぐるしい変化を経過して、一個の人間が誕生してくる。その各々の発育・発達段階について説明することができるようになる。								
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 受精から着床までの経過について学ぶ。 2) 着床から出生までの経過について学ぶ。 3) 胎内での胎児の行動について学ぶ。 								
【キーワード】	胎芽期、胎児期、臨界期、催奇形因子、先天異常								

	<p>【学習の課題】 1) 環境が胎児に及ぼす影響について 2) ヒトの発生における臨界期について 3) 先天異常の分類について</p> <p>【参考文献】 大島 清著 2002 「成長する脳の不思議」 第三文明社</p> <p>【学習する上での留意点】 小児科では、受精から出生までを「出生前小児科学」とし、産科では、「胎児学」として、ともに重視している領域である。子宮内での胎児の成長、発達がどのような順序で進行してゆくか考えてみよう。</p>
3～4 テーマ	小児の発育過程（2）五感の発達
	<p>【学習の目標】 出生前および出生後における五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）の発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 子宮内での五感の発達について知識を整理する。 2) 出生後の五感の発達について知識を整理する。</p> <p>【キーワード】 五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）、子宮内環境</p> <p>【学習の課題】 1) 聴覚の発達について述べよ。 2) 視覚の発達について述べよ。 3) 嗅覚の発達について述べよ。 4) 味覚の発達について述べよ。 5) 触覚の発達について述べよ。</p> <p>【参考文献】 大島 清著 2002 「成長する脳の不思議」 第三文明社</p> <p>【学習する上での留意点】 子宮内で胎児の五感はかなりのところまで成長・発達していることを再認識しよう。</p>
5 テーマ	小児の発育過程（3）生体リズムの確立——睡眠、覚醒、光環境——
	<p>【学習の目標】 生体リズムの確立について知識を整理し、解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 生体リズムについて学ぶ 2) 睡眠の発達のプロセスについて学ぶ。 3) メラトニンと睡眠との関係について知識を深める。</p> <p>【キーワード】 メラトニン、サーカディアンリズム、REM睡眠、non-REM睡眠</p> <p>【学習の課題】 1) サーカディアンリズムについて述べよ。 2) レム睡眠とノンレム睡眠について述べよ。 3) メラトニンについて述べよ。</p> <p>【参考文献】 山寺博史著 1999 メラトニンと睡眠 治療 81(1):11-15</p> <p>【学習する上での留意点】 十分な睡眠をとることは、健康の保持・増進の上からも大切なことである。睡眠とメラトニンの関係を理解して、日常生活で実践してみよう。</p>
6 テーマ	小児の発育過程（4）中枢神経系の成長・発達
	<p>【学習の目標】 中枢神経系の成長・発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 脳神経細胞の種類と数について学ぶ。 2) 右脳優位脳、左脳優位脳、バランス脳について学ぶ。 3) 出生後の脳の発達はどうに行われるか知識を深める。</p> <p>【キーワード】 DHA、アポトーシス、脳神経細胞、髄鞘化</p> <p>【学習の課題】 1) 脳神経細胞の種類と数について論述せよ。 2) DHAと髄鞘化の関係について論述せよ。 3) 出生後の脳の発達と髄鞘化について論述せよ。</p> <p>【参考文献】 大島 清著 2002 「成長する脳の不思議」 第三文明社</p> <p>【学習する上での留意点】 出生時に新生児の大脳新皮質には、すでに140億個の神経細胞があり、その後のネットワーク化が重要であることを理解しよう。</p>
7 テーマ	小児の発育過程（5）呼吸・循環系の成長・発達
	<p>【学習の目標】 子宮内の生活から子宮外の外界へ環境が変わるため、呼吸も循環もすばやく適応していかなくてはならない。その適応について学ぶと同時に、適応障害についても理解を深め、解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 呼吸器系の発育・発達について学ぶ。 2) 循環器系の発育・発達について学ぶ。 3) 胎児循環と成人循環の相違を理解し、知識を深める。</p> <p>【キーワード】 サーファクタント、第一呼吸、胎児循環、ボタロー管、卵円孔</p> <p>【学習の課題】 1) 呼吸器系の形態的発育について述べよ。 2) 循環器系の形態的発育について述べよ。 3) 肺細胞とサーファクタントの関係について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学（第7版） 医学書院</p> <p>【学習する上での留意点】 出生後に胎児循環から成人循環にかわる機序を理解することは大切である。</p>
8 テーマ	小児の発育過程（6）消化器、内分泌・代謝、泌尿器の成長・発達
	<p>【学習の目標】 消化器、内分泌・代謝、泌尿器の成長・発達について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 消化器系の成長・発達について学ぶ。 2) 腸内細菌叢の意義について知識を深める。 3) 内分泌・代謝の成長・発達について学ぶ。 4) 泌尿器系の成長・発達について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 羊水、腸内細菌叢、ホルモン、標的臓器、腎機能、消化器、泌尿器</p> <p>【学習の課題】 1) 三大栄養素に対する消化酵素の種類とその役割について述べよ。</p>

	<p>2) 腸内細菌叢の形成とガス産生との関係について論ぜよ。</p> <p>3) 脳下垂体から分泌されるホルモンとその役割について論ぜよ。</p> <p>4) 腎臓機能について述べよ。</p> <p>【参考文献】 森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学 (第 7 版) 医学書院</p> <p>【学習する上での留意点】 口から肛門までの消化器系の図を描いて、消化・吸収のメカニズムを理解し、習得しておくことは大切である。</p>
9～10 テーマ	母乳哺育の意義
	<p>【学習の目標】 母乳哺育 (Breastfeeding) の意義について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 母乳哺育と母乳栄養との違いについて学ぶ。 2) 母乳中に含まれている成分について学ぶ。 3) 母乳育児を成功させるための 10 か条を説明し、その内容を理解する。 4) 母乳哺育推進運動を阻害している要因について列記してみよう。</p> <p>【キーワード】 母乳哺育、完全母乳栄養、分泌型免疫グロブリン A (S-IgA)</p> <p>【学習の課題】 1) 母乳中に含まれている感染防御物質について 2) 母乳哺育推進運動について 3) 母乳哺育の長所、短所について</p> <p>【参考文献】 American Academy of Pediatrics 2012 Policy Statement. Breastfeeding and the Use of Human Milk. Pediatrics 129(3): e827-e841</p> <p>【学習する上での留意点】 母乳で子どもを育てていることを母乳育児、母乳哺育、母乳保育、母乳栄養と、医療関係者も母親たちも自分の都合の良いように解釈して使っている。母乳哺育という意味をもう一度考えてみよう。</p>
11 テーマ	感染症とその予防対策
	<p>【学習の目標】 小児期によくみられる感染症、ことに発疹を伴う感染症について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 小児期によくみられる感染症の種類について学ぶ。 2) 感染症発生時の公衆衛生的対策について理解を深める。 3) 感染症法、予防接種法について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 感染症法、学校で予防すべき感染症の登園 (登校) 停止基準、定期予防接種、任意予防接種</p> <p>【学習の課題】 1) 小児期にみられる発疹性感染症について述べよ。 2) 学校で予防すべき感染症の登園 (登校) 停止基準について解説せよ。 3) 感染症の種類を感染症法の感染症類型で分類し、解説せよ。 4) 定期予防接種と任意予防接種との違いを述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学 (第 7 版) 医学書院 2) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂</p> <p>【学習する上での留意点】 感染症が集団発生したとき、公衆衛生的にどのような対策を立ててゆくか? 代表的な病原体について対策を立て、実践し、知識を共有しよう。</p>
12 テーマ	事故と安全教育
	<p>【学習の目標】 事故防止と安全教育について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 小児期にみられる事故の種類を発達段階から考えてみよう。 2) 事故とその応急処置について学び、実践する。 3) 安全チェックシートについて理解し、実践する。 4) チャイルドシートの種類と安全性について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 安全チェックシート、救急処置、事故、安全教育</p> <p>【学習の課題】 1) 小児期にみられる事故の種類と応急処置について論ぜよ。 2) 安全チェックシートについて解説せよ。 3) チャイルドシートの種類とその取り扱い方について述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 田中哲郎著 2001 新子どもの事故防止マニュアル 診断と治療社 2) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂</p> <p>【学習する上での留意点】 事故を完全に防ぐことは出来ない。いかに事故を起こさないように予防してゆくか考えてみよう。</p>
13. テーマ	母子保健行政施策 (1) 歴史的変遷
	<p>【学習の目標】 母子保健行政施策の歴史的変遷について説明することができる。</p> <p>【学習の内容】 母子保健行政施策の歴史的変遷について学ぶ。</p> <p>【学習の課題】 1) 母乳哺育推進の施策がその時々々の社会情勢によっていかに変遷したか、実例を挙げて論ぜよ。 2) 健康診査と母子健康手帳についてその役割について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 1) 厚生統計協会 2015 国民衛生の動向・厚生指針 増刊 2) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の母子健康手帳の内容から、自分が育った頃の時代背景を考えてみよう。</p>
14. テーマ	母子保健行政施策 (2) 「健やか親子 21」について
	<p>【学習の目標】 母子保健行政施策の一つである「健やか親子 21」について学習し、説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 「健やか親子 21」の概要について学ぶ。 2) 「健やか親子 21」の実施結果について解説する。 3) エンゼルプランや新エンゼルプランとの違いについて学ぶ。 4) 子ども・子育て応援プランについて学ぶ。</p>

	<p>【学習の課題】 1) 「健やか親子 21」の概要について論ぜよ。 2) エンゼルプランや新エンゼルプランの内容について論ぜよ。</p> <p>【参考文献】 1) 厚生統計協会 2015 国民衛生の動向・厚生指標 増刊 2) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂</p> <p>【学習する上での留意点】 今日までに実施された母子保健行政施策について、その特徴をまとめてみよう。</p>
15. テーマ	母子保健行政施策(3) 保健・医療・福祉・教育の連携
	<p>【学習の目標】 母子保健行政施策を遂行する上で、保健・医療・福祉・教育の連携は欠かせないことである。この連携のあり方について説明することができる。</p> <p>【学習の内容】 1) 保健・医療、福祉、教育の連携の方法について学ぶ。</p> <p>【学習の課題】 1) 保健・医療、福祉、教育の連携の必要性について論ぜよ。 2) 保健・医療、福祉、教育の連携を円滑に機能させるための方策について解説せよ。</p> <p>【参考文献】 1) 厚生統計協会 2015 国民衛生の動向・厚生指標 増刊 2) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、</p> <p>【学習する上での留意点】 認定こども園の制度について考えてみよう。</p>

1. 科目名 (単位数)	乳幼児保育学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5311
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	講義、演習、 文献講読	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>総論においては、わが国における乳児および幼児に関する保育の歴史の変遷を理解するとともに、乳幼児保育の原理と理念、並びに、保育需要の多様化という今日の視野を入れながら、現代における乳幼児保育の動向や問題点について考究する。</p> <p>各論においては、子どもは環境との相互作用のなかで育つことを考える時、現代の生活環境のさまざまな側面が子どもの発達に及ぼす影響を考察することは不可欠である。そこで、現代社会の特徴的側面である時間的環境や消費的環境を取り上げ、乳幼児保育の望ましいあり方について子どもの発達の観点から考察する。また、今日的課題である子育て支援についても考察する。</p>		
8. 学習目標	わが国の乳幼児の保育の動向を捉え、当面している課題を明らかにして、関連する文献による研究および実践研究等を通じて、問題の解決に向けて探求する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	シラバス「14 学習の展開および内容」の各テーマを参照のこと。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子編著「新保育学 改訂 5 版」南山堂 (2011) 日本保育学会誌「保育学研究」 その他、各テーマに応じた関連文献</p>		
11. 成績評価の方法	(通学課程) 出席状況・授業準備 50% (通信教育課程) レポート (論文) 50% レポートおよび作成資料 50% 単位認定試験 (課題論文) 50%		
12. 受講生への メッセージ	乳幼児の発達およびそれを支える保育に興味・関心をもって、その中から自ら課題を見つけ、その課題解決に向けて積極的に取り組む姿勢を期待しています。		
13. オフィスアワー	当該授業の前後、および研究室に在室している時		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テー マ	総論：わが国の乳幼児保育の動向および課題 (1) 家庭保育と集団保育		
	<p>【学習の目標】 保育の場として家庭および集団があるが、それぞれの特徴についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 ①家庭保育の意義、②集団保育の意義、③それぞれの今日的課題</p> <p>【キーワード】 家庭保育、集団保育、家庭生活、園生活</p> <p>【学習の課題】 家庭保育と集団保育のそれぞれの望ましい環境について考える。</p> <p>【参考文献】 津守真「保育の体験と思索」大日本図書 河合隼雄「子どもの宇宙」岩波書店 佐伯胖「幼児教育へのいざない」東京大学出版会 小林登「子ども学のまなざし」明石書店 他</p> <p>【学習する上での留意点】 代表的な保育の場である家庭保育と集団保育について、改めて考察することから本授業を始める。</p>		
2. テー マ	わが国の乳幼児保育の動向および課題 (2) 保育所 3 歳未満児の場合		
	<p>【学習の目標】 保育所の 3 歳未満児保育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における 3 歳未満児保育の歴史の変遷、②保育所 3 歳未満児保育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 0 歳児の保育、1 歳児の保育、2 歳児の保育、3 歳未満児保育の一般化</p> <p>【学習の課題】 3 歳未満児保育が一般化に至った経緯を考える。</p> <p>【参考文献】 津守真「子どもの世界をどうみるか」日本放送出版協会 津守真「保育者の地平」ミネルヴァ書房 矢野智司「意味が躍動する生とは何か—遊ぶ子どもの人間学—」世織書房 他</p> <p>【学習する上での留意点】 3 歳未満児保育とは、4 月時点で、0 歳児・1 歳児・2 歳児の保育であり、その年度末には、それぞれ 1 歳児・2 歳児・3 歳児になっている。</p>		
3. テー マ	わが国の乳幼児保育の動向および課題 (3) 保育所 3 歳以上児の場合		
	<p>【学習の目標】 保育所の 3 歳以上児保育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における 3 歳以上児保育の歴史の変遷、②保育所 3 歳以上児の保育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 3 歳児の保育、4 歳児の保育、5 歳児の保育、保育ニーズの多様化</p> <p>【学習の課題】 保育ニーズの多様化の背景について考える。</p> <p>【参考文献】 テーマ 2 に同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 保育所 3 歳以上児保育は、幼稚園教育と対比して考察すると現状と課題が分かりやすくなる。</p>		

4 . テーマ	わが国の乳幼児保育の動向および課題 (4) 幼稚園児の場合
	<p>【学習の目標】 幼稚園教育について、現状を理解し、当面する課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①わが国における幼稚園教育の歴史の変遷、②幼稚園教育の現状と課題</p> <p>【キーワード】 幼稚園教育、預かり保育</p> <p>【学習の課題】 保護者が保育所・幼稚園に期待することを考える。</p> <p>【参考文献】 倉橋総三「幼稚園真諦」フレーベル館 他</p> <p>【学習する上での留意点】 保育所の3歳以上児保育と対比して考察すると現状と課題が分かりやすくなる。</p>
5 . テーマ	保育者の専門性
	<p>【学習の目標】 乳幼児の保育・教育の専門家である保育者の専門性はどこにあるかについて考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①保育者にとって重要な資質とは何か、②保育者の資質を向上するためのプロセス</p> <p>【キーワード】 保育者、共感性、受容性</p> <p>【学習の課題】 乳幼児に対する不適切なかかわり(児童虐待)が社会問題となっているが、望ましいかかわりのあり方について考える。</p> <p>【参考文献】 倉橋総三「育ての心(上)(下)」フレーベル館 浜口順子『「育ち」観からの保育者論』風間書房 他</p> <p>【学習する上での留意点】 乳幼児の望ましい発達の観点から考える。</p>
6 . テーマ	愛着と自律
	<p>【学習の目標】 乳児期および幼児期前期の愛着についての理解を深めるとともに、その後の発達に及ぼす影響について学習する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもと親、子どもと保育者の間の愛着の形成、②愛着がその後の発達に及ぼす影響、③分離不安と園への適応</p> <p>【キーワード】 愛着、愛着行動、乳児期の発達課題、自律、分離不安</p> <p>【学習の課題】 愛着不全の子どもの園における対応について考える。</p> <p>【参考文献】 庄司順一・奥山真紀子・久保田まり編著「アタッチメント」明石書店 他</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの生涯発達の観点から考える。</p>
7～8. テーマ	現代の時間的環境と乳幼児保育
	<p>【学習の目標】 現代社会の特徴の一つである時間的圧力が、子どもの発達に及ぼす影響について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもは自分が生きている世界の中の時間をどう認識しているか、②子どもの日々の活動(ルーチン)の中の時間、③子どもが「いきいきと遊んでいる」の中の時間、④近年の20年間の環境の変化と時間、⑤現代の時間的環境の中における望ましい保育のあり方</p> <p>【キーワード】 時間的環境、現代社会、外的時間からの圧力、内的時間の充実、</p> <p>【学習の課題】 「早く、早く」と子どもを急がすことが今日ではしばしば見られるが、それが子どもに及ぼす影響について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子「現代の時間的環境における保育に関する研究」風間書房 エルカインド(久米訳)「急かされる子どもたち—現代社会がもたらす発達の歪み—」家政教育社 他</p> <p>【学習する上での留意点】 自分自身の日々の生活の中にも様々な「とき」があることを思い返すことは、子どもが生きている世界の中の時間を考える上で有益である。</p>
9～10. テーマ	現代の消費的環境と乳幼児保育
	<p>【学習の目標】 現代社会の特徴の一つである消費的環境の側面が、子どもの発達に及ぼす影響について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①子どもの金銭感覚の発達、②子どもにとってのプレゼントの意味、③子どもが考えるお金で買える物と買えない物</p> <p>【キーワード】 消費的環境、現代社会、お金、モノとこころ、</p> <p>【学習の課題】 今日の消費的環境の中での保育において留意すべき点について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子「子どもの金銭感覚の発達(第1報)(第2報)」日本家政学会誌、43(8)、43(11) 他</p> <p>【学習する上での留意点】 消費生活のあり方は、近年、持続可能な環境との関連が認識されるようになったことを念頭に置く。</p>
11 . テーマ	現代の子育て環境における性差
	<p>【学習の目標】 わが国では保育・教育の目標が従来より男子と女子で異なっていたが、近年はジェンダー・バイアスの解消を図る視点が一般的になってきた。保育・教育における性差の現状および課題について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①男らしさ・女らしさの様々な側面、②わが国における娘(女子)に対する親の育て方の変化、③性差の縮小と新たな課題</p> <p>【キーワード】 性差、親がわが子に期待すること、20年間の変化</p> <p>【学習の課題】 幼児期の保育において子どもの性による親や保育者のかかわり方の違いが子どもに及ぼす影響について考える。</p> <p>【参考文献】 岡野雅子「家庭教育における性差」日本保育学研究、37(2)。 他</p> <p>【学習する上での留意点】 男らしさ、女らしさに対する意識の変化を念頭に置く。</p>
12～13. テーマ	個性と乳幼児保育
	<p>【学習の目標】 わが国は成熟社会を迎えた今日、保育・教育においても横並びから子どもの一人一人の個性を尊重する傾向にあるが、子どもの個性について、親と集団保育の保育者の捉え方の異同について考察する。また、独創性をはぐくむことは、次代を切り拓く上で重要な課題であるが、独創性を育てることにつながる保育のあり方について考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①親と保育者による子どもの個性の捉え方、②親のきょうだい間の個性の捉え方、③独創性を育てる保育・教育</p> <p>【キーワード】 個性、その子らしさ、独創性、創意工夫</p> <p>【学習の課題】 集団保育において子どもの良い面をその子の個性と捉えて見守りはぐくむためにはどうしたら良いか考える。</p> <p>【参考文献】 三宅和夫「子どもの個性—一生後2年間を中心に—」東京大学出版会 岡野雅子「保育者による子どもの個性の捉え方」日本保育学会誌、28 他</p> <p>【学習する上での留意点】 様々な特徴をもった子どもが増加傾向にあるが、しつけ不在の状態を個性と捉える危険性は避けたい。</p>

14. テーマ	子育て支援の現状と課題
<p>【学習の目標】 子育て支援の重要性に対する理解を深める。すなわち、子どもをもつかもたないかは私的事項であるが、ひとたび生まれた子どもは次の時代を支える大切な人材である。それ故、子どもを育てることは社会の責務であることを学習する。</p> <p>【学習の内容】 ①子育て支援の変遷、②様々な子育て支援策、③子育て支援における保育者の役割</p> <p>【キーワード】 子育て支援、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、子ども・子育て応援プラン</p> <p>【学習の課題】 金田利子監修「地域で親子をどう支えるか」三学出版 他</p> <p>【参考文献】 子育て支援策が次々と打ち出されているが、出生数の大きな伸びは見られないのはなぜかを考える。</p> <p>【学習する上での留意点】 新聞報道などによる新たな動向に日頃から注意を払うこと。</p>	
15. テーマ	中学生・高校生の幼児とのふれ合い体験学習の幼児にとっての意味
<p>【学習の目標】 児童虐待等が社会問題化するとともに、保育教育の重要性が広く認識されるようになってきている。中学校高校の家庭科には保育領域があり、その中では「幼児とのふれ合い体験学習」が行われており、生徒が保育所・幼稚園を訪問して、幼児の行動を観察したり、一緒に遊んだりする活動が行われている。その活動が生徒に及ぼす教育効果については多くの報告があるが、幼児の側にはどのような効果があるかについて考察する。</p> <p>【学習の内容】 ①保育教育の必要性、②幼児と生徒のふれ合い体験の意義、③異世代交流のあり方</p> <p>【キーワード】 保育教育、異世代間交流、幼児と生徒のふれ合い体験</p> <p>【学習の課題】 中・高生の幼児とのふれ合い体験学習の際の保育者の役割について考える。</p> <p>【参考文献】 鯨岡峻「<育てられる者>から<育てる者>へ」日本放送出版協会 岡野雅子・伊藤葉子・倉持清美・金田利子「家庭科の幼児とのふれ合い体験と保育施設での職場体験学習の効果の比較」日本家庭科教育学会誌、54(1) 他</p> <p>【学習する上での留意点】 ふれ合い体験学習の実際の活動はさまざまな形が展開しているが、中学・高校生が保育所・幼稚園を訪問して幼児とふれ合う場合が一般的である。</p>	

1. 科目名 (単位数)	発達心理学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5316
2. 授業担当教員	岡野 雅子		
4. 授業形態	講義・演習・文献購読	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	保育の現場における心理学は、乳幼児だけでなく、保護者や家族(きょうだい、祖父母等)も対象となる。特に乳幼児期は、人格形成の基礎となる時期である。発達の様相とつまづきへの対応について、事例や先行研究に学びながら理解を深める。		
8. 学習目標	各ライフステージにおける発達課題と対応について、具体的実践的に理解することを目標とする。特に、生涯発達の初期である乳幼児期の発達とその支援について理解する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各コマで学ぶキーワードについてあらかじめ学習してから授業に臨むこと。 第15回において、発達心理学に関連する用語について、口頭試問を行う。		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>【参考書】 ガイドライン生涯発達心理学[第2版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版 育児・保育現場での発達とその支援 日本発達心理学会企画/柏木恵子・藤永保監修 ミネルヴァ書房 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書 保育用語辞典第8版 森上史朗・柏女霊峰編 ミネルヴァ書房 ことばの発達と認知の心理学 鹿取廣人 東京大学出版会 発達障害の思春期と二次障害防止のシナリオ 小栗正幸 ぎょうせい そだちの臨床-発達精神病理学の新天地- 杉山登志郎 日本評論社 心理学研究法入門 調査・実験から実践まで 南風原朝和 市川真一、下山晴彦編 東京大学出版会 発達障害白書 2016 年版 日本発達障害福祉連盟 明石書店</p>		
11. 成績評価の方法	<p>【通学】事前学習 30%</p> <p>授業における学習課題への取り組み 40%</p> <p>口頭諮問 30%</p>		
12. 受講生への メッセージ	なにげなく過ごしている日常も、生涯発達の視点で見るとこれまでと違ってみえてきます。トラブルや悩みの本質は何なのか、発達の視点から理解し、対処できるように勉強しましょう。		
13. オフィスアワー	事前にE-mail で連絡をください。E-mail : maokano@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	発達心理学とライフサイクル		
	<p>【学習の目標】 「発達」の概念について知る</p> <p>【学習の内容】 生涯発達という考え方について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 生涯発達、ライフサイクル、発達課題、ピアジェ、エリクソン、ハヴィーガースト、フロイト</p> <p>【学習の課題】 現代の「発達」の意味を知る。著名な研究者の唱えた発達理論を学ぶ。</p> <p>【参考文献】 ガイドライン生涯発達心理学[第2版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版</p> <p>【学習する上での留意点】 常に身近な事例を思い浮かべながら、テーマについて考えてください。また、新聞やテレビなどの報道と関連付けながら発達の問題を考えること。(以下同じ)</p>		
2. テーマ	胎児期・乳児期の発達心理		
	<p>【学習の目標】 胎児期・乳児期の発達の特徴と発達課題を知る。</p> <p>【学習の内容】 胎児期・乳児期の発達の特徴について。</p> <p>【キーワード】 愛着、信頼感の形成、共同注意、社会的参照、シンボル(象徴)機能</p> <p>【学習の課題】 乳幼児期の特徴のうち成人期に引き継がれやすいものについて調べましょう。</p> <p>【参考文献】 育児・保育現場での発達とその支援 日本発達心理学会企画/柏木恵子・藤永保監修 ミネルヴァ書房 ガイドライン生涯発達心理学[第2版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書</p>		
3. テーマ	幼児期の発達心理		
	<p>【学習の目標】 幼児期の発達の特徴と心の問題について学習する。</p> <p>【学習の内容】 幼児期の発達の特徴について。</p> <p>【キーワード】 集団保育(幼稚園・保育所)、第1反抗期、基本的な生活習慣、自己中心性、アニミズム、ことばの発達、質問期</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードと発達特性との関連について考察しましょう。</p> <p>【参考文献】 育児・保育現場での発達とその支援 日本発達心理学会企画/柏木恵子・藤永保監修 ミネルヴァ書房 ガイドライン生涯発達心理学[第2版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書 保育用語辞典第8版 森上史朗・柏女霊峰編 ミネルヴァ書房 ことばの発達と認知の心理学 鹿取廣人 東京大学出版会</p>		
4. テーマ	育児現場への支援		
	<p>【学習の目標】 保護者への支援、子どもへの支援について学習する。</p> <p>【学習の内容】 育児現場への支援とは、保護者をめぐる問題、子どもをめぐる問題、育児現場での支援の実際</p>		

【キーワード】	保護者支援、家族システム、エンゼルプラン、新エンゼルプラン、子ども・子育て応援プラン
【学習の課題】	子育て支援についての新聞記事などをスクラップし、保護者のニーズや支援のあり方について考えましょう。
【参考文献】	育児・保育現場での発達とその支援 日本発達心理学会企画／柏木恵子・藤永保監修 ミネルヴァ書房 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書 保育用語辞典第 8 版 森上史朗・柏女霊峰編 ミネルヴァ書房
5. テーマ	保育現場への支援
【学習の目標】	保育者への支援、子どもへの支援について学習する。
【学習の内容】	保育現場への支援とは、保育者をめぐる問題、保護者をめぐる問題、子どもをめぐる問題、保育現場での支援の実際
【キーワード】	アセスメント、保育者支援、コンサルテーション、保育カンファレンス、
【学習の課題】	保育現場での保育者への支援のあり方について考えましょう。
【参考文献】	育児・保育現場での発達とその支援 日本発達心理学会企画／柏木恵子・藤永保監修 ミネルヴァ書房 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書 保育用語辞典第 8 版 森上史朗・柏女霊峰編 ミネルヴァ書房
6. テーマ	児童期の発達心理
【学習の目標】	児童期の発達心理の特徴と心の問題について学習する。
【学習の内容】	児童期の発達心理の特徴について。
【キーワード】	脱中心化、自己有能感、ギャングエイジ、いじめ、不登校、発達障害
【学習の課題】	「いじめ」「不登校」の定義を確認しましょう。上記のキーワードと発達特性との関連について考察しましょう。
【参考文献】	発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書 発達障害の思春期と二次障害防止のシナリオ 小栗正幸 ぎょうせい そだちの臨床－発達精神病理学の新天地－ 杉山登志郎 日本評論社
7. テーマ	青年期の発達心理
【学習の目標】	青年期の発達の特徴と心の問題について学習する。
【学習の内容】	青年期の発達の特徴と心の問題について臨床心理学の問題と対処法。
【キーワード】	第 2 反抗期、第二次性徴、アイデンティティ、モラトリアム、思春期やせ症、摂食障害
【学習の課題】	上記のキーワードと発達特性との関連について考察しましょう。
【参考文献】	ガイドライン生涯発達心理学[第 2 版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版 発達障害の思春期と二次障害防止のシナリオ 小栗正幸 ぎょうせい
8. テーマ	不登校の心理と指導
【学習の目標】	不登校の要因、実態、指導法について学習する。
【学習の内容】	不登校の要因、現状、不登校の防止法について。
【キーワード】	長期欠席、経済的困難、病気の後の不登校、機能不全家庭
【学習の課題】	「不登校」とは病気や経済的理由を除き「学校にいかない」状態をさしています。その背景について考察しましょう。
【参考文献】	発達障害の思春期と二次障害防止のシナリオ 小栗正幸 ぎょうせい そだちの臨床－発達精神病理学の新天地－ 杉山登志郎 日本評論社
9. テーマ	発達障害と触法
【学習の目標】	「発達障害」の定義を学び、触法問題との関係について学習する。
【学習の内容】	「発達障害」の特性と誤解の要因、一般の触法行為とは異なる対処法について。
【キーワード】	発達障害、触法、少年鑑別所、行為障害
【学習の課題】	発達障害と触法の因果関係について考察しましょう。
【参考文献】	発達障害白書 2016 年版 日本発達障害福祉連盟 明石書店 発達障害の思春期と二次障害防止のシナリオ 小栗正幸 至文堂 そだちの臨床－発達精神病理学の新天地－ 杉山登志郎 日本評論社
10. テーマ	成人期の発達心理
【学習の目標】	成人期の心理と心の問題について学習する。
【学習の内容】	成人期の心理と心の問題の理解をするとともにその解決法を考える。
【キーワード】	アイデンティティの再構築、多重役割、熟年離婚、空の巣症候群
【学習の課題】	上記のキーワードと発達特性との関連について考察しましょう。
【参考文献】	ガイドライン生涯発達心理学[第 2 版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版 発達心理学キーワード 内田伸子編 有斐閣双書
11. テーマ	ストレスとうつ
【学習の目標】	ストレスとうつの原因、実態、予防法について学習する。
【学習の内容】	ストレスとうつの原因、実態、予防法について理解し、事例の研究をする。
【キーワード】	心的外傷ストレス症候群(PTSD)
【学習の課題】	ストレスとうつとの関連について、関連論文を検索しましょう。
【参考文献】	そだちの臨床－発達精神病理学の新天地－ 杉山登志郎 日本評論社 ガイドライン生涯発達心理学[第 2 版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版
12. テーマ	老年期の発達心理
【学習の目標】	老年期の心理、問題の解決法について学習する。
【学習の内容】	老年の生きがいの喪失、不治の病、死の不安、うつ、認知症について学習する。
【キーワード】	心身症、自殺、嫉妬、死の不安、認知症

【学習の課題】	老年期の心理の特徴について考察しなさい。
【参考文献】	ガイドライン生涯発達心理学[第 2 版] 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編 ナカニシヤ出版
13. テーマ	発達心理学の研究
【学習の目標】	発達心理学の研究における必要な知識について学習する。
【学習の内容】	各種研究法、調査研究の手順、心理学研究の倫理
【キーワード】	心理学研究法、調査法、質問紙法、面接技法、発達評価
【学習の課題】	日本心理学会などで公開している心理学研究の倫理について WEB で調べて発表しましょう。
【参考文献】	心理学研究法入門 調査・実験から実践まで 南風原朝和 市川真一、下山晴彦編 東京大学出版会
14. テーマ	発達の評価
【学習の目標】	発達評価の方法について学習する。
【学習の内容】	各種発達評価の目的、操作法、実施上の留意点について
【キーワード】	津守式乳幼児精神発達質問紙、遠城寺式発達検査、K-ABC、WISCIII, PEP-3
【学習の課題】	発達評価の方法を 1 つ選んで目的、操作法、実施上の留意点を説明しましょう。
【参考文献】	各種発達検査マニュアル
15. テーマ	発達心理学の総括
【学習の目標】	乳幼児期から老年期の生涯発達について理解する。
【学習の内容】	乳幼児期から老年期の発達心理を理解し、各発達期の心のケアを考える。
【キーワード】	現代の発達心理の定義
【学習の課題】	生涯発達とは何か、考えをまとめましょう。

1. 科目名 (単位数)	表現文化実践特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5314
2. 授業担当教員	岡村 弘・宮坂 慎司		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	<p>音楽的あるいは美術的な表現文化について講義形式によって、教育研究する。こどもの様々な音楽表現や美術表現を、文献を調査することなどを通して、また学生相互のディスカッションなどを通して理解・考察する。通信教育課程においては、インターネットを利用した授業支援システム『moodle』によって教員と学生、あるいは学生相互のディスカッションなどを行えるシステムを立ち上げているので、利用することができる(詳細はオリエンテーション時に説明する)。</p>		
8. 学習目標	<p>幼児期・児童期における音楽表現文化の領域について以下の課題を探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、音楽表現文化をコミュニケーション・テクノロジーとしての観点から考察する。 2、日本における幼児期・児童期の音楽表現文化の歴史の変遷について研究する。 3、諸外国の幼児期・児童期における音楽表現文化を理解し、日本の現在の音楽表現文化と比較研究する。 4、わが国の現代の音楽表現文化についての知識を深め、問題点や将来への課題を探求する。 <p>幼児期・児童期における美術表現文化の領域について以下の課題を探求する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、美術の普遍性と異文化への共感について表現文化の観点から考察する。 2、日本と諸外国の美術教育史の比較研究を行い、美術表現文化における創造と継承について考察する。 3、現代における幼児期・児童期の美術表現文化についての知識を深め、将来への課題を探求する。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・表現文化をコミュニケーション・テクノロジーの観点から考察する。 ・日本の表現文化を、諸外国の幼児期・児童期における表現文化と比較しながら考察する。 ・わが国の現代の表現文化について、テレビなどマス・メディアの影響、またその問題点や将来への課題を考察する。 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】岡村弘編著 芸術のコミュニケーション・テクノロジー 創言社 (履修登録者に配布する) 上記書籍の他、授業の進行に伴い適宜資料を配布する。</p> <p>【参考文献】市川亀久彌 感動の世界 ラティス刊 岡村弘著 国際比較幼児音楽論 創言社 小泉文夫著 音楽の根源にあるもの 平凡社ライブラリー57 小泉文夫著 日本の音 世界の中の日本音楽 平凡社ライブラリー71 高村光太郎著 美について (筑摩叢書 96) 筑摩書房 ハーバート・リード著 (瀧口修造訳) 芸術の意味 みすず書房 三井秀樹著 形の美とは何か NHK ブックス</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業への積極的な関わり 40%</p> <p>レポート課題 60%</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>すでに、実習などで幼児期あるいは児童期に関する音楽的・美術的表現法を体験されていることと思う。大学院においては、さらにそのうえに種々の表現文化を学術的に理論立てその深奥を究めるとともに、文化の進展に寄与できるよう努力してもらいたい。そのために、授業へ積極的に参加していくとともに自ら課題を持って研究して欲しい。</p>		
13. オフィスアワー	<p>未定(時間割決定時に発表する)</p> <p>その他、在室中であればいつでもよいが、できるだけ事前に予約してもらおうほうが確実。</p>		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	表現文化について(岡村)		
【学習の目標】	本科目の学習方法を理解したうえで、表現文化とは何かを考える。		
【学習の内容】	表現文化とは何か、他領域とどのように関わっているのかなど具体的な例を出しながらその意義について学生相互で討論する。		
【キーワード】	音楽、美術、表現、文化、文明、5感		
【学習の課題】	人類が自己表現方法を発見し、発展させていった過程について文献などで調査する。 表現文化の種々相をまとめる。		
【学習する上での留意点】	既に行ってきた実習の現場や自分自身の幼児期・児童期における体験などをもとに研究する。 自分自身で図書館などで文献を調べる。		
2～3. テーマ	表現文化とコミュニケーション・テクノロジー(岡村)		
【学習の目標】	表現文化をコミュニケーション・テクノロジーの観点から学生相互に討論するなかで考察する。		
【学習の内容】	<ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの種々相 (2) コミュニケーション・テクノロジーについて (3) 芸術におけるコミュニケーション・テクノロジー (4) 幼児期・児童期におけるコミュニケーション・テクノロジー 		
【キーワード】	エモーション、コミュニケーション、マス・コミュニケーション、テクノロジー、等価変換		
【学習の課題】	<ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーションの意義を調べる。 (2) 芸術におけるコミュニケーション・テクノロジーを考察する。 		

	<p>【学習する上での留意点】 表現文化の種々相を学術的に検証していこうとする授業であるから、言葉の持つ意味をよく理解し、実践にどのように応用していくのかを考察していくことが大切である。</p>
4～5. テーマ	日本における幼児期・児童期の音楽表現文化の歴史の変遷について(岡村)
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【学習する上での留意点】</p>	<p>日本における幼児期・児童期の音楽表現文化の歴史の変遷について 明治時代以前の日本の子どもの歌と明治時代以降の子どもの歌について図書館などで文献を調べるとともに、現在の保育、教育の現場において歌っている歌と、子どもたちが家庭生活の中で歌っている歌を調べる。 伝承歌遊び、わらべ歌、小学校唱歌、西洋音階、5音音階 (1) 明治時代以前の子どもたちの歌の中で現在も歌われているうたを調べる。 (2) 伝承歌遊びの実践と指導法の研究。 (3) 子どもたちが普段歌っている歌と、保育・教育の現場で歌っている歌について調べ、比較整理する 音楽表現文化の実技を行うことが、その音楽表現文化を知ることになるのであるから、学生自身で実技訓練を行うとともに、学生相互のロールプレイ等を考えながら積極的に行うよう心がける。</p>
6～7. テーマ	諸外国の幼児期・児童期における音楽表現文化と、日本の現在の音楽表現文化の比較(岡村)
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【学習する上での留意点】</p>	<p>諸外国の幼児期・児童期における音楽表現文化を調査し、日本の音楽表現文化と比較しながらその特徴的傾向を考察する。 (1) 諸外国の音楽表現文化の資料を調査する。 (2) 日本の音楽表現文化の資料を調査整理する (3) 観点を決め、その観点から日本と他の国の音楽的類似性、あるいは相違を調査し、各国における特徴的傾向を探求する。 拍子、音域、リズム、音階、観点 (1) どのような観点から資料を調査整理するか。たとえば、拍子に特徴的な傾向はあるのかなど、観点を絞り込む。 (2) どの国の音楽表現文化を調査するか、国を絞り込む。 (3) 階名唱などでの実演練習による特徴的傾向の調査 諸外国の音楽表現文化を、その国に直接行って調査することは困難であろう。どのようにすれば、それらの資料が手に入るかを研究することにも意義があると思われる。</p>
8～9. テーマ	美術の普遍性と異文化への共感(宮坂)
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【学習する上での留意点】</p>	<p>美術が有する普遍性と、それぞれの文化が有する独自性について考察し、理解を深める。 (1) 美術史の概観を学び、「美」の概念について考える。 (2) 独創性を有する様々な美術表現文化の在り方を調査する。 (3) 異文化への共感と他者理解について考えを深める。 美術史、普遍性、オリジナリティー、共感、造形要素 (1) 美術史の概観の把握のために、それぞれの大きな流れの基軸となりうる作家・作品を調査する。 (2) 独創性を有し、自身が魅力を感じる美術文化について調査する。 (3) 色・形・質感といった基本的な造形要素を整理する。 美術史の個々の事象を追うのではなく、大きな流れを掴むことに留意する。また、造形要素についての理解を深めるにあたっては、これまでの制作経験を振り返りながら、必要に応じて実制作を行うのが望ましい。</p>
10～11. テーマ	日本及び諸外国の美術教育の変遷と、現代における幼児期・児童期の美術表現文化(宮坂)
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【学習する上での留意点】</p>	<p>美術教育の変遷について整理し、現代における幼児期・児童期の美術表現文化について理解を深める。 (1) 日本及び諸外国の美術教育の歴史を概観する。 (2) ハーバート・リードの美術教育論や、ローウェンフェルドの発達段階説をとりあげ、造形芸術の意義や幼児期・児童期の造形表現の特質について改めて考える。 (3) 現代における美術表現文化について調査し、考察する。 美術教育、ハーバート・リード、ローウェンフェルド、描画の発達、視覚と触覚 (1) 日本と諸外国の美術教育の歴史を整理する。 (2) ハーバート・リード著『芸術による教育』『芸術の意味』を読み、日本の美術教育に与えた影響を考える。 (3) 保育園や幼稚園、小学校における子どもの造形活動を調査する。 これまでに学んできた子どもの発達段階について復習すること。その上で、子どもの描画の特徴を意識し、作品を鑑賞できる機会を得ることが望ましい。</p>
12～13. テーマ	美術表現文化における創造と継承(宮坂)
<p>【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【学習する上での留意点】</p>	<p>創造的で豊かな子どもの制作活動を支える場づくりについて、学生相互に討論をする中で考察を深めていく。また、新しい表現を模索することと伝統美のあり方の関係についても考えを深める。 (1) 現代美術や伝統美術について実例を挙げながら、美術表現文化における創造と継承について考える。 (2) 表現の受容について、意見を交換する中で考えを深め、子どもの制作活動を支える場づくりについて、実践を踏まえながら模索する。 場づくり、環境、造形遊び、表現の受容、現代美術、伝統美 (1) 子どもの造形活動と近現代の美術表現の関わりについて調査をする。 (2) 現代美術と伝統美術の類似性について、その有無を含めて、実例を挙げて考察を行う。 広い視野で美術表現文化に触れられるよう、美術館などで実際の作品を実見調査し、表現の受容と共感について考</p>

察していくことが望まれる。考察のヒントとなる美術展などの情報は授業時に随時紹介をしていく。	
14. テーマ	わが国の現代の表現文化について(岡村、宮坂)
【学習の目標】	マス・コミなどのメディアを通して、能動的・受動的に関わらず、幼児・児童が日常接する表現文化が注入されていく中で、子どもたちの心的発達のためにこれらをどのように受け入れればよいのか、現場での対応も調査した上で、自分自身が保育者・教育者となったときどう対処すればよいのかを考察する。
【学習の内容】	(1) 子ども向けのマス・メディアの内容の把握とその問題点を学生相互でディスカッションすることにより考察する。 (2) 問題点に対する対処の仕方、指導のあり方の考察
【キーワード】	マス・メディア、テレビ、ビデオ、子ども向け CD、DVD
【学習の課題】	(1) 子ども向け番組における表現文化の調査 (2) 保護者の考え方と、保育・教育者の考え方の相違をそれぞれの調査をもとにディスカッションする中で考察 (3) 制作者の意図するところの把握と対応策の考察
【学習する上での留意点】	マス・メディアの理論的根拠と、子どもの発達に関わる保育・教育としての考え方をはっきりさせる中で問題解決のための提案を行えるようになってもらいたい。
15. テーマ	まとめ(岡村)
【学習の目標】	今学期学んだことの総括と評価を双方向対話型の授業によって行う。【学習の内容】
【キーワード】	人間関係、生きる力、芸術
【学習の課題】	学んできたことを考えまとめることにより、芸術の意義、人間関係における表現文化の重要性、そして生きていく力について考える
【学習する上での留意点】	保育・教育の現場でしっかりとした理論に基づいた音楽表現文化の実践が行えるようなまとめが望まれる。

1. 科目名 (単位数)	表現文化実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6314
2. 授業担当教員	岡村 弘・宮坂 慎司		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	音楽的美術的な表現文化について、演習形式によって研究する。こどもの様々な表現を理解・考察した上で、表現方法やその指導方法について学生相互のディスカッションやロールプレイ等を通じて探求する。通信教育課程においては、インターネットを利用した授業支援システム『moodle』によって教員と学生、あるいは学生相互のディスカッションなどを行えるシステムを立ち上げているので、利用することができる(詳細はオリエンテーション時に説明する)。		
8. 学習目標	幼児期・児童期における表現文化の領域について以下の課題を探求する。 1、表現文化をコミュニケーション・テクノロジーとしての観点から実践する。 2、日本における幼児期・児童期の表現文化の歴史の変遷について実践を通して理解を深める。 3、諸外国の幼児期・児童期における表現文化を日本の現在の表現文化と比較しながら実践を通して理解する。 4、わが国の現代の表現文化についての知識を実践を通じて深め、問題点や将来への課題を探求する。		
9. アサイメント (宿題) 及び実践 課題	・演奏を通して音楽的表現法について考察する。 ・制作活動を通して美術的表現方法を考察する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 履修登録者に適宜プリントを配布する。 【参考文献】 市川亀久彌 感動の世界 ラティス刊 岡村弘著 国際比較幼児音楽論 創言社 小泉文夫著 音楽の根源にあるもの 平凡社ライブラリー57 小泉文夫著 日本の音 世界の中の日本音楽 平凡社ライブラリー71 高村光太郎著 美について (筑摩叢書 96) 筑摩書房 ハーバート・リード著 (瀧口修造訳) 芸術の意味 みすず書房 三井秀樹著 形の美とは何か NHK ブックス		
11. 成績評価の方法	授業への積極的な関わり 40% 実践課題 60%		
12. 受講生への メッセージ	すでに、実習などで幼児期あるいは児童期に関する表現法を体験されていることと思う。大学院においては、さらにそのうえに表現文化を学術的に理論立てその深奥を究めるとともに、実践演習でその学術的研究を補完することによって文化の進展に寄与できるよう努力してもらいたい。そのために、授業へ積極的に参加していくとともに自ら課題を持って研究して欲しい。		
13. オフィスアワー	未定(時間割決定時に発表する) その他、在室中であればいつでも結構ですが、できるだけ事前に予約してもらうほうが確実です。		
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1~2. テーマ	実践を通じた表現文化について(岡村、宮坂)		
	【学習の目標】 本科目の学習方法を理解したうえで、表現文化を実践を通して体得していく。 【学習の内容】 表現文化とは何か、他領域とどのように関わっているのかなどを、実践していくなかでその意義について学生相互で討論する。 【キーワード】 表現、文化、5感 【学習の課題】 人類が表現活動を発見し、発展させていった過程について学習し、表現文化の種々相を実践を通して理解する。 【学習する上での留意点】 既に行ってきた実習の現場や自分自身の幼児期・児童期における体験などをもとに表現活動の実践を行う。 自分自身で図書館などで表現方法について文献を調べる。		
3~4. テーマ	音楽表現文化とコミュニケーション・テクノロジー(岡村)		
	【学習の目標】 表現文化をコミュニケーション・テクノロジーの観点から実践を通じて考察する。 【学習の内容】 (1) コミュニケーションの種々相の実践 (2) 音楽におけるコミュニケーション・テクノロジーを実践する中で他領域の芸術とその相違を比較する。 【キーワード】 コミュニケーション、コミュニケーション・テクノロジー 【学習の課題】 幼児期・児童期におけるコミュニケーション・テクノロジーの方法についてロールプレイ等の実践を通して理解する。 【学習する上での留意点】 大人の心理や観点でなく、幼児期・児童期の子どもの心理や観点を学習したうえで実践することが重要である。		
5~7. テーマ	日本における幼児期・児童期の音楽表現文化の歴史の変遷について(岡村)		
	【学習の目標】 日本における幼児期・児童期の音楽表現文化の歴史の変遷について歌唱などの実践を通して考察する 【学習の内容】 明治時代以前の日本の子どもの歌と明治時代以降の子どもの歌について文献を調べるとともに、現在の保育、教育の現場において歌っている歌と、子どもたちが家庭生活の中で歌っている歌を調べ、歌唱する。 【キーワード】 伝承歌遊び、わらべ歌、小学校唱歌 【学習の課題】 (1) 明治時代以前の子どもたちの歌の中で現在も歌われているうたを調べ歌ってみる。		

	<p>(2) 伝承歌遊びの実践と指導法の研究。</p> <p>(3) 子どもたちが普段歌っている歌と、保育・教育の現場で歌っている歌について調べ、比較整理するとともに歌唱する。</p> <p>【学習する上での留意点】</p> <p>音楽表現文化の実技を行うことが、その音楽表現文化を知ることになるのであるから、学生自身で実技訓練を行うとともに、学生相互のロールプレイ等を考えながら積極的に行うよう心がける。</p>
8 ~ 9. テーマ	美術の普遍性と異文化への共感 (宮坂)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>美術が有する普遍性と、それぞれの文化が有する独自性について、制作を通じて実践的に学び、理解を深める。</p> <p>(1) 美術史の概観を学び、「美」の概念について実践を通して考える。</p> <p>(2) 独創性を有する様々な美術表現文化の在り方を調査する。</p> <p>(3) 異文化への共感と他者理解について考察し、互いの作品の鑑賞を行う。</p> <p>普遍性、オリジナリティー、共感、造形要素</p> <p>(1) 美術史の概観の把握ために、それぞれの大きな流れの基軸となりうる作家・作品を調査し、可能な限り実際の作品を鑑賞する。</p> <p>(2) 独創性を有し、自身が魅力を感じる美術文化について調査する。</p> <p>(3) 制作を通して、色・形・質感といった基本的な造形要素を実践的に学ぶ。</p> <p>美術史の個々の事象を追うのではなく、大きな流れを掴むことに留意する。また、造形要素についての理解を深めるにあたっては、これまでの制作経験を振り返りながら、必要に応じて実制作を行うのが望ましい。</p>
10 ~ 11. テーマ	日本及び諸外国の美術教育の変遷と、現代における幼児期・児童期の美術表現文化 (宮坂)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>美術教育の変遷について考察を深め、現代における幼児期・児童期の美術表現文化について制作を通して実践的に学ぶ。</p> <p>(1) 日本及び諸外国の美術教育の歴史について考える。</p> <p>(2) 造形芸術の意義や幼児期・児童期の造形表現の特質について、制作体験を通して考える。</p> <p>(3) 現代における美術表現文化について調査し、考察する。</p> <p>美術教育、描画の発達、視覚と触覚</p> <p>(1) 日本と諸外国の美術教育の歴史について考察する。</p> <p>(2) ハーバート・リードの著書を読み、日本の美術教育に与えた影響を考える。</p> <p>(3) 保育園や幼稚園、小学校における子どもの造形活動を実見調査する。</p> <p>これまでに学んできた子どもの発達段階について復習すること。その上で、子どもの描画の特徴を意識し、作品を鑑賞できる機会を得ることが望まれる。</p>
12 ~ 13. テーマ	幼児期・児童期における造形活動の実践的研究 (宮坂)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p>	<p>創造的で豊かな子どもの制作活動を支える場づくりについて、学生相互に討論をする中で考察を深めていく。また、幼児期・児童期の制作活動で用いられる造形技法について実践を通して体得する。</p> <p>(1) 表現の受容について、意見を交換する中で考えを深め、子どもの制作活動を支える場づくりについて、実践を踏まえながら模索する。</p> <p>(2) モダンテクニックに総称される造形技法について、子どもとの造形活動を想定しながら体験的に学ぶ。</p> <p>場づくり、環境、造形遊び、モダンテクニック</p> <p>(1) 子どもの造形活動と近現代の美術表現の関わりについて考察する。</p> <p>(2) 筆を用いない描画表現について調べ、偶然性を活かした制作の特質について考察する。</p>
14. テーマ	美術表現文化における創造と継承 (宮坂)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p>	<p>新しい表現を模索することと伝統美のあり方の関係について、鑑賞を通して考えを深める。</p> <p>現代美術や伝統美術について実例を挙げながら、美術表現文化における創造と継承について考える。</p> <p>表現の受容、現代美術、伝統美</p> <p>現代美術と伝統美術の類似性について、その有無を含めて、実例を挙げて鑑賞を通して考察を行う。</p>
15. テーマ	まとめ (岡村)
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習する上での留意点】</p>	<p>今学期学んだことの総括と評価を行う。また、ロールプレイ方式によって実践発表を行う。</p> <p>保育・教育の現場でしっかりと理論に基づいた音楽表現文化の実践が行えるよう、理論と実践が有機的に関連を持たせた発表が望まれる。</p>

1. 科目名 (単位数)	病児保育学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5322						
2. 授業担当教員	植地 正文								
4. 授業形態	講義および文献講読、討論	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R						
7. 講義概要	<p>子どもが病気になって病院に入院したとき、健常児でも障害を持っている子どもでも一人で寂しいおもいをしている。子どもには医師や看護師による病気の治療やケアのほか、保育士や臨床心理士などの職種の人々による「あそび」などを取り入れたトータル・ケアが必要である。それによって、子どもたちに精神的な安らぎを与えることができる。わが国では、病児・病後児保育事業がはじまったばかりである。病児保育は、当初、働く父母をサポートするためにスタートしたが、今日では、子育てをしている家庭への支援へと分化してきつつある。その考え方と方向性について理解することが求められている。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病児・病後児保育の必要性について説明することができるようになる。 2. 病児・病後児保育の歴史の変遷について解説することができるようになる。 3. 病児・病後児保育事業の類型化について説明することができるようになる。 4. 病児・病後児保育に必要な子どもの生理機能および心理学について説明することができるようになる。 5. 病児・病後児保育における保健管理および医療的対応について実践することができるようになる。 6. 病児・病後児保育における事故防止と安全教育について実践することができるようになる。 								
9. アサインメント (宿題) 及び レポート課題	<p><u>宿題</u>：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病児・病後児保育事業が取り扱う疾病の範囲について； (テーマ 1 2 終了時に宿題を提出すること) 2) 感染性疾患の家庭内病児保育について； (テーマ 1 4 終了時に宿題を提出すること) <p>[各宿題は、A4 判、横書き、2 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて下さい。]</p> <p><u>レポート課題</u>： (テーマ 1 4 終了時にすべてのレポートを提出すること)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病児・病後児保育を行う場合の制度上の問題点について述べよ。 2. 病児・病後児保育現場でみられる感染症とその応急処置について述べよ。 3. 病児・病後児保育現場でみられる事故とその応急処置について述べよ。 <p>[各レポートは、A4 判、横書き、3 ページ (1 ページあたり 40 字×39 行) にまとめて下さい。]</p>								
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 帆足英一監修『改訂必携・新病児保育マニュアル (平成 21 年度版)』全国病児保育協議会、2009。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高野陽、西村重稀編著 2010 病児・病後児保育 体調のよくない子どもの保育 北大路書房 2) 森川昭廣監修 内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学 (第 7 版) 医学書院 3) 梶谷喬、寺田喜平、小河昌子著 2009 改訂 2 版 医療保育一ゼひ知っておきたい小児科知識 診断と治療社 4) 高野陽、中原俊隆編、2007 乳幼児保健活動マニュアル、文光堂 5) 厚生統計協会 2015 国民衛生の動向・厚生指 標 増刊 <p>随時プリントを配布する。</p>								
11. 成績評価の方法	<p>(通学課程)</p> <table> <tr> <td>レポート課題</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>宿題</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>受講態度</td> <td>10%</td> </tr> </table>			レポート課題	50%	宿題	40%	受講態度	10%
レポート課題	50%								
宿題	40%								
受講態度	10%								
12. 受講生への メッセージ	<p>病児・病後児保育事業がスタートし、全国的に多数の小児科医院や保育所がこの事業に参加してきている。病児・病後児保育では、小児科臨床の知識及び心理学的知識のほかに、「あそび」の遊具や遊び方の知識などを習得することが求められている。従って、これら知識を積極的に吸収する必要があるため、予習・復習を必ずしてほしい。</p>								
13. オフィスアワー	授業時に周知する								
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】									
1～2. テーマ	病児保育の概要とその歴史の変遷								
<p>【学習の目標】 病児保育ができた経緯を理解し、その歴史の変遷について解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1. 病児保育の必要性を理解する。 2. 病児保育の歴史を学び、病児保育の今後の方向性について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 病児保育、歴史の変遷、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)</p> <p>【学習の課題】 1. 病児保育の歴史の変遷について述べよ。 2. 病児保育、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)について解説せよ。</p> <p>【参考文献】 梶谷喬、寺田喜平、小河昌子著 2009 改訂 2 版 医療保育一ゼひ知っておきたい小児科知識 診断と治療社</p>									

	<p>【学習する上での留意点】 病児・病後児保育、医療保育、Hospital Play Specialist(HPS)について、その内容を整理しておくことは大切である。</p>
3 . テ ー マ	病児・病後児保育事業の類型化とその概要
	<p>【学習の目標】 病児・病後児保育事業の類型化について説明することができるようになる。 【学習の内容】 病児・病後児保育事業の概要について学ぶ。 【キーワード】 病児保育、病後児保育、類型化 【学習の課題】 1) 病児・病後児保育事業の概要について述べよ。 2) 病児・病後児保育事業が取り扱う疾病の範囲について述べよ 【学習する上での留意点】 病児・病後児保育事業では、病児対応型、病後児対応型、体調不良児対応型に分けられている。その意味について理解しておく必要がある。</p>
4～5. テ ー マ	病児保育学の基礎（1）子どもの身体の解剖・生理学
	<p>【学習の目標】 人体の構造とその生理学的機能について解説することができるようになる。 【学習の内容】 病気になった子どもを観察する前に、健常児の身体の解剖・生理機能について学ぶ。 【キーワード】 子ども、人体の構造、生理機能 【学習の課題】 1) 人体の各種臓器の発生について述べよ。 2) 代表的な臓器の生理学的機能について述べよ。 【参考文献】 ・真島英信著、松村幹郎改訂 2004 人体生理学ノート改訂 6 版 金芳堂 【学習する上での留意点】 人間だれもが持っている臓器でありながら、知らないことが多い。医学的な用語が多く、難解であるので、繰り返し復習をして、少しでもその仕組みを理解してほしい。</p>
6 . テ ー マ	病児保育学の基礎（2）こどもの発達心理学と病気への関与
	<p>【学習の目標】 心理学的立場から、子どもの発達と病気との関連性を解説することができるようになる。 【学習の内容】 小児期区分ごとの心理学的発達と心身症について学ぶ。 【キーワード】 病児保育、発達心理学、小児期区分、心身症 【学習の課題】 1) 新生児・乳児期の発達心理学と病態について述べよ。 2) 幼児期の発達心理学と病態について述べよ。 3) 学童期の発達心理学と病態について述べよ。 4) 青少年期の発達心理学と病態について述べよ。 【参考文献】 1) 河野友信編 2000 思春期心身症の臨床 医薬ジャーナル社 2) 山内光哉 1998 発達心理学 上「第2版」ナカニシヤ出版 【学習する上での留意点】 小児期の各時期における心理学的発達と心身症に関する知識を習得することは必要である。</p>
7 . テ ー マ	病児保育学の基礎（3）こどもへの保育学 [中間のまとめ]
	<p>【学習の目標】 病気になった子どもにとって、親や養育者が看病に当たるのが最も望ましい。しかし、それができない時にはどうすればよいか、その方策を解説することができるようになる。 【学習の内容】 病児を看護する場合、子どもにどのように接したらよいか？ あらゆる場面について実践してみよう。 【キーワード】 病児保育、養育者、隔離、保育内容 【学習の課題】 1) 医療機関に入院した病児の保育について述べよ。 2) 家庭における病児保育について述べよ。 【学習する上での留意点】 病児保育を行う場合、病気への対応が第1優先になるので、そのときの保育内容は工夫する必要がある。</p>
8 . テ ー マ	病児保育学の実践（1）保育看護の考え方
	<p>【学習の目標】 保育看護の内容について説明することができるようになる。 【学習の内容】 保育看護とは、保育と看護とがお互いにその領域をひろげて病児に接して効果を十分に発揮したときの考え方である。どのような内容で行うことが理想であるか知識を深める。 【キーワード】 保育看護、病児保育、看護、保育、医療 【学習の課題】 子どもの各種病態に対して行う保育看護について述べよ。 【学習する上での留意点】 保育士が病児を保育するとき、徴候や症状をいち早く見つけ出す力をつけることが大切である。</p>
9 . テ ー マ	病児保育学の実践（2）病児保育における保育
	<p>【学習の目標】 病児に対する手あそび、絵本、音楽、などの保育内容について実践することができるようになる。 【学習の内容】 1) さまざまな病気になっている病児に対して、最も適した保育内容は何かについて学ぶ。 2) 「あそび」、「絵本」、「音楽」を中心にした方法で、病児の癒しは可能かどうかについて学ぶ。 【キーワード】 病児、あそび、絵本、音楽、保育内容</p>

	<p>【学習の課題】 1) 病気の程度と保育内容との関係について述べよ。 2) 病児のストレスを解消する手段として、あそびなどの保育内容の重要性について述べよ</p> <p>【学習する上での留意点】 病児がおかれている環境や病気の種類によって、保育内容を変えなければならない。</p>
10. テーマ	病児保育学の実践 (3) 病児保育における保健管理
	<p>【学習の目標】 病児保育における保健管理がどのように行われているかを解説することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 病児保育を行う上での「からだ」と「こころ」の健康状態のチェックにはどんなものがあるのかを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 病児保育、健康診査、</p> <p>【学習の課題】 1) 病児・病後児保育で扱う疾患と病態について述べよ。 2) 病児・病後児保育での「からだ」のチェックポイントについて解説せよ。 3) 病児・病後児保育での「こころ」のチェックポイントについて解説せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 病児保育で扱う疾患は多数ある。それぞれの疾患の徴候・症状によって対応の違うことを学ぶ。</p>
11~12. テーマ	代表的な症状や疾患への対応と実践 (1) 症状別にみた対応
	<p>【学習の目標】 病児保育における保健管理がどのように行われているか、その実態を説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 病児保育を行う上での「からだ」と「こころ」の健康状態のチェックにはどんなものがあるのかを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 病児保育、健康診査</p> <p>【学習の課題】 1) 病児・病後児保育で扱う疾患と病態について述べよ。 2) 病児・病後児保育での「からだ」のチェックポイントについて解説せよ。 3) 病児・病後児保育での「こころ」のチェックポイントについて解説せよ。</p> <p>【学習する上での留意点】 病児保育で扱う疾患は多数あり、それぞれの疾患の症状・徴候によって対応の違うことを学ぶ。</p>
13~14. テーマ	代表的な症状や疾患への対応と実践 (1) 疾患別にみた対応
	<p>【学習の目標】 病児が罹患している疾患の対応について説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 1) 病児保育では、感染性疾患を早期に発見し隔離することが求められている。そのためにも保育診断について学ぶ。 2) 感染性疾患の治療、ケアについての知識を深める。 3) 感染予防対策としての消毒・滅菌法について理解を深める。</p> <p>【キーワード】 感染性疾患、非感染性疾患、消毒・滅菌法、治療</p> <p>【学習の課題】 1) 発疹性感染性疾患の診断とその対応について述べよ。 2) 感染性疾患に対する消毒・滅菌法について述べよ。 3) 感染予防のための予防接種について述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 五十嵐隆総編集、渡辺博専門編集 2008 小児科臨床ピクシス4 予防接種 中山書店 2) 国立大阪病院感染対策委員会編集 1999 院内感染予防対策ハンドブック 南江堂</p> <p>【学習する上での留意点】 病児保育では、急性、慢性の病気を持っている子どもを扱っているため、それらの疾患に関する知識とその対応を習得することが求められている。</p>
15. テーマ	「病児保育学」のまとめ
	<p>【学習の目標】 病児・病後児保育では、急性、慢性の疾患が対象になっていて、その対応は異なっている。小児期では、感染性疾患がほとんどであるので、それに対するケアについて説明することができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 病児保育は、当初両親をサポートするために実施されたが、今日では次第にかたちを変えて、各家庭での子育て支援へと方向性が変わってきている。病児保育のできる保育士が各家庭を訪ね、病児保育をすることが理想である。</p> <p>【キーワード】 病児保育、子育て支援、家庭、感染性疾患、非感染性疾患</p> <p>【学習の課題】 1) 感染性疾患の家庭内病児保育について述べよ。 2) 保育所型病児保育における感染性疾患の隔離体制について述べよ。</p> <p>【参考文献】 1) 梶谷喬、寺田喜平、小河昌子著 2009 改訂2版 医療保育—ぜひ知っておきたい小児科知識 診断と治療社 2) 森川昭廣監修、内山聖、原寿郎、高橋孝雄編集 2009 標準小児科学第7版 医学書院 3) 五十嵐隆総編集、渡辺博専門編集 2008 小児科臨床ピクシス4 予防接種 中山書店 4) 国立大阪病院感染対策委員会編集 1999 院内感染予防対策ハンドブック 南江堂</p> <p>【学習する上での留意点】 病児・病後児保育を行うとき、施設によっては病気の種類を分けている。このような取り扱いになっていることについて考えてみよう。</p>

1. 科目名 (単位数)	保育内容研究特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6313
2. 授業担当教員	関口 準		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容にかかわる科目を履修していること	履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	<p>幼児教育の歴史の変遷から保育内容の理念、在り方を把握し、その上で今日的な保育内容の理念、在り方を検討し理解を深める。幼児教育は何故環境を通しての教育なのか、何故総合性、総合的活動が求められるのか等にふれ、それらにかかわる保育内容の構造的、領域の位置づけ、領域相互の関連性等を深く学習し、その在り方を考察する。</p> <p>また諸外国の保育内容、今後の多様な保育ニーズ、小学校との連携、教育改革の動向等も含め、これからの保育内容の在り方も検討していく。</p>		
8. 学習目標	<p>1. 幼児教育の歴史から保育内容の変遷を理解する。</p> <p>2. 今日的幼児教育、保育の方法、内容について生きる力の基礎、環境を通しての教育、総合的活動、保育の構造、領域の在り方等々から再考し理解を深める。</p> <p>3. 諸外国の保育内容と日本の保育内容を比較検討する。</p> <p>4. 小学校の教育内容と幼児教育、保育内容との関連性を検討する。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>シラバスの課題に関すること。</p> <p>別途指示する。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 森上史朗、柴崎正行編「保育内容総論」東京書籍 J.ヘンドリック編著、石垣恵美子、玉置哲淳監訳「レッジョ・エミリア保育実践入門」北大路書房 L.E.バーク、A.ウインスラー、田島信元、田島啓子、玉置哲淳編訳「ヴィゴツキーの新しい・幼児教育法」北大路書房 無藤隆「幼児教育のデザイン」東京大学出版会 中央区立有馬幼稚園、小学校 秋田喜代美監修「幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例」小学館</p> <p>【参考文献】 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館 幼児教育研究会代表森上史朗編「最新保育資料集 2014」ミネルヴァ書房 全国認定こども園協会編「認定こども園の未来」フレーベル館 国立教育政策研究所教育課程研究センター「幼児期から児童期への教育」ひかりのくに 全国幼児教育研究会「学びと発達の連続性」チャイルド本社 シルビアチャード著、小田豊監修、芦田宏監訳「幼児教育と小学校教育の連携と接続」光生館 文部科学省初等教育資料No.856JAN10「特集①幼稚園保育所と小学校との連携の在り方」東洋館出版社 その他必要に応じて参考文献を示す、又はプリントを配布する。</p>		
11. 成績評価の方法	<p>授業参加態度、発表—30%</p> <p>レポート—70%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児教育、保育の中核ともなる保育内容について深く学習するので、保育内容に関する保育実践や参考図書、文献等に積極的に当たり勉強していくようにして欲しい。必要に応じて対話的に授業を進めていくので的確に内容を理解するようにする。</p>		
13. オフィスアワー	<p>別途通知する。</p>		
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	<p>幼児教育の歴史から保育内容の理念、在り方を理解する 1</p>		
【学習の目標】	<p>保育内容とは何か 保育内容の保育における位置づけを理解する。</p> <p>草創期から戦前までの保育内容の流れを理解する。</p>		
【学習の内容】	<p>保育内容の具体的項目について保育における位置づけを調べる。又どのような取り上げ方をしていたのかを捉える。</p>		
【キーワード】	<p>フレーベルの恩物、モンテッソーリ教育、保育 4 項目時代、保育 5 項目時代</p>		
【学習の課題】	<p>保育内容の変遷がどのような要因や背景から起こったのか、またどのような指導方法を行っていたのかをまとめる。</p>		
【参考文献】	<p>文部省「幼稚園教育百年史」ひかりのくに社 浦辺史他著「保育の歴史」青木書店 日本保育学会「日本幼児保育史」</p>		
【学習する上での留意点】	<p>保育内容としての特徴を捉え、変遷の流れを把握すること。</p>		
2. テーマ	<p>幼児教育の歴史から保育内容の理念、在り方を理解する 2</p>		
【学習の目標】	<p>保育要領を理解する。幼稚園教育要領と保育所保育指針の関係と変遷を理解する。</p>		
【学習の内容】	<p>保育要領の果たした役割を捉える。幼稚園教育要領、保育所保育指針の構造と果たす役割を捉える。</p> <p>幼稚園教育要領と保育所保育指針の関係を規定したものは何か、またその意味を捉える。</p>		
【キーワード】	<p>保育 12 項目、(6 領域、5 領域)、望ましい経験や活動、教育課程、保育計画、環境を通しての教育</p>		
【学習の課題】	<p>保育要領から幼稚園教育要領、保育所保育指針への流れの意味するものを捉える。</p> <p>幼稚園教育要領と保育所保育指針とのかかわりと構造の違いを把握する。</p>		
【参考文献】	<p>上記と同じ</p>		
【学習する上での留意点】	<p>幼稚園教育要領と保育所保育指針の改定ごとのそれぞれの特徴を把握する。</p>		

3 . テーマ	幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の理解を深める
【学習の目標】	現行幼稚園教育要領、保育所保育指針の保育内容の捉え方、特徴、構造などを理解する。
【学習の内容】	現行幼稚園教育要領、保育所保育指針の共通点、異なる点などを捉える。
【キーワード】	幼稚園教育の基本、保育所保育の基本、特性、環境を通しての教育、保育、発達の過程区分、子どもの最善の利益、子育て支援、小学校との連携、保育者の資質、教師の役割、倫理など。
【学習の課題】	現行幼稚園教育要領、保育所保育指針の理念、保育内容の構造等を深く理解する。 幼稚園教育要領と保育所保育指針の保育の内容のつながり、かかわりを比較検討する。
【参考文献】	上記の他に文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館、厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館
【学習する上での留意点】	具体的に幼稚園教育要領の内容と保育所保育指針の内容を比較して関連性と違いについて検討する。
4 . テーマ	環境を通しての教育と領域、領域相互関係の在り方から検討する
【学習の目標】	なぜ、環境を通しての保育が求められるのか理解する。領域と教科との違いについて理解する。 領域相互の関係や在り方を環境構成や具体的活動から検討し理解する。
【学習の内容】	環境をとおしての教育とは何か、幼児期の特性から小学校のような教科的指導では不適切であることを捉える。 領域は子どもの発達を捉える視点、環境構成をする際の視点、活動を捉える視点であることを確認する。
【キーワード】	領域、領域の相互性、教科、幼児期の特性、保育実践でのねらいと領域の関係
【学習の課題】	環境を通しての教育、保育と領域とのかかわりを把握する。領域と教科の違いと関連性について考える。
【参考文献】	上記と同じ
【学習する上での留意点】	環境を通しての教育、保育での問題点を捉える。領域はすべてが必ずしも同じ割合でかかわるとは限らないことをおさえておく。
5 . テーマ	総合的活動と保育形態と保育内容について検討する
【学習の目標】	総合的活動とは何か、なぜ、活動を総合的活動として捉えるのか理解する。保育形態とは何かを理解する。 保育形態と保育内容のかかわりを理解する。
【学習の内容】	総合的活動と保育内容（5領域）のかかわり、保育形態と保育内容（5領域）とのかかわりを捉える。 保育形態は子どもの活動に応じて変化するものであることを捉える。
【キーワード】	総合的活動と領域との関係性、環境構成、保育形態と保育の在り方、個の活動、グループの活動、全体の活動、園全体の活動、自由な活動、課題的活動、オープンな活動など。
【学習の課題】	なぜ、総合的活動なのか保育内容面から捉える。保育形態を保育の在り方、流れから捉える。
【参考文献】	上記と同じ
【学習する上での留意点】	総合的活動を行う際の留意する点、保育形態にはさまざまな要因から多様な形態が存在する。その際に留意する点をおさえておく。
6 . テーマ	レッジョ・エミリアのプロジェクトメソッドから保育内容を考える 1
【学習の目標】	レッジョ・エミリアの保育の目的、基本原理を学ぶ
【学習の内容】	子どもたちの関係、相互作用、協力、共同と保育者、専門家等とのかかわりの在り方を捉える。
【キーワード】	プロジェクト、エマーゼントカリキュラム、アトリエ、記録文書の力、共同、協同、協働
【学習の課題】	保育における保育者、アトリエスタ等の子どもへのかかわり方、役割を捉える。
【参考文献】	J. ヘンドリック編著、石垣恵美子、玉置哲淳寛訳「レッジョ・エミリア保育実践入門」北大路書房
【学習する上での留意点】	レッジョ・エミリアの保育の歴史を踏まえて理解するようにする。
7 . テーマ	レッジョ・エミリアのプロジェクトメソッドから保育内容を考える 2
【学習の目標】	レッジョ・エミリアの保育内容、保育活動の在り方を理解する。
【学習の内容】	アメリカの保育、日本の保育等と比較検討する。
【キーワード】	創造性に関する姿勢、子どもたちとの会話と保育者、アトリエスタ、ペダゴジスタ、「子どもたちの100の言葉」
【学習の課題】	レッジョ・エミリアの保育、共同としての保育の哲学的基礎について学ぶ。 レッジョエミリア市の幼児教育実践記録
【参考文献】	上記の他に角尾和子編「プロジェクト型保育の実践研究」北大路書房
【学習する上での留意点】	レッジョ・エミリアの保育から日本の保育として学ぶことを捉えるようにする。
8 . テーマ	ヴィゴツキー幼児教育法から保育内容を考える
【学習の目標】	ヴィゴツキー理論の発達へのアプローチ、遊びの理論等について学ぶ。
【学習の内容】	社会的に共有される認知、足場づくり、私的言語、子どもの遊び足場作り、想像遊び等について理解する。
【キーワード】	最近接発達領域、相互主観性、ごっこ遊び、社会文化的文脈のなかでの遊び
【学習の課題】	ヴィゴツキー理論を日本の保育にどう位置づけ、取り入れるかを考える。
【参考文献】	L,E, バーク、A、ウインスラー著、田島信元、田島啓子、玉置哲淳編訳 「ヴィゴツキーの新・幼児教育法」北大路書房
【学習する上での留意点】	ヴィゴツキーの核となる概念を理解しその理論を把握するように努めるようにする。
9 . テーマ	モンテッソリーの教育から保育内容を考える
【学習の目標】	子どもの家の教育内容、自発的活動と知的教育、基本的認識力と感覚教育等について学ぶ。
【学習の内容】	感覚教育、知る喜び、発見の喜び、自発活動の援助と教育内容を理解する。
【キーワード】	感覚教具、知性の基礎、保育者の役割、子どもの知的生命
【学習の課題】	モンテッソリーの教育法を日本の保育にどう生かすかを考える。
【参考文献】	早田由美子「モンテッソリー教育思想の形成過程」勁草書房
【学習する上での留意点】	医学的研究、知的障害児治療教育から出発していることを踏まえて学んでいくようにする。

10. テーマ	諸外国の幼児教育の保育内容を理解する 1
【学習の目標】	アメリカの幼児教育、保育を理解する。
【学習の内容】	多様な乳幼児のプログラムや制度、内容があることを捉える。
【キーワード】	幼稚園、ヘッドスタート、保育センター、個人立保育センター、チェーン式保育センター
【学習の課題】	様々な制度の中で保育がどのように展開されているかを捉える。
【参考文献】	日本保育学界 50 周年記念出版「諸外国における保育の現状と課題」世界文化社他
【学習する上での留意点】	アメリカの幼児教育、保育に関する他の図書等に当たり勉強していくようにする。
11. テーマ	諸外国の幼児教育の保育内容を理解する 2
【学習の目標】	イギリスの幼児教育、保育を理解する。
【学習の内容】	就学前児が通うさまざまな制度、内容があることを捉える。
【キーワード】	ナーサリースクール、ナーサリークラス、レセプションクラス、デイナーサリー、プレイグループ、チャイルドマインディング
【学習の課題】	様々な制度の中で保育がどのように展開されているかを捉える。
【参考文献】	上記に同じ
【学習する上での留意点】	イギリスの保育に関する他の図書等に当たり勉強していくようにする。
12. テーマ	諸外国の幼児教育の保育内容を理解する 3
【学習の目標】	フランスの幼児教育、保育を理解する。
【学習の内容】	就学前の保育施設の制度、内容を捉える。
【キーワード】	集団保育所、一時託児所、家庭保育所、母親学校、乳幼児保育所
【学習の課題】	それぞれの施設で保育がどのように展開されているかを捉える。
【参考文献】	上記に同じ
【学習する上での留意点】	幼保の関係、幼小の関係、子育て支援等を学ぶ、また他の図書で勉強していくようにする。
13. テーマ	幼稚園、保育所の保育と小学校の教育を比較検討する
【学習の目標】	幼稚園、保育所の保育方法と小学校の教育の教育方法の共通する面と異なる面を捉える。
【学習の内容】	幼児の心身の発達と児童の心身の発達から生活や活動等が異なることを再確認する。その上でどうつながりをもつようにするのかを考える。
【キーワード】	遊びを中心、教科を中心、幼稚園の教育課程、保育所の保育課程、小学校の教育課程
【学習の課題】	生活の連続性、学びの連続性、発達の連続性等の面から連携の在り方を考える。
【参考文献】	秋田喜代美監修執筆、有馬幼稚園、小学校執筆「幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例」小学館 国立教育政策研究所教育課程研究センター「幼児期から児童期への教育」ひかりのくに
【学習する上での留意点】	小学校との互恵性の関係を持ち教育内容、学び方、地域社会のつながり等に着眼して連携を考えるように留意する。
14. テーマ	総合的活動と生活科、総合的学習とのかかわりを検討する。
【学習の目標】	幼稚園、保育所の総合的活動と小学校の生活科の遊び、活動、総合学習の活動のつながり、かかわりを捉える。
【学習の内容】	総合的活動、生活科の活動、総合学習の活動のどのような部分に共通性があり、つながる、つなげることが可能なのか検討し理解する。
【キーワード】	活動の共通性、連続性、接続性、学びの在り方の共通性、連続性、接続性
【学習の課題】	連携、接続を具体的な実践から検討をする。
【参考文献】	小学校学習指導要領解説生活科編、総則編他 酒井朗、横井絢子「保幼小連携の原理と実践」ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	幼稚園、保育所の実践と小学校の実践を具体的に接続、連携を検討するようにする。
15. テーマ	幼稚園、保育所と小学校との連携を保育内容から検討する
【学習の目標】	幼稚園、保育所の保育内容と小学校の各教科の教育内容とを比較検討し、接続、連携を捉える。
【学習の内容】	幼稚園、保育所の領域と小学校の教科とは異なるが、関連性、接続性からは、かかわりがあるので連携を検討していく。
【キーワード】	領域と教科、特別活動、道徳の時間
【学習の課題】	小学校の入門期の指導にどうつながるのか、どのような問題があるのか等理解する。
【参考文献】	小学校学習指導要領解説、総則編 各教科編他 幼保小連携に関する図書。 「初等教育資料」2014 No.920 12月号 東洋館出版社
【学習する上での留意点】	小学校の教育内容と幼児教育の教育内容の共通性、連続性、異なる点を再検討する。

1. 科目名 (単位数)	幼児教育学特論 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP5312
2. 授業担当教員	関口 はつ江		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	教育という営みは何かの原点に戻りながら授業を進める。幼児教育の理念・歴史を基本に幼児教育の構造理解を深める。現代社会における幼児教育の特質を捉え、今後の幼児教育のあり方を検討する。近代幼児教育思想の流れを概括し、わが国の幼児教育の今日的課題を生涯発達における幼児期の意義、教育方法における保育・教育的関係形成の重要性を中心に講義する。わが国の幼児教育に強い影響力を持つと見られる倉橋惣三、津守真の考え方を詳論し、現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針に示されている基本理念、実践方法との関連の理解を図る。		
8. 学習目標	①子どもの在り様を社会の変化との関連で捉える。 ②幼児教育を学ぶものの基礎知識としての西欧及び我が国の幼児教育思想の流れを理解する。 ③保育者の立場から、関わりの中での幼児理解と客観的幼児理解の違いを理解し、保育的関係形成を可能にする幼児観の形成を図る。 ④最近求められている、義務教育の基礎としての幼児教育のあり方について考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	課題 1 近代幼児教育思想家の幼児教育の基本理念と現代の幼児教育実践への影響 課題 2 「遊び」を通しての保育における保育者の役割を述べる 課題 3 幼児教育と小学校教育との関連、及び幼児期の保育の基本		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 津守真『保育者の地平』ミネルヴェア書房 倉橋惣三『幼稚園真諦』フレーベル館 資料はその都度配布する。 【参考文献】 西平直『教育人間学のために』東京大学出版会 (2005) ボルノウ、O.F. 『人間学的に見た教育学』玉川大学出版部		
11. 成績評価の方法	評価 レポート内容 (理解度、思考力) 3回の課題レポート 各 20% 最終レポート (独自の問題選択にみられる事実の認識の明確さと見解の表現の的確さ) 40%		
12. 受講生への メッセージ	日頃から子どもの問題に関心を持ち、幼児の特性を理解し、幼児の立場から状況を捉える姿勢をもつこと、また、自分なりの見解を持つと共に、他者の意見や立場から学ぶ柔軟な態度を期待したい。		
13. オフィスアワー	後日通知		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	社会と子ども		
	【学習の目標】 社会における子どもの位置づけ、及び子ども観の歴史の変容、近代幼児教育思想の成立の背景を理解する。 【学習の内容】 (1) 中世から近代への生活形態の推移と子どもとおとなの関係の変化、及びその現代の状況との対比 (2) 社会の一員としての子ども、学習者としての子ども、消費者としての子ども、と言う変化が子どもの生活に与える影響 (3) 子どもの経験が生活から分断され、学習内容が総合性を失ったことの問題 【キーワード】 小さなおとな 子どもとおとなの生活の距離 学校への抱え込み 子どもの経験世界の分裂 【学習の課題】 (1) 生産活動、地域社会、家族形態等が子どもの在り方を決めていることを現代の子どもの状況で確認する。 (2) 子どもの問題を社会の長期的な変化との関連で認識する。 (3) 個人的に生起している問題を直接要因と間接要因で解釈する。 【参考文献】 高橋勝『文化変容の中の子ども』東信堂 本田和子『子ども 100 年のエポック』フレーベル館 【学習する上での留意点】 身近な子どもの問題をグローバルな視点で捉えようとする態度をもつ。		
3. テーマ	西欧の幼児教育思想 1 (19 世紀までの主な思想)		
	【学習の目標】 現代の幼児教育観の基礎となっている古典的思想を理解する。 【学習の内容】 (1) 「エミール」の一部から「子どもの発見」の意味することを理解する。 (2) 「人間の教育」の一部からフレーベルの思想の特質と幼稚園設立への繋がり、恩物の意義を理解する。 (3) 今日われわれがもっている保育への一般的態度との関連を考察する。 【キーワード】 ルソー、フレーベル、幼稚園の成立、恩物の意味 遊びの考え方 【学習の課題】 (1) なぜルソーが子どもの発見者と言われるのか。 (2) なぜフレーベルは幼稚園を設立したのか。それは今日の幼稚園と同じ役割であったのか。 (3) 教育において恩物を考案する必要性、及び恩物のその後の幼児教育に果たした役割 【参考文献】 1) 穴戸健夫他編著『保育思想の潮流』栄光教育文化研究所 2) 矢野智司著『子どもという思想』多摩川大学出版部 【学習する上での留意点】 古典と言われる書物に馴染む。		
4～5 テーマ	西欧の幼児教育思想 2 (19 世紀以降の主な思想と現在の幼児教育)		
	【学習の目標】 現代に強い影響を及ぼしている主な幼児教育思想を理解する。 【学習の内容】 (1) モンテッソーリの思想と教育方法 (教具)、教師の役割 (2) 新教育運動の流れ及びデュエイの思想と実践		

<p>【キーワード】 子どもの家、敏感期 モンテッソーリ教具 新教育運動、為すによって学ぶ</p> <p>【学習の課題】 (1) モンテッソーリの教育観と手法は今日の社会環境下の子どもにとってどのような長所短所が考えられるか。 (2) デューイの功績のうち現代社会において最も意味のあるものはどのようなことか。</p> <p>【参考文献】 上に同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 実際にモンテッソーリ教具について調べて具体的に考える。</p>	
<p>6 . テ ー マ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の基礎 1 (保育の黎明期)</p>
<p>【学習の目標】 我が国の幼稚園、保育所の成立過程から、現在の幼稚園、保育所問題のもつ根本的課題を考える。</p> <p>【学習の内容】 (1) 明治初期の教育政策と幼稚園の成立 (2) 幼稚園の保育内容、普及状況 (3) 保育所の成立過程と普及状況</p> <p>【キーワード】 東京女子師範学校附属幼稚園 倉橋惣三 和田実 赤沢鐘美</p> <p>【学習の課題】 (1) 幼稚園と保育所の性格の違いを歴史的に理解する。 (2) 我が国の子育ての伝統と初期の幼稚園、保育所の社会的役割及び保育内容との関連を考察する。</p> <p>【参考文献】 上に同じ</p>	
<p>7 . テ ー マ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の基礎 2 (保育法の展開)</p>
<p>【学習の目標】 倉橋惣三の保育論を理解し、現在の保育実践への影響と課題を考察する。</p> <p>【学習の内容】 倉橋惣三の保育論をテキスト「幼稚園真諦」から学ぶ (1) 教育の目的と対象 (2) 生活へ教育を (3) 幼児生活の自己充実 (4) 保育案 (5) 保育過程</p> <p>【キーワード】 児童中心主義 自己充実と充実指導 誘導保育 保育形態</p> <p>【学習の課題】 (1) 子ども中心の保育の意味を考える。 (2) 倉橋論における保育者の役割を理解する。 (3) 現在の保育の実際と倉橋の考えている保育の実際との隔たりについて考察する。</p> <p>【参考文献】 倉橋惣三『育ての心(上)(下)』フレーベル新書</p> <p>【学習する上での留意点】 倉橋の発想理解に際しては昭和時代前半の生活的な背景についても考える。</p>	
<p>8～10.テーマ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の思想 1 (子ども中心の保育)</p>
<p>【学習の目標】 倉橋の保育論から現代の保育論、特に津守真の保育論への繋がりを学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 テキスト「保育者の地平」1章から3章までを通して次の理解を深める。 (1) 子どもの諸能力の基礎とされている「存在感」「能動性」「相互性」「自我」が生れる過程を理解する。 (2) 保育の展開を支える子どもと保育者のつながり方</p> <p>【キーワード】 存在感 能動性 相互性 自我 子どもの世界 保育者の自己実現と子どもの自己実現</p> <p>【学習の課題】 (1) 「子どもの世界を生きる」ことが保育者の要件であるわけを理解する。 (2) 「今を充実させる」ことと「発達を促す」との間をどう考えるか。 (3) 子ども個々の活動テーマを理解することの重要性を考察する</p> <p>【参考文献】 津守真『子どもの世界をどうみるか』NHKブックス</p> <p>【学習する上での留意点】 具体的な事例を生き生きと感じると共に行為の意味を汲み取るようにする。</p>	
<p>11 . テ ー マ</p>	<p>我が国の現代の幼児教育の思想 2 (子どもの内面理解)</p>
<p>【学習の目標】 津守の保育論における保育の基本理念を理解し、現代の一般的教育観と比較する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 保育の中の「発達」の考え方 (2) 保育の状況性 (3) 表現としての理解 (4) 遊びの重要性 (5) 保育者の成長</p> <p>【キーワード】 保育の知 表現としての理解 身体的行為・知的行為としての保育</p> <p>【学習の課題】 (1) 「発達」を異なる視点(外的、内的、保育の関係で)考える。 (2) 遊びの内側にあるもの、行為の意味を例をあげて解釈する。 (3) 真の関係(「なる」関係)の真意を理解する。 (4) 津守の保育実践を能力開発的立場からはどうみるか考察する。</p> <p>【参考文献】 上に同じ</p> <p>【学習する上での留意点】 早期幼児教育論の発想との違いを十分考える。</p>	
<p>12~13.テーマ</p>	<p>現在の幼児教育の当面する課題 (子どもの生活経験、発達状況への対応)</p>
<p>【学習の目標】 現代の子どもの発達の課題に対する集団保育の役割を考察する。</p> <p>【学習の内容】 (1) 集団保育における保育者と子どもの関係(特に、今の子どもの育ちを踏まえて保育的關係体験の重要性) (2) 仲間関係との関わりの体験の重要性 (3) 生活経験、生活習慣形成の場としての幼稚園、保育所</p> <p>【キーワード】 集団生活への適応 生活習慣の自立 遊びにおける自己表現 保育者との信頼関係</p> <p>【学習の課題】 (1) 集団に入りにくい子どもに対する保育者の役割や子ども同士の関係を深めるための配慮を考える (2) 発達や生活経験に偏りのある子どもの集団への適応の過程、援助のしかたを考える</p> <p>【参考文献】 1) 大宮勇雄『保育の質を高める』ひとなる書房 2) バーバラ・ロゴフ『文化的営みとしての発達』新曜社</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもを育ちを個人と社会、集団との両面から捉え、その相互影響を考える</p>	
<p>14~15.テーマ</p>	<p>義務教育の基礎としての幼児教育</p>
<p>【学習の目標】 これまでの授業内容を基礎として、生活の中で積み上げる保育、系統的な教育課程による学習を行う小学校以上の教育との目的及び方法上の違いを踏まえ、幼児期に育てておくべきこととその後の教育との接続のあり方を考察する。</p>	

【学習の内容】	(1) 現在幼小の連携問題の所在 (2) 子どもの育ち、環境、経験からの課題 (3) 教育目的内容方法上からの課題 (4) 課題解決のための保育実践上の専門的方策
【キーワード】	義務教育の基礎としての児期の発達 幼小連携・接続 専門機関の連携 保育の専門性
【学習の課題】	(1) 幼児の教育と小学校教育の目的の違いと教育法との関連を理解する。 (2) 現在行われている幼小連携の実践法とその理念、効果を考える。 (3) 真に義務教育の基礎となっているものは何かを考える。 (4) 幼児期の専門的な教育者の力量の育成を考える
【参考文献】	1) 幼・小の「接続」の幼児教育課程論的研究：幼小段差の視点から（玉置哲淳研究代表科学研究費補助金） 大阪教育大学 2008.3 2) ドナルド・ショーン『専門家の知恵』ゆりみ出版
【学習する上での留意点】	人間形成や発達の基礎、適応や学習効果、それぞれについて深く考え、子どもの立場で幼児教育を考える

1. 科目名 (単位数)	幼児教育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6312
2. 授業担当教員	関口 はつ江		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	<p>幼稚園、保育所等における実践に関する論文講読、および保育現場への参加観察等を通して、複雑な実践状況を的確の把握し、課題等を発見し、改善への方策を考える力を養う。保育の具体的保育状況の展開過程分析、子どもと保育者との関係や内面の理解とを演習形式で学ぶ。</p> <p>授業参加者の基礎体験、保育についての知識の量に幅があることが予想される。保育を取り巻く現実的問題を導入として、現在の保育実践法の理解へと進める。授業の進行状況に合わせて、柔軟な進捗を考えている。なお、本科目名は「幼児教育実践演習」であるが、本講では保育や子どもを用いることもある。「幼児教育」と「保育」の使い分け、「幼児」と「子ども」の使い分けについては授業の中で説明する。</p> <p>授業は学生が交代でレポーターの役割をとって話題提供をする方法をとる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 幼児の生活と経験の基本的特質の理解を深める。 2 実践とは何か、幼児教育実践の特質理解を深める。 3 現在の、多様な幼児教育実践法の違い、実践上の課題を理解する。 4 文献(実践に関する論文等)からの読み取りと実践現場における読み取りの両方を目指す。 5 実践状況を分析的にとらえる力を養う。 6 実践を捉える視点をもち、的確に評価できるようになる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの生活実態、幼児教育の社会的位置づけや理解、保護者の意識期待等今日的課題を考察してレポートする。(レポートの書き方、資料等については初回の授業にて伝える) 2 幼稚園、保育園、認定子ども園のいずれかを観察し、または資料によって生活の実践記録を研究し、保育実践法、子どもの生活実態、保育上の課題をレポートする。 (観察園、資料、記録のとり方、分析、まとめ方は事前に打ち合わせる) <p>最終レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 多様な保育実践法(縦割り保育、チーム保育、オープンエデュケーション、野外保育、モンテッソーリ法、才能教育その他)の1, 2の例を選択し、保育見学または資料を通して、その実践が目指していること(理念)とその実践状況、教育効果の関連分析をし、レポートする。 (観察園、資料収集等については事前に打ち合わせる) 		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 特に指定なし</p> <p>【参考文献】 基本的なものは授業毎に提示している。示されたものの中から選択して講読のこと。重要な部分は印刷して事前に配布する予定。授業進行に合わせて、最近発表された論文数編を紹介し、授業教材または参考資料として扱う。</p>		
11. 成績評価の方法	日常の授業態度(発言、出席状況) 40%、 レポート(3回) 60%		
12. 受講生への メッセージ	<p>幼児教育の理論や実践について、時代の流れや識者の意見にとらわれずに、真に「実際に即して」「子どもを通して」考える姿勢を大切にします。また、論文を丁寧に読み、論文作成法を学ぶと共に、率直に疑問を持ち、課題を発見するようにして下さい。</p> <p>授業では、わからないこと、しらないことを自由の出し合える雰囲気を作りたいと思います。</p>		
13. オフィスアワー	時間割が決められてから、指定します		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	幼児教育実践の今日的課題1 —社会的背景、制度的側面—		
【学習の目標】	幼児教育実践の今日的課題1 —社会的背景、制度的側面— 現在わが国の幼児教育を取り巻く社会的背景を理解する 幼児教育の学校教育、家庭教育、社会教育における位置づけ、社会的ニーズについて理解し、理念と現実、親の期待と子どもの実態間のずれ等現実的問題を考察する、		
【学習の内容】	幼稚園、保育所、子ども園等における子どもの生活、保育内容、幼児教育への期待等今日的課題をレポートし、問題の所在を討論する		
【キーワード】	幼児教育の目的、学校教育としての幼稚園、義務教育の基礎 幼児の生活実態 社会・家庭のニーズ		
【学習の課題】	生涯発達の過程としての幼児期に教育されるべきことはなにかを、学校教育としての幼児教育、および家庭・地域の教育の補完としての視点から探る。		
【参考文献】	教育基本法 学校教育法、幼稚園教育要領、 佐藤・広田編著『変貌する教育学』世織書房 加藤繁美『早期教育が育てる力、奪うもの』ひとなる書房 1995 パトリシア、チャーランド『脳が作る倫理』化学同人 2013		
【学習する上での留意点】	当たり前とされている幼児教育実践を取り巻く環境について、改めてその状況を捉えなおし、実践が環境条件と深く関わっていることを考える。		
3～4. テーマ	幼児教育実践の今日的課題2 —子どもの生活実態と発達、—		
【学習の目標】	現代という生活環境と子どもの育ち方から幼児教育のあり方を考える、		
【学習の内容】	現代人の暮らし方の子どもの発達への影響を、幼児らしさ、幼児にふさわしい生活の保障内容について理解する、		
【キーワード】	都市化 効率主義 生涯発達における幼児期の意味 幼児の発達の特性 子どもの自己形成空間		
【学習の課題】	保育と教育・養護の関連を明確にし、幼児期に必要な体験を確認する、		
【参考文献】	渡部信一『ロボット化する子どもたち—学びの認知科学』大修館書店 高橋勝『経験のメタモルフォーゼ—自己形成の教育人間学—』勁草書房		

【学習する上での留意点】	現代社会が幼児期の自発的、主体的な発達環境としてどのような特徴を持っているのか、常識的一般論にとらわれずに客観的、実証的に考える。
5～7. テーマ	幼児教育実践の今日的課題3 —保育施設内の課題—
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【参考文献】	わが国の施設保育（幼稚園、保育所、認定子ども園）3施設が実施されていることの必要性和問題点を考察する 幼稚園、保育園、認定子ども園のいずれかを訪問、または生活の実態記録を研究し、子どもの一日の生活実態の比較、保育上の課題のレポートを作成報告し、討論する 教育課程、保育課程、生活日課、生活習慣形成、保育者と幼児の関係 「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」他、 幼稚園、保育所に関する法律、条令 等 津守真『乳幼児期の発達課題と保育』保育学研究 43, 1, 12-18 2005 本田和子『現代における乳幼児の発達課題と保育』保育学研究 43, 1, 19-26 2005
【学習する上での留意点】	子どもの生活や人間関係がどのように展開しているのか、実際に即して子どもの身になって考える。環境に規定される子どもの立場と、子どもがそれにどう適応しようとしているかを考える。
8～10 テーマ	幼児教育実践研究1
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	倉橋惣三の保育論、状況的学習論、系統的教育の有効性を考える 幼児が充実する、生活の中で学ぶ、環境を通しての保育等の意味を、保育実践（保育者の行為）との関係で考える。保育実践ビデオについての討論を含める。論文講読。 自己充実 充実指導 生活と学習 発達経験 幼児の発達経験、幼児の主体的学びとは、それはどのように保育者に支えられているのか、その過程を理解する。 倉橋惣三『保育法真諦』フレーベル館 ジーン・レイブ他『状況に埋め込まれた学習』産業図書 津守真『保育者の地平』ミネルヴァ書房 田中まさ子『幼児教育方法史研究』風間書房
【学習する上での留意点】	保育は「子どもと保育者のかかわりである」ことを踏まえる。子どもが体験していること、そこで起きていることを、実感を持って感じ取る
11. テーマ	幼児教育実践研究2 —保育的關係形成と省察—
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	保育者は、実践主体者としてどのようにして幼児と関係を結び、保育を展開するか、自分の保育の振り返り、他者との共有、その過程と困難さを理解する。 保育（幼児教育）は保育者と幼児の保育的關係の形成が基底にあること、幼児の行動を保育者に向けられた表現と捉え、どのようにして活動をささえ、充実・発展をはかるか。保育者個々の体験をどのように共有するかについて考察、討論する。 保育行為 保育者と幼児の相互作用 幼児の行為の解釈 保育の省察 保育的な關係形成はどのようになされるのか、教育、養育との違いを具体的に把握する。その際に、自分の体験（日常的な体験も含めて）を必ずレポートする。 津守真『保育の体験と思索』大日本図書
【学習する上での留意点】	概念的な言葉を自分の言葉で吟味、説明し、実感として受け止め、討論するようにする
12. テーマ	幼児教育実践研究3 （相互主体性とエピソード記録）
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	保育における保育者・幼児の関係を相互主体的な関係とする理論の理解 保育における保育者と幼児の関係を相互主体的関係とする立場からの具体事例を考察し、エピソード記録の書き方を理解する 相互主体性 間主観性 エピソード記録、観察記録 保育過程の体験の仕方、「エピソード」の意味、観察者記録と保育者記録の違い等を扱う。事前にエピソード記録を読み、実践者の認識の仕方、他の記録との関連を考察する。 鯨岡峻『ひとがひとをわかるということ 間主観性と相互主体性』ミネルヴァ書房 マイケル・ブブア他『質的研究法キーワード』金子書房 鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会 鯨岡峻・鯨岡和子『エピソード記述で保育を描く』ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	概念的な言葉を自分の言葉で吟味説明し、実感として受け止め討論するようにする
13～15. テーマ	幼児教育実践研究4—幼児教育実践の評価—
【学習の目標】 【学習の内容】 【キーワード】 【学習の課題】 【参考文献】	現在実践されている多様な保育の根拠及び、今期待されている「生きる力の基礎」となる保育実践の根本は何かを踏まえて、保育実践を的確に評価する観点を把握する。 多様な保育実践法（縦割り保育、チーム保育、オープンエデュケーション、野外保育、モンテッソーリ法、才能教育その他）のいくつかを選択し、保育見学または資料を通して、その実践がめざしていること（理念）とその結果を捉え、実践の意味を考える。保育は制度的・社会的・政治的・経営的要請、創設者の理念、実践者の力量等、多くの条件下におかれている。「個々の幼児の生活の充足と育ちの保障」との根本を踏まえて、純粋に「幼児のための保育実践」を考える。 幼児の発達保障、教育・保育課程と実践法、保育実践の倫理 授業参加者が、身近な保育実践または関心や課題性を感じる保育実践1例を詳細にレポートし、討論を通して評価しあう。レポート内容、期日は事前に打ち合わせる。 久富陽子、梅田優子『保育方法の実践的理解』萌文書林 ピーター・シンガー 山内他訳『実践の倫理』 （第2章平等とその意味するもの）第12章（なぜ道徳的に行為するのか）昭和堂
【学習する上での留意点】	自分なりの「保育実践を見る目」を確かにするために、互いの意見を尊重しつつ、主観や先入観にとらわれずに充分納得いく議論をするようにする。